大倉幕府跡（№253）

雪ノ下三丁目704番3外地点

例言

１．本書は鎌倉市雪ノ下三丁目704番3外地点に所在する、個人専用住宅の新築に先立ち行われた大倉幕府跡(県遺跡台帳№253)の発掘調査報告書である。

２．発掘調査は平成17年10月25日から翌平成18年１月27日にかけて、鎌倉市教育委員会文化財課が実施した。

３．本書使用の遺構図及び遺物実測図は調査員が分担し、原稿執筆は福田 誠が担当して編集は福田が行った。

４．本書に使用した写真のうち全景写真・個別遺構写真は福田・古田土俊一、遺物撮影は須佐仁和、田畑衣理が行った。

５．発掘調査・整理作業の体制は以下の通りである。

発掘調査

主任調査員　福田 誠(鎌倉市教育委員会嘱託)

調　査　員　石元道子　神山晶子　菊川 泉　古田土俊一　鈴木絵美

作　業　員　(社)鎌倉市シルバー人材センター

奥山利平　河原龍雄　田口康雄　宝珠山秀雄

整理作業

主任調査員　福田 誠(鎌倉市教育委員会嘱託)

調　査　員　石元道子　菊川 泉　須佐仁和　田畑衣理　吉田桂子

調査補助員　佐藤ななみ(東海大学学生)　平山千絵

６．発掘調査資料(記録図面・写真・出土遺物)は、鎌倉市教育委員会が一括保管している。

本文目次

第１章　調査地点の位置と歴史的環境 ---------- 6
第２章　調査の経過と層序 ---------- 8
第３章　検出した遺構と遺物 ---------- 13
　第１節　第１面の遺構と遺物 ---------- 13
　第２節　第２面の遺構と遺物 ---------- 13
　第３節　第３面の遺構と遺物 ---------- 13
　第４節　第４面の遺構と遺物 ---------- 18
　第５節　第５面の遺構と遺物 ---------- 36
　第６節　第６面の遺構と遺物 ---------- 36
　第７節　第７面の遺構と遺物 ---------- 55
　第８節　第８面の遺構と遺物 ---------- 55
　第９節　第９面の遺構と遺物 ---------- 68
　第10節　第10面の遺構と遺物 ---------- 68
第４章　まとめ ---------- 78
附　編　花粉分析 ---------- 100

遺物観察表 ---------- 79

挿図目次

図１　遺跡位置図 ---------- 5
図２　調査地点座標と近接する遺跡 ---------- 7
図３　土層断面図 ---------- 9
図４　１面全測図 ---------- 14
図５　表採・表土出土遺物 ---------- 15
図６　トレンチ・撹乱出土遺物 ---------- 16
図７　１面まで出土遺物１ ---------- 17
図８　１面まで出土遺物２ ---------- 18
図９　１面・１面遺構出土遺物 ---------- 19
図10　１面構成土出土遺物１ ---------- 20
図11　１面構成土出土遺物２ ---------- 21
図12　１面構成土出土遺物３ ---------- 22
図13　１面構成土出土遺物４ ---------- 23
図14　１面構成土出土遺物５ ---------- 24
図15　１面構成土出土遺物６ ---------- 25
図16　１面構成土出土遺物７ ---------- 26
図17　１面構成土出土遺物８ ---------- 27
図18　１面構成土出土遺物９ ---------- 28
図19　２面全測図 ---------- 29
図20　２面出土遺物１ ---------- 30
図21　２面出土遺物２ ---------- 31
図22　２面出土遺物３ ---------- 32
図23　２面出土遺物４ ---------- 33
図24　２面出土遺物５ ---------- 34
図25　２面出土遺物６ ---------- 35
図26　２面遺構出土遺物 ---------- 36
図27　２面構成土出土遺物１ ---------- 37
図28　２面構成土出土遺物２ ---------- 38
図29　２面構成土出土遺物３ ---------- 39
図30　２面構成土出土遺物４ ---------- 40
図31　２面構成土出土遺物５ ---------- 41
図32　２面構成土出土遺物６ ---------- 42
図33　２面構成土出土遺物７ ---------- 43
図34　２面構成土出土遺物８ ---------- 44
図35　２面構成土出土遺物９ ---------- 45
図36　２面構成土出土遺物10 ---------- 46

図37　２面構成土出土遺物11 ---------- 47
図38　２面構成土出土遺物12 ---------- 48
図39　３面全測図 ---------- 49
図40　３面・３面遺構出土遺物 ---------- 50
図41　３面構成土出土遺物 ---------- 51
図42　４面全測図 ---------- 52
図43　４面・４面遺構出土遺物 ---------- 53
図44　４面構成土出土遺物１ ---------- 54
図45　４面構成土出土遺物２ ---------- 55
図46　４面構成土出土遺物３ ---------- 56
図47　４面構成土出土遺物４ ---------- 57
図48　５面全測図 ---------- 58
図49　５面・５面遺構出土遺物 ---------- 59
図50　５面構成土・６面出土遺物 ---------- 60
図51　６面全測図 ---------- 61
図52　６面遺構出土遺物１ ---------- 62
図53　６面遺構出土遺物２ ---------- 63
図54　６面構成土出土遺物１ ---------- 64
図55　６面構成土出土遺物２ ---------- 65
図56　７面全測図 ---------- 66
図57　７面出土遺物 ---------- 67
図58　７面遺構出土遺物 ---------- 68
図59　７面構成土出土遺物１ ---------- 69
図60　７面構成土出土遺物２ ---------- 70
図61　８面全測図 ---------- 71
図62　８面・８面遺構出土遺物 ---------- 72
図63　８面構成土・９面出土遺物 ---------- 73
図64　９面全測図 ---------- 74
図65　10・地山面全測図 ---------- 75
図66　９面構成土・10面・地山面出土遺物 --- 76
図67　大倉幕府跡の主要花粉化石分布図 ------102

図版目次

図版１　１面・２面の遺構 ---------- 104
図版２　３面の遺構 ---------- 105
図版３　４面の遺構 ---------- 106
図版４　５面の遺構 ---------- 107
図版５　６面・７面の遺構 ---------- 108
図版６　８面・９面・最終面の遺構 ---------- 109
図版７　１面・１面遺構出土遺物 ---------- 110
図版８　２面・２面遺構・２面構成土出土遺物 111
図版９　３面・３面遺構出土遺物 ---------- 112
図版10　４面・４面遺構出土遺物 ---------- 113
図版11　５面・５面遺構・５面構成土出土遺物 114
図版12　６面遺構出土遺物 ---------- 115
図版13　６面構成土・７面・７面遺構出土遺物 116
図版14　８面・８面遺構・９面・９面遺構・地山面出土遺物 ---------- 117
図版15　自然遺物 ---------- 118
図版16　花粉 ---------- 119

遺物観察表

表１　遺物観察表 ---------- 74
表２　産出花粉化石一覧表 ---------- 103

鎌倉市
神奈川県
大倉幕府跡
鎌倉市
御成町
笹目町
浄明寺
二階堂
山之内
逗子市
由比ヶ浜
材木座海岸
和賀江島
500m
0
500
1000
1500

図１　遺跡位置図

第１章　調査地点の位置と歴史的環境

第１節　調査地点の位置

本調査地点は鎌倉市雪ノ下三丁目704番3外に所在する。源頼朝の御所でもある大倉幕府が置かれた一角に位置するものと考えられる。現在、遺跡地の東には、南北方向に延びる道路を隔てて清泉小学校がある。調査地点から北に約125m、南北道路の北端、山の中腹に源頼朝墓(源頼朝法華堂)がある事からも、調査地点は鎌倉時代前期に大倉幕府の置かれた中心地域に位置していると思われる。現地表の海抜は約13.3m前後である。

第２節　歴史的環境と周辺における調査

治承４年(1180)10月、源頼朝は源氏ゆかりの地である鎌倉入りを果たした。源頼義が前九年役の戦勝祈願のために、石清水八幡宮から勧請した由比若宮を移し鶴岡八幡宮とした。また、亀ヶ谷にあった父義朝の館跡に居館を構えようとしたが、手狭な上、岡崎義実により義朝の菩提を弔う堂が建立されていたため断念。改めて大倉に居を構えた。新造なった御所で12月12日に行われた移徙の儀を見ると、御所は寝殿を中心とした建物が並ぶ寝殿造で、西ノ對に造られた侍所は長さ18間にも及び、三百十一人の御家人が二行に対座している。この大倉御所は源氏三代45年に渡り使われることになるが、この間に火災で消失・再建が繰り返され大きく４時期に分けることが出来る。

大倉幕府の時代

第１期大倉御所　治承４年(1180)12月12日～建久２年(1191)　小町大路からの火災で焼失。

第２期大倉幕府　建久２年～建保元年(1213)　和田合戦で戦火により消失。

第３期大倉幕府　建保元年～承久元年(1219)　火災で焼失。

第４期大倉幕府　承久元年～嘉禄元年(1225)12月20日　宇津宮辻子へ移転。

嘉禄元年に宇津宮辻子へ幕府は移転する。

大倉幕府移転後の時代

嘉禎元年(1235)９月１日　右大将家法華堂前の湯屋から失火。『吾妻鏡』

宝治元年(1247)１月13日　右大将家法華堂前の人家数十宇が失火。北条実時の屋敷もこの中に含まれていた。『吾妻鏡』

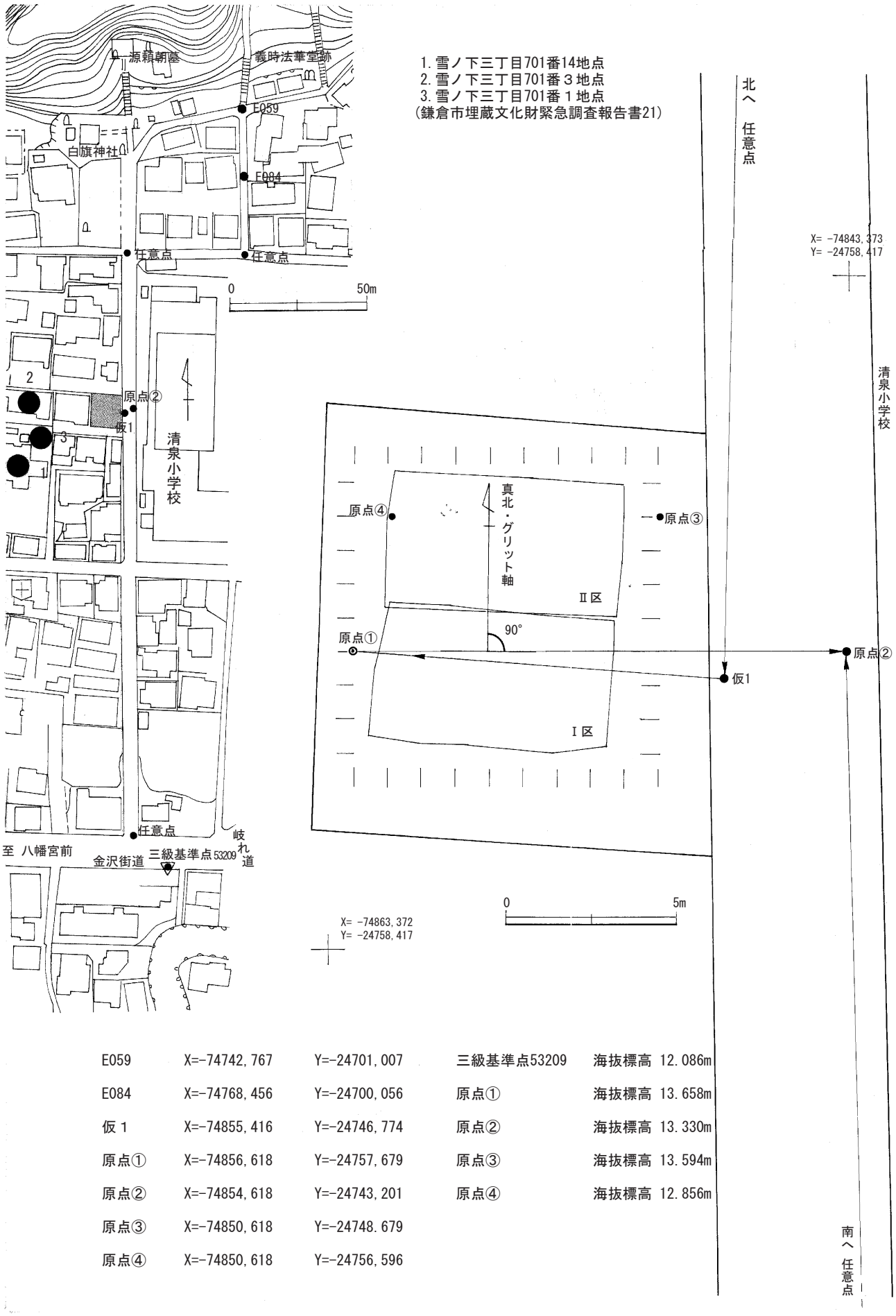
康元元年(1256)12月11日　右大将家法華堂前が焼け、勝長寿院も焼けている。『吾妻鏡』

移転後の土地利用は明らかにされていないが、火災の記録から有力御家人の屋敷や人家等があったことが分かる。

大倉幕府跡内の調査は件数は多くない。1974年に行われた大倉幕府跡内の工事(清泉小学校)で出土した遺物紹介(1)を初めとして、当遺跡(2005年10月調査)の他に６地点が報告されている。この内の雪ノ下三丁目701番14地点、雪ノ下三丁目701番３地点、雪ノ下三丁目701番１地点の３地点(2)は当遺跡の西側２軒隣に位置している。

(1)『鎌倉市埋蔵文化財調査年報Ⅰ』「昭和49年各種工事による出土遺物」

(2)『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書21-1』



E059	X=-74742,767	Y=-24701,007	三級基準点53209	海抜標高 12.086m
E084	X=-74768,456	Y=-24700,056	原点①	海抜標高 13.658m
仮１	X=-74855,416	Y=-24746,774	原点②	海抜標高 13.330m
原点①	X=-74856,618	Y=-24757,679	原点③	海抜標高 13.594m
原点②	X=-74854,618	Y=-24743,201	原点④	海抜標高 12.856m
原点③	X=-74850,618	Y=-24748.679		
原点④	X=-74850,618	Y=-24756,596		

図２　調査地点座標と近接する遺跡

第２章　調査の経過と層序

第１節　調査の経過

大倉幕府跡（県遺跡台帳№253）内で、個人専用住宅の建設に係わり基礎工事で土壌改良工法の事前相談があった。近接する地域で行われた発掘調査の成果から、埋蔵文化財が受ける影響は大きいと判断、発掘調査を行うこととなった。

施工業者との事前打ち合わせが行われ、発掘調査の準備が進められた。平成17年10月25日に調査を開始、翌平成18年１月27日まで調査が行われた。調査面積は約56㎡である。

以下、日誌の抜粋を載せることとする。

10月25日　調査開始。機材搬入。市内国土座標原点より座標移動を行う。
10月26日　１区壁面と第１面の面出し・精査を行う。検出した遺構を掘り下げる。
11月14日　３面の面出し作業。溝状落ち込みと柱穴列を検出する。
11月30日　貝砂を敷き詰めた第６面を検出する。瓦片が多い。
12月８日　１区第８面の調査。
12月５日　１区の平面図、全景写真を終え１区の調査終了。
12月８日　２区壁面と第１面の面出し・精査を行う。
１月４日　柱穴多数と板壁を検出する。土壙の掘り下げを行う。
１月20日　２区第８面、礎石と雨落ち溝とおぼしき南北方向の溝の詳細図と写真撮影。
１月27日　調査壁面の図面作成の後、全景写真撮影。調査終了。

第２節　層序（図３）

地表の海抜は敷地の東側で約13.30ｍ、西側で13.65ｍで西側が約30㎝ほど高い。

Ⅰ区(南側)、Ⅱ区(北側)に分割して調査を行った敷地は、地表下約0.5～１ｍまで盛土、攪乱と旧表土であった。重機による表土掘削を0.5～１ｍまでとし掘削時に立ち会った。ここで最初に検出された遺構面を第１面とした。地表から地山面まで約3.2～3.3ｍ程もあり湧水に悩まされた。

土層一覧

１．盛土
２．旧表土
３．土丹地業層‥第１面
４．灰褐色粘質土層‥２面
５．土丹地業層
５’．土丹地業層（地業やや弱い）
６．黒褐色粘質土層
７．灰褐色粘質土層（拳大の土丹、木片、かわらけ片含む）
７’．灰褐色粘質土層（７よりやや砂が多い）
８．灰褐色粘質土層（５㎜～１㎝大の土丹粒多い）‥第３面
９．暗褐色砂質土層

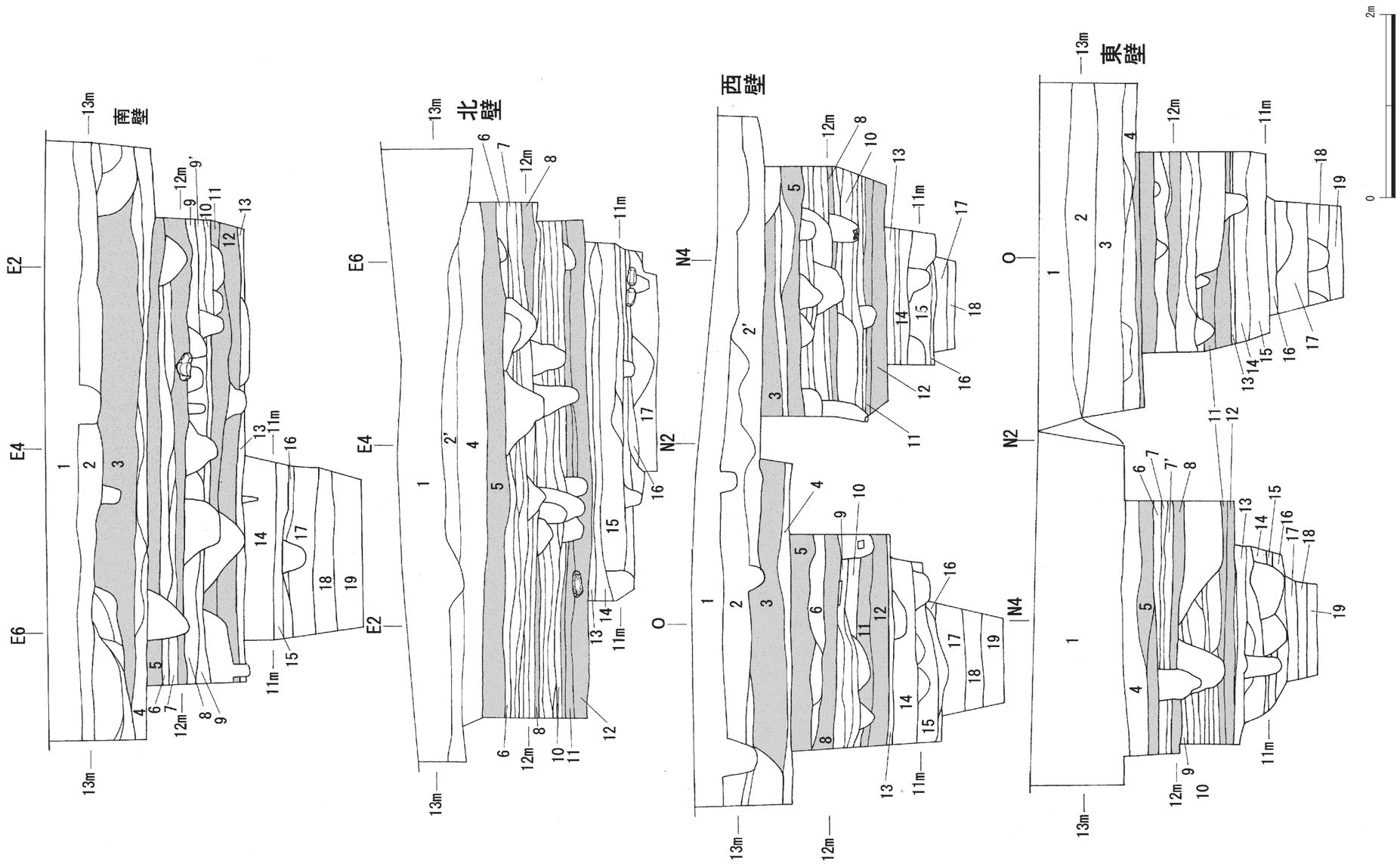


図３　土層断面層

９’暗褐色砂質土層（土丹粒やや多い）
10. 土丹地業層（５～10㎝大の土丹密）‥４面
11. 土丹地業層（叩き締めてある）‥５面
12. 土丹地業層（拳～人頭大の土丹密）
13. 灰褐色砂層（貝混じりの砂）‥６面
14. 青灰色砂質土層‥７面
15. 青灰色砂質土層（５～10㎜の土丹粒多い　茶褐色砂質土混じる）‥８面
16. 暗灰色砂質土層（部分的に砂層）
17. 黒褐色粘質土層（貝混じりの砂が入る）
18. 黒褐色砂質土層（砂が多い）‥９面
19. 黒灰色砂質土層（地山　混入物なし）‥10面・地山面

第３章　検出した遺構と遺物

第１節　第１面の遺構と遺物（図４、図５～18　図版１・７）

旧地表下に広がる第３層、土丹地業面(海抜約13.0m)を第１面とした。柱穴５、土壙４、布掘り１、溝１を検出した。溝は北から南に向かい清泉小学校の敷地西辺、北に位置する頼朝法華堂跡に向かう南北道路に沿って約7.5m分検出したもので、南北に延びる溝の西岸のみの検出である。深さは約40～50㎝程である。柱穴は東西に４穴横に並ぶが間隔はバラバラである。東西に延びる布堀１は２層に分層でき、溝と直行する。溝は第１面を掘り込んでいることから近世の遺構と考えられる。

遺構からは瀬戸折縁皿、卸皿、水注、白磁合子、瓦質火鉢、鉄釘、砥石が出土している。溝出土の瀬戸の折縁皿は、古瀬戸後期後半(15世紀中葉頃)と考えられる製品である。砥石は鳴滝産仕上げ砥である。

第１面の時期は、出土した瀬戸の製品などから15世紀後半と考えられる。

第２節　第２面の遺構と遺物（図19・図20～38　図版１・８）

地表から約１m下の第４層、第１面土丹地業面の下、灰褐色粘質土層(海抜約12.5～12.7m)を第２面とした。柱穴を41穴を検出した。中に礎板を持つものが13穴ある。南北方向に延びそうだが、建物になるかは明らかでない。

出土した遺物を見て行くと、かわらけ、青磁折縁皿、青白磁水注、瀬戸入子、常滑片口鉢、瓦質火鉢、女瓦、砥石、銭、漆器椀が出土している。この中で一番新しいものは15世紀後半代、常滑10型式のⅡ類片口鉢である。

第２面構成土中からは多くのかわらけと白磁口兀皿・劃花文皿、青磁鎬蓮弁文碗・折縁皿、瀬戸入子、備前擂鉢、常滑甕・片口鉢、瓦類、伊勢土鍋、滑石鍋、銭、釘、木製品（箸・箆・下駄・草履芯・独楽）、漆器皿・椀、烏帽子等が出土している。

第２面の時期は14世紀後半と考えられる。

第３節　第３面の遺構と遺物（図39・図40・図41　図版２・９）

地表から約1.4m下の第８層、土丹事業面(海抜約12.2m)を第３面とした。東西方向の溝状遺構１と柱穴を12穴、鎌倉石の切石を10個検出した。溝状遺構の規模は幅約80～100㎝、長さ4.7m、深さ20～30

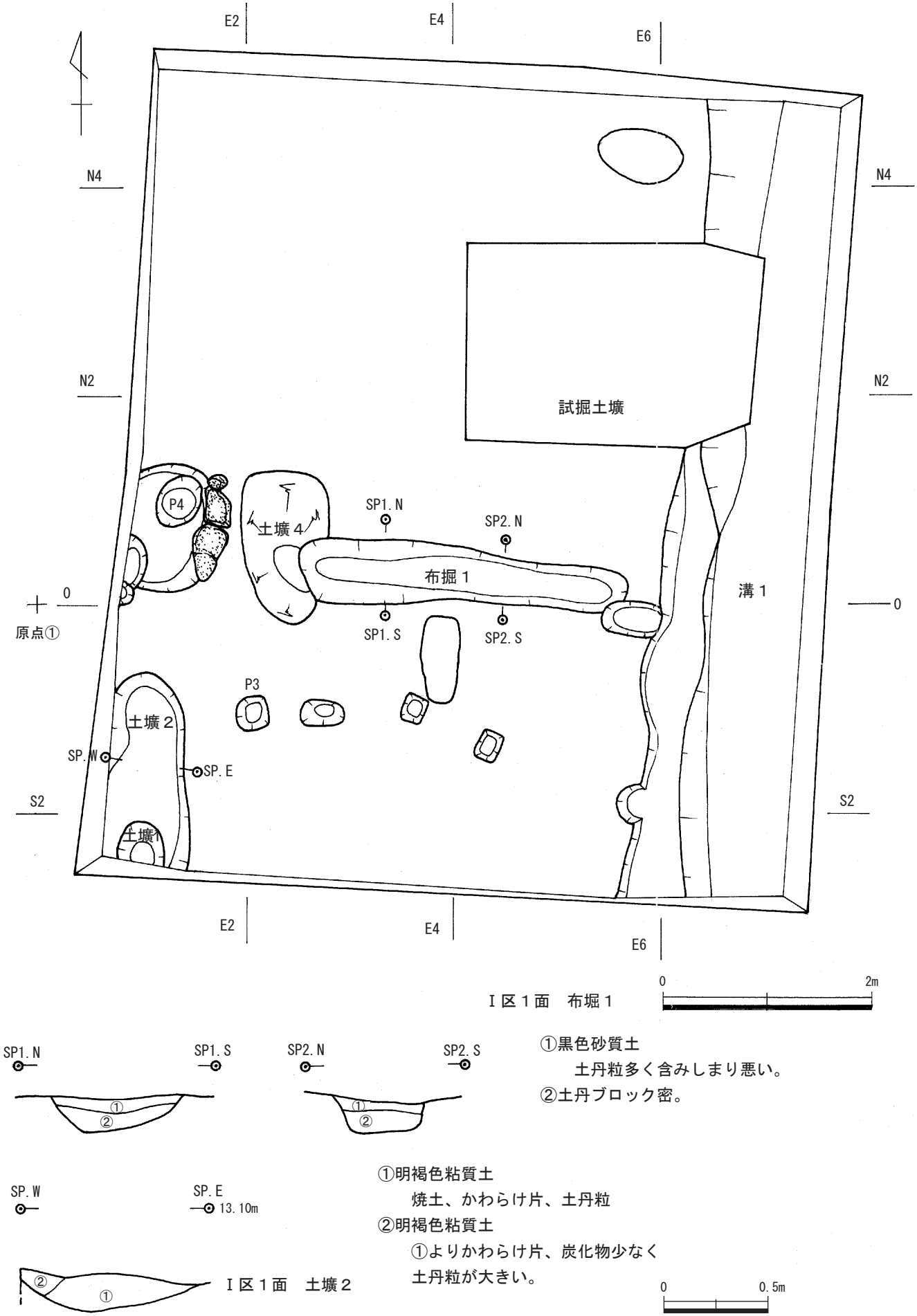

E2
E4
E6
N4
N2
S2
試掘土壙
P4
土壙４
SP1.N
SP2.N
布掘１
溝１
0
原点①
SP1.S
SP2.S
P3
土壙２
SP.W
SP.E
土壙１
Ⅰ区１面　布掘１
0
2m
SP1.N
SP1.S
SP2.N
SP2.S
①
②
①黒色砂質土
土丹粒多く含みしまり悪い。
②土丹ブロック密。
SP.W
SP.E
13.10m
①明褐色粘質土
焼土、かわらけ片、土丹粒
②明褐色粘質土
①よりかわらけ片、炭化物少なく
土丹粒が大きい。
Ⅰ区１面　土壙２
0
0.5m

図４　１面全側図

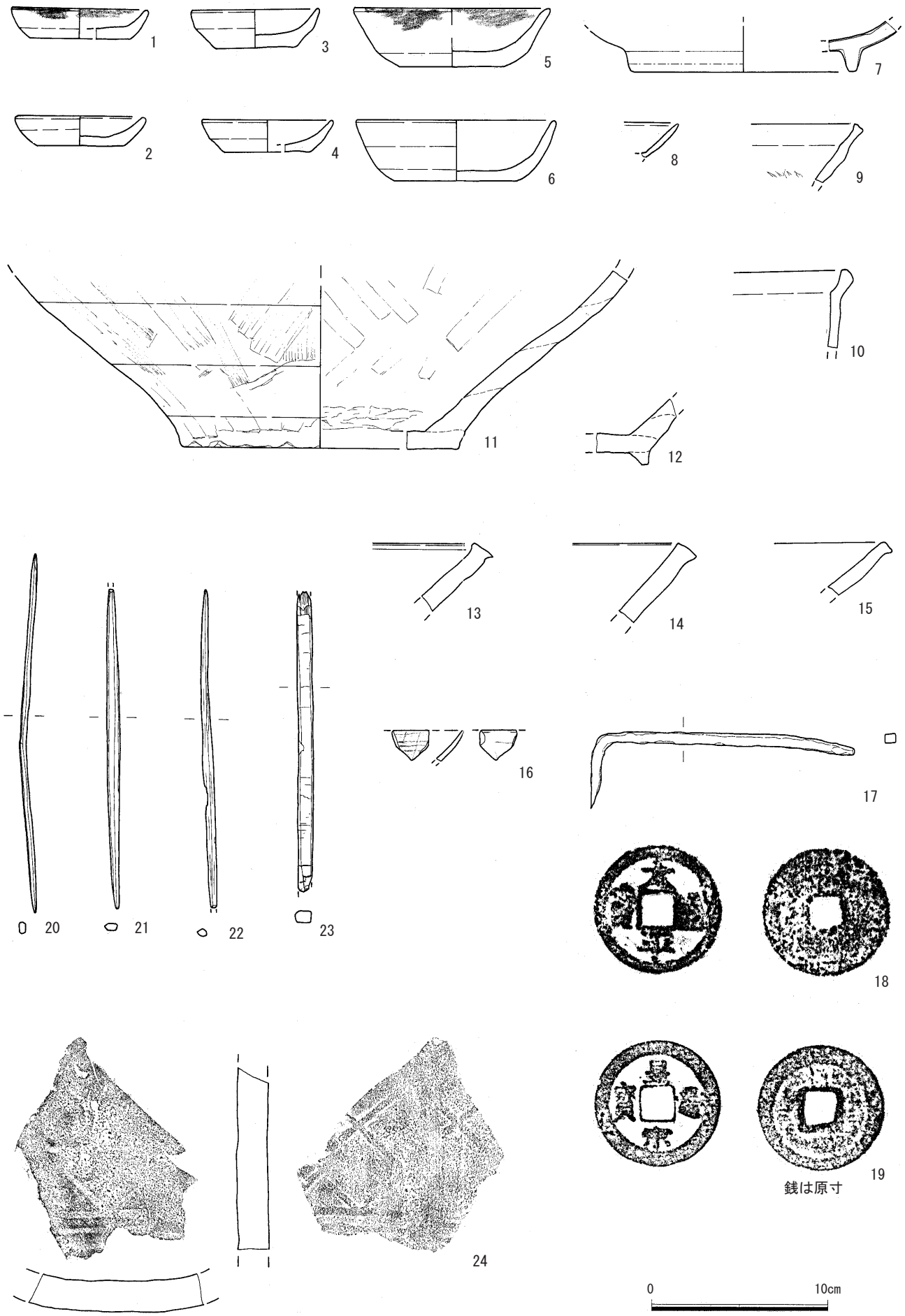


図５　表採・表土出土遺物

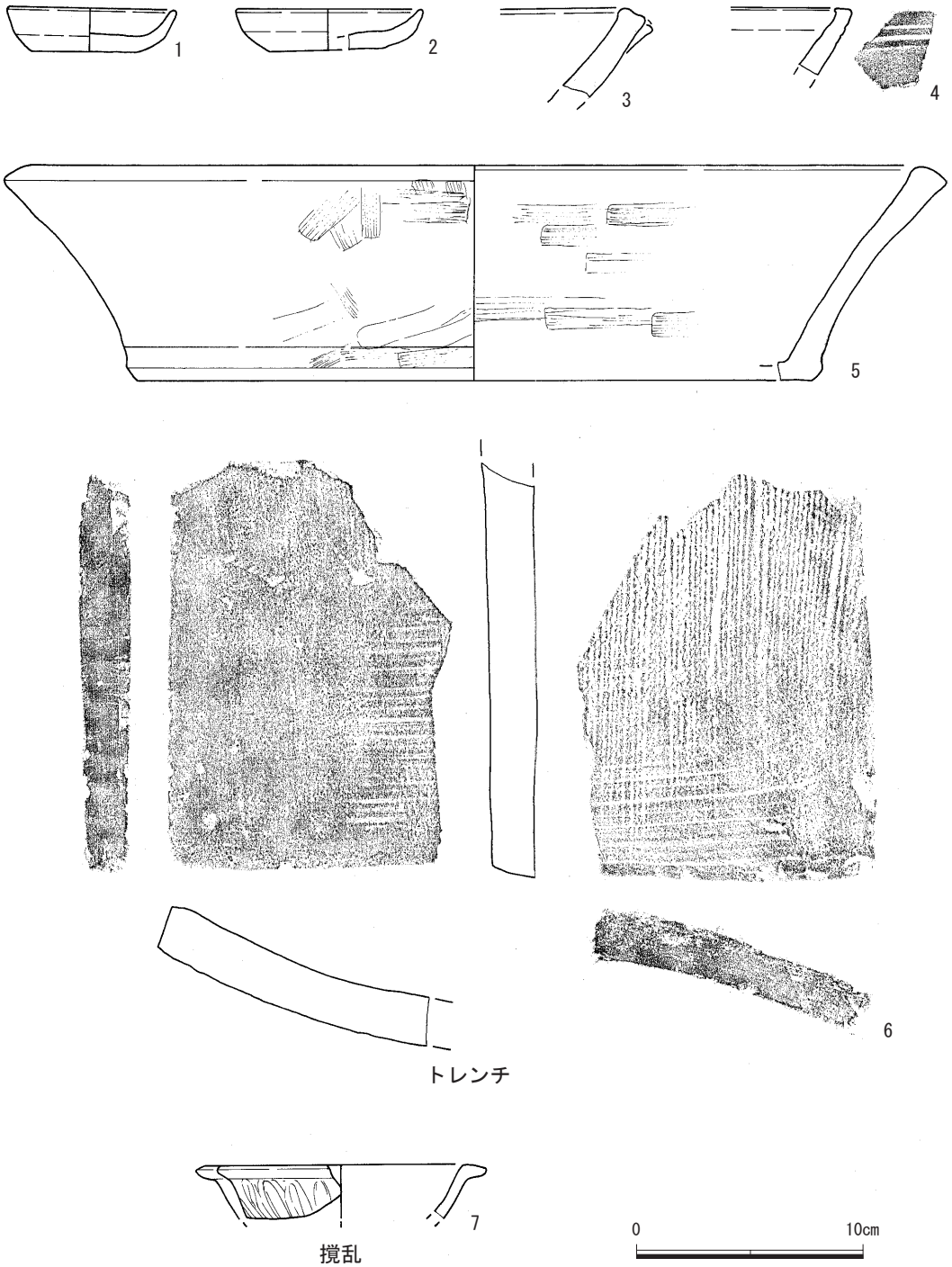


図６　トレンチ・撹乱出土遺物

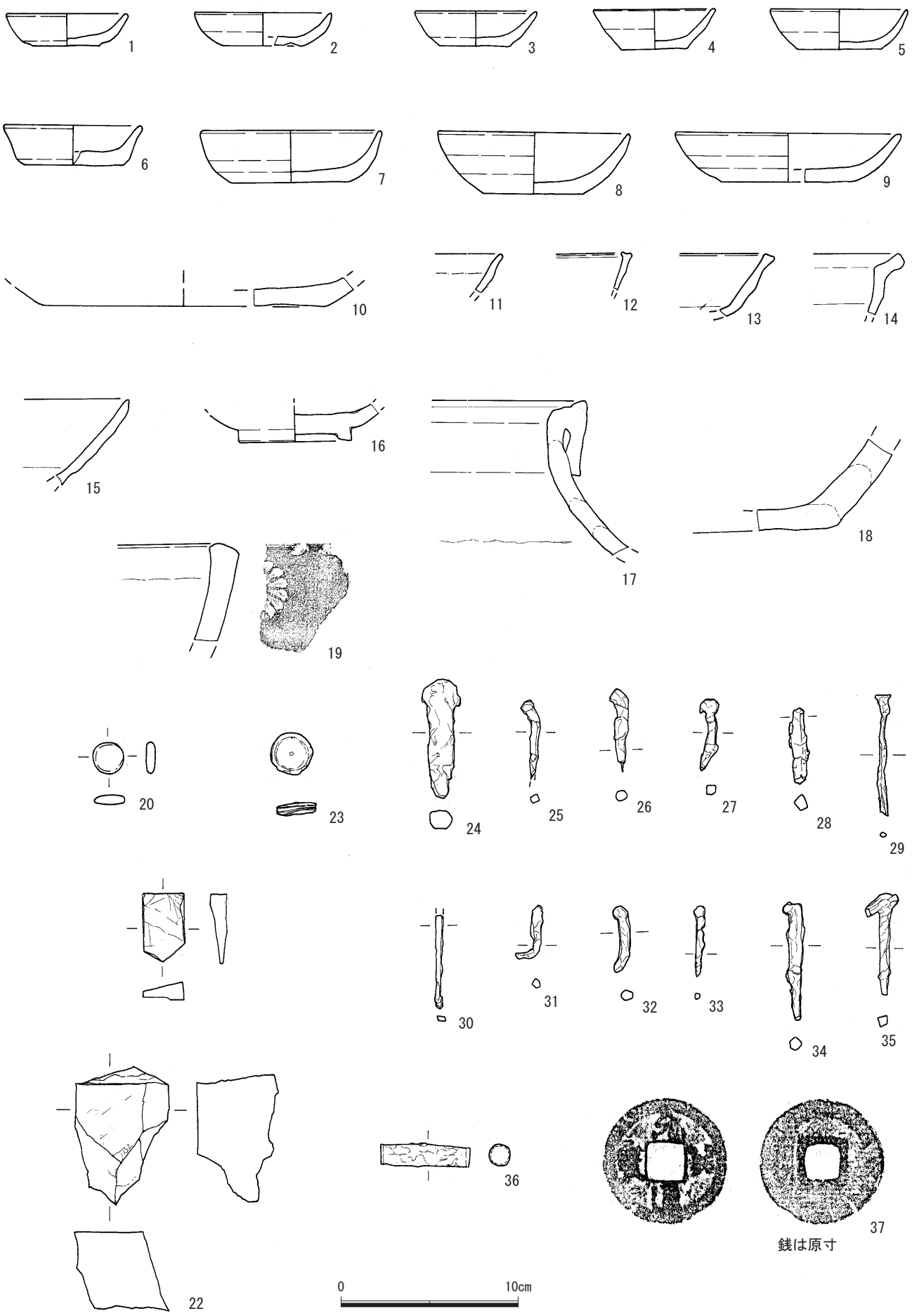


図７　１面まで出土遺物１

㎝である。覆土は一層で土丹粒、かわらけ片、木片を含む。覆土は暗褐色粘質土層である。

検出した12穴の柱穴のうち８穴で礎板が検出されている。溝状遺構に沿うように柱穴もまた東西方向に並ぶようである。Ⅰ区とⅡ区で検出された柱穴列は約４ｍの間隔を保ち東西方向に延びる。中間地点が検出されないため、建物になるか溝に沿った柵列なのかは不明である。また、鎌倉石の切石も流れは東西方向だが、間隔に規則性がない。連続する地覆石の壊されたものかも知れない。

遺物では、溝状遺構からかわらけ、常滑片口鉢(常滑６a型式)、漆器皿・椀、杓文字、銭、碁石。柱穴135から青磁連弁文碗が出土している。

第３面構成土中から轆轤成形のかわらけと常滑甕(５型式が混じる)、青磁連弁文碗、漆器皿・椀、灯明代、折敷等が出土している。

第３面の時期は13世紀末～14世紀初頭と考えられる。

第４節　第４面の遺構と遺物（図42・図43～図47　図版３・10）

地表から約1.6m下の第10層、灰褐色粘質土層(海抜約11.9m)を第４面とした。

柱穴24穴、土壙７穴と面の上で床束の支えに使われたと思われる礎板９枚を検出した。この内の多くがⅡ区の板壁建物の遺構と考えられる。建物の地面と接する横板の遺存状態は悪く、取り上げることが出来ない状態であったが、板の表面には網代状に編んだ壁材の圧痕が認められた。建物の規模はおよそ東西５ｍ以上、南北４ｍ以上になるものと思われる。

板壁建物に伴うと見られる土壙と柱穴から、かわらけ、漆器椀、釘、木製品が出土している。板壁建物内から、内面に煤が付着した常滑片口鉢(Ⅰ類)の６a型式が面に張り付いた状態で出土している。この他、４面から白磁劃花文皿、手捏ね成形の白かわらけ、轆轤成形のかわらけ、漆器椀、草履芯、箸などが出土している。多くはⅡ区の板壁建物の板と柱穴に囲まれた範囲内から出土している。

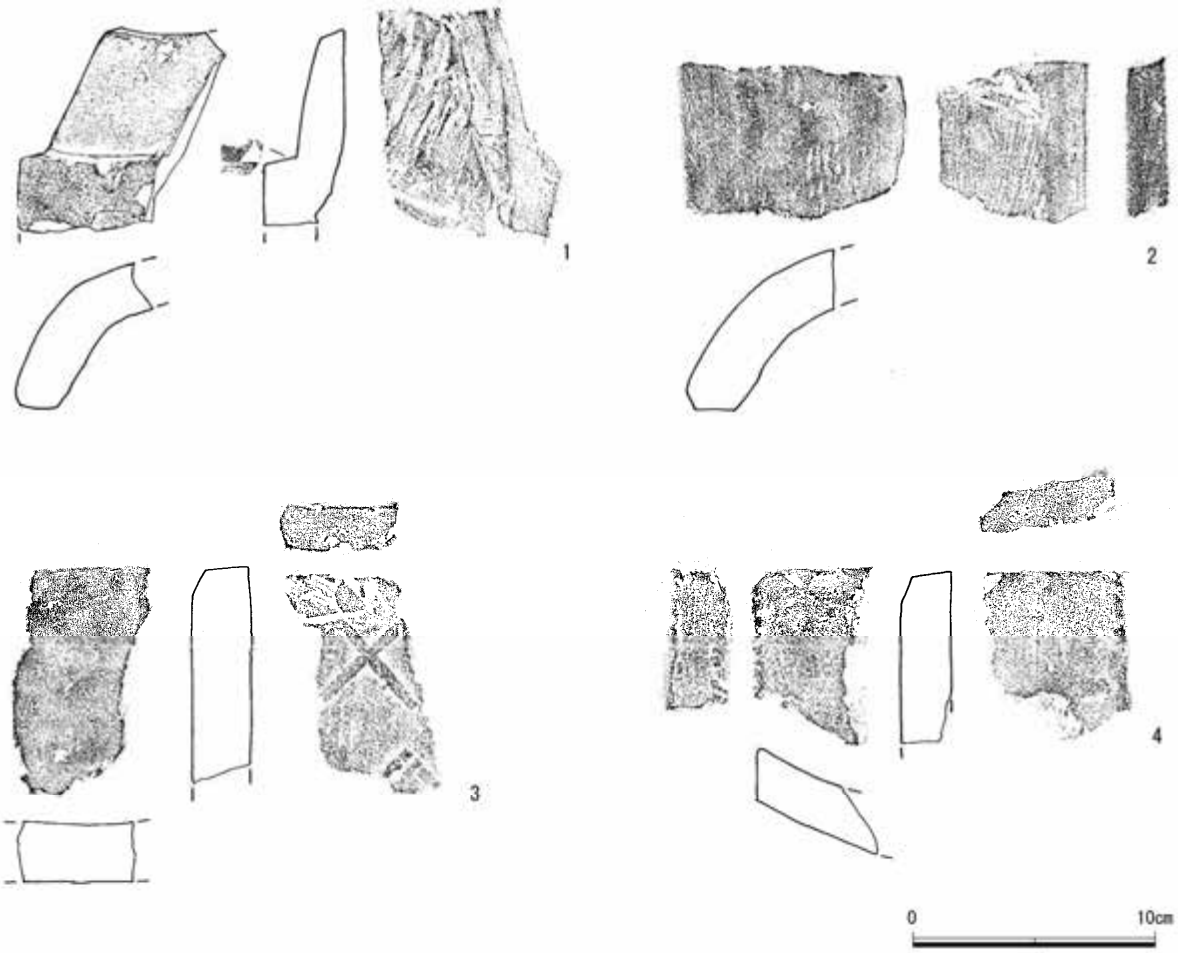


図８　１面まで出土遺物２

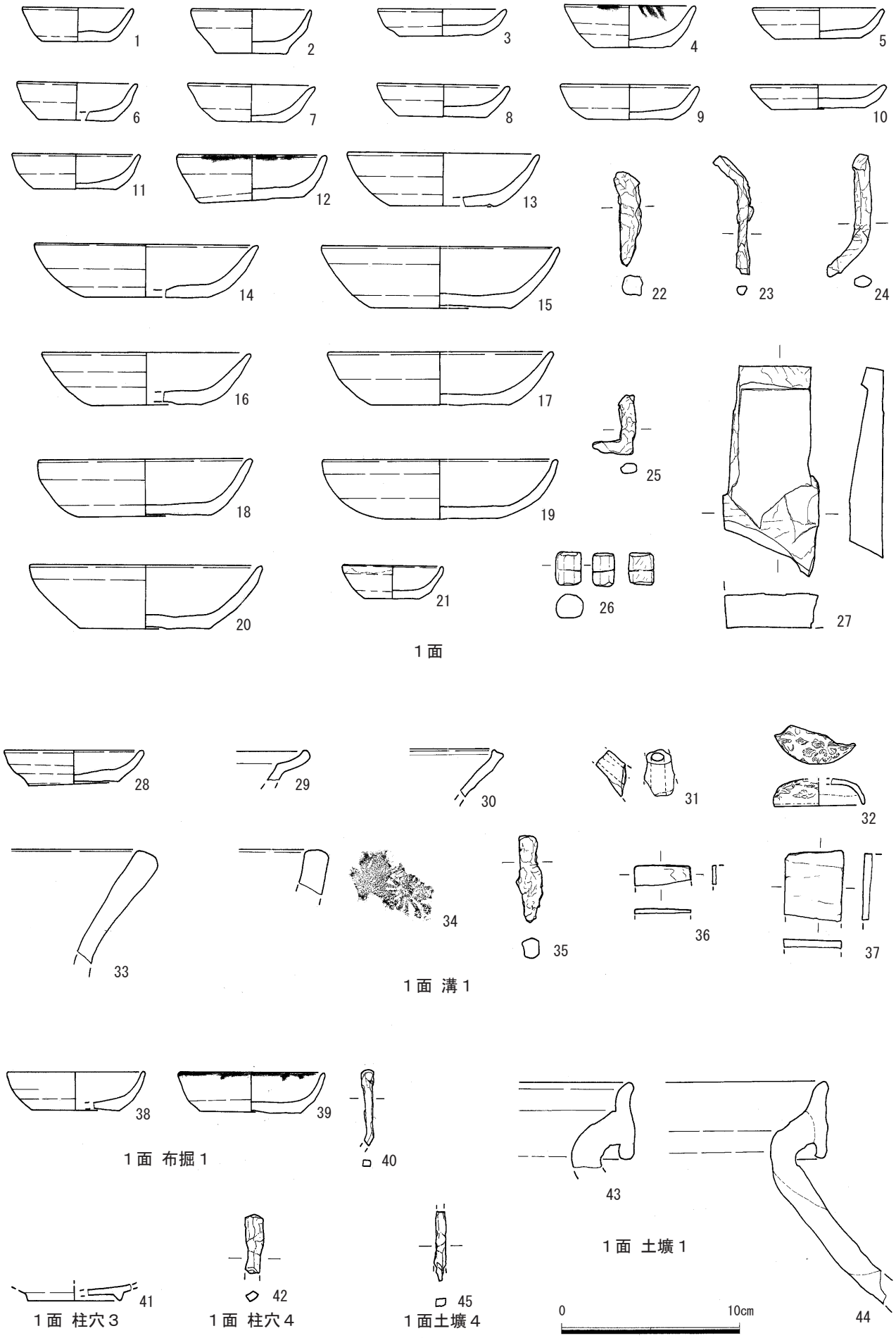


図９　１面・１面遺構出土遺物

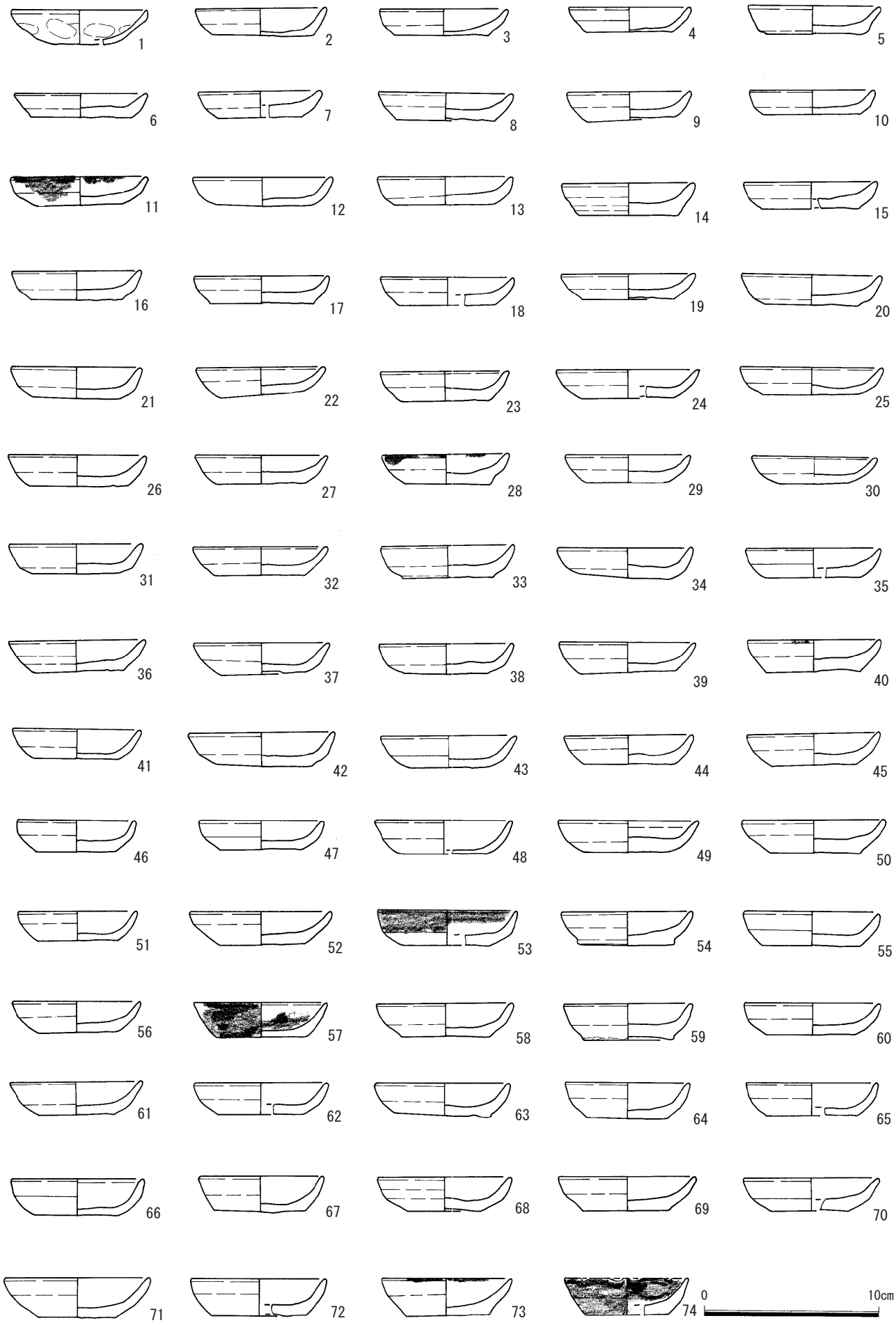


図１０　１面構成土出土遺物１

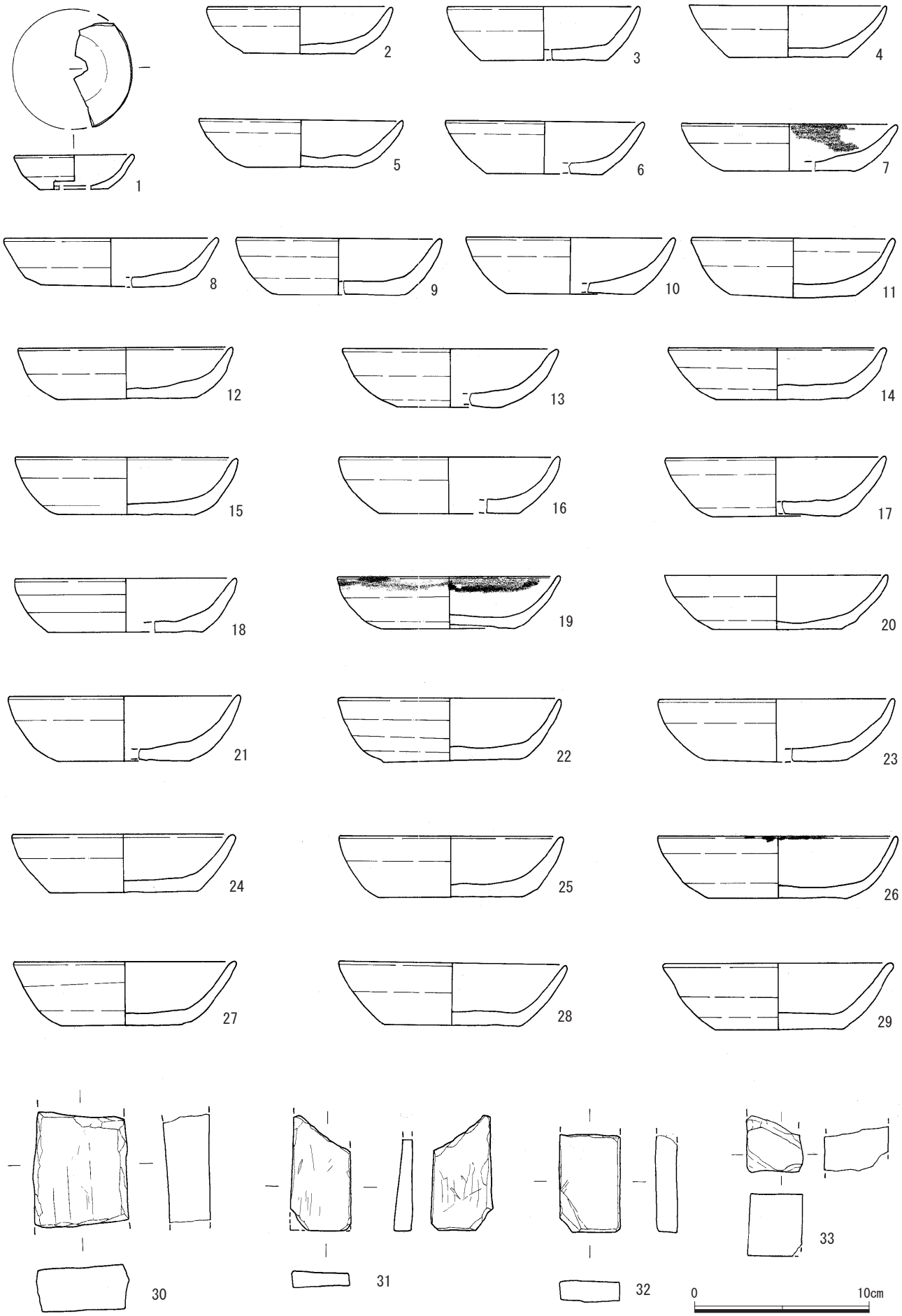


図１１　１面構成土出土遺物２

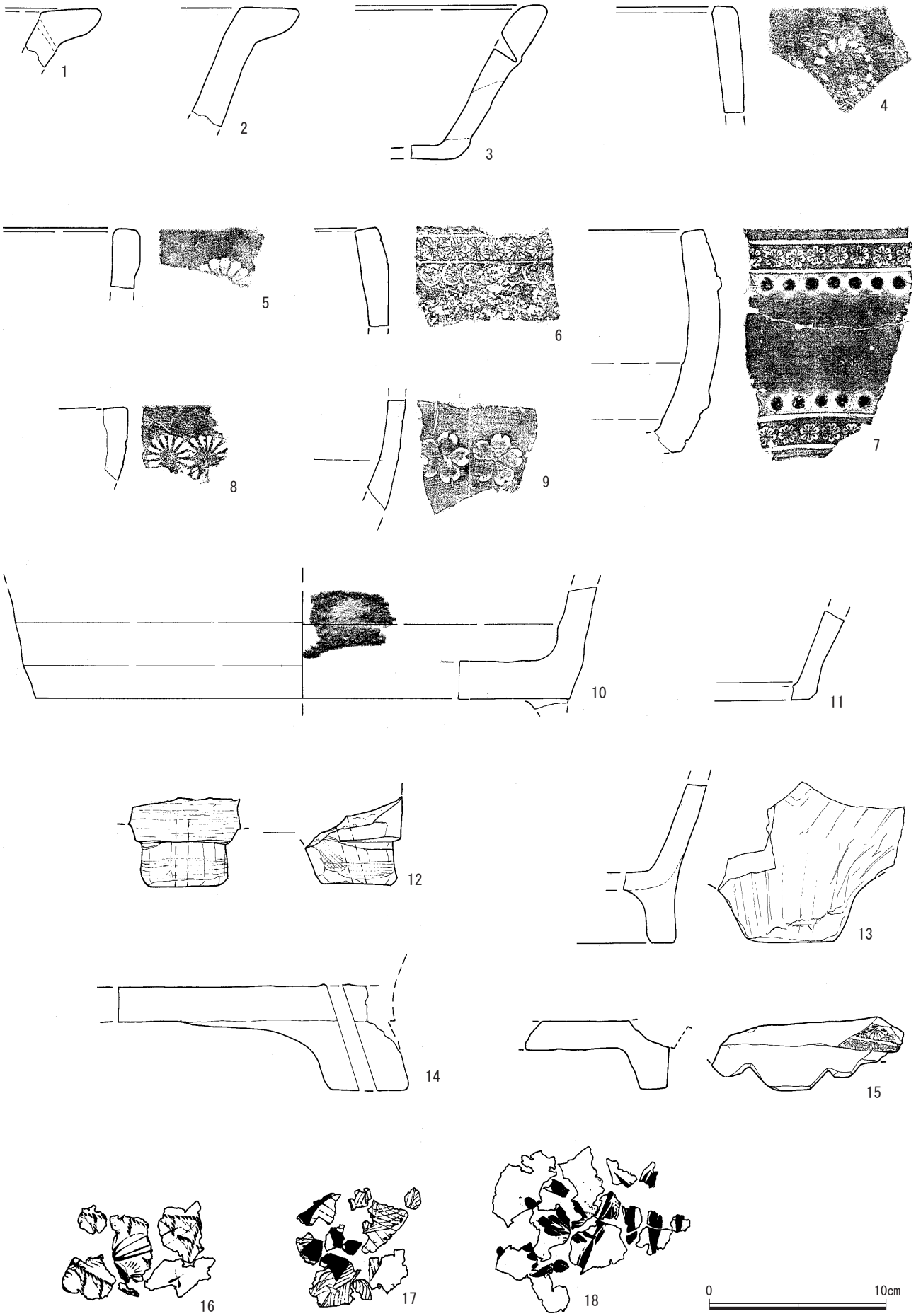


図１２　１面構成土出土遺物３

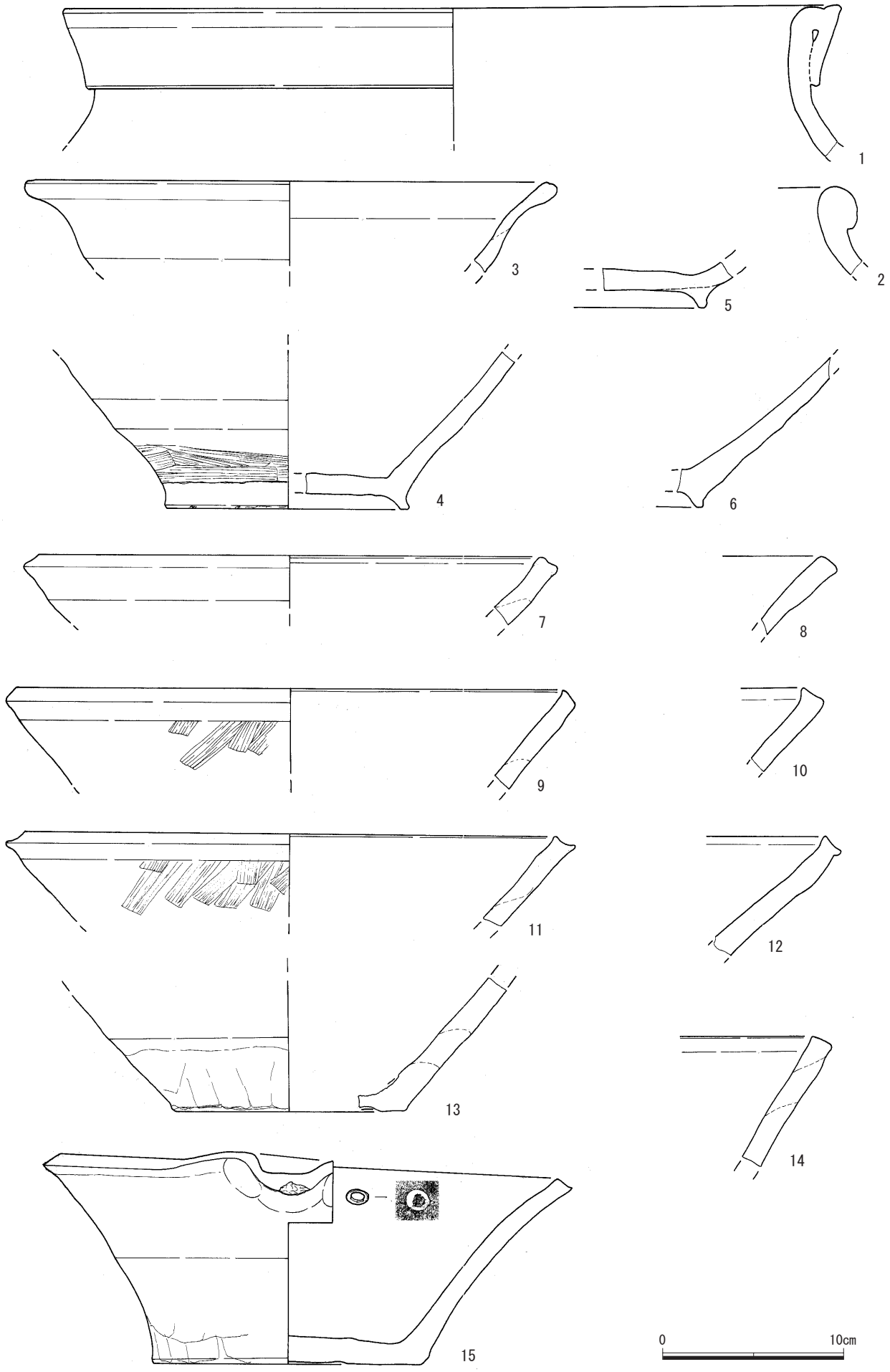
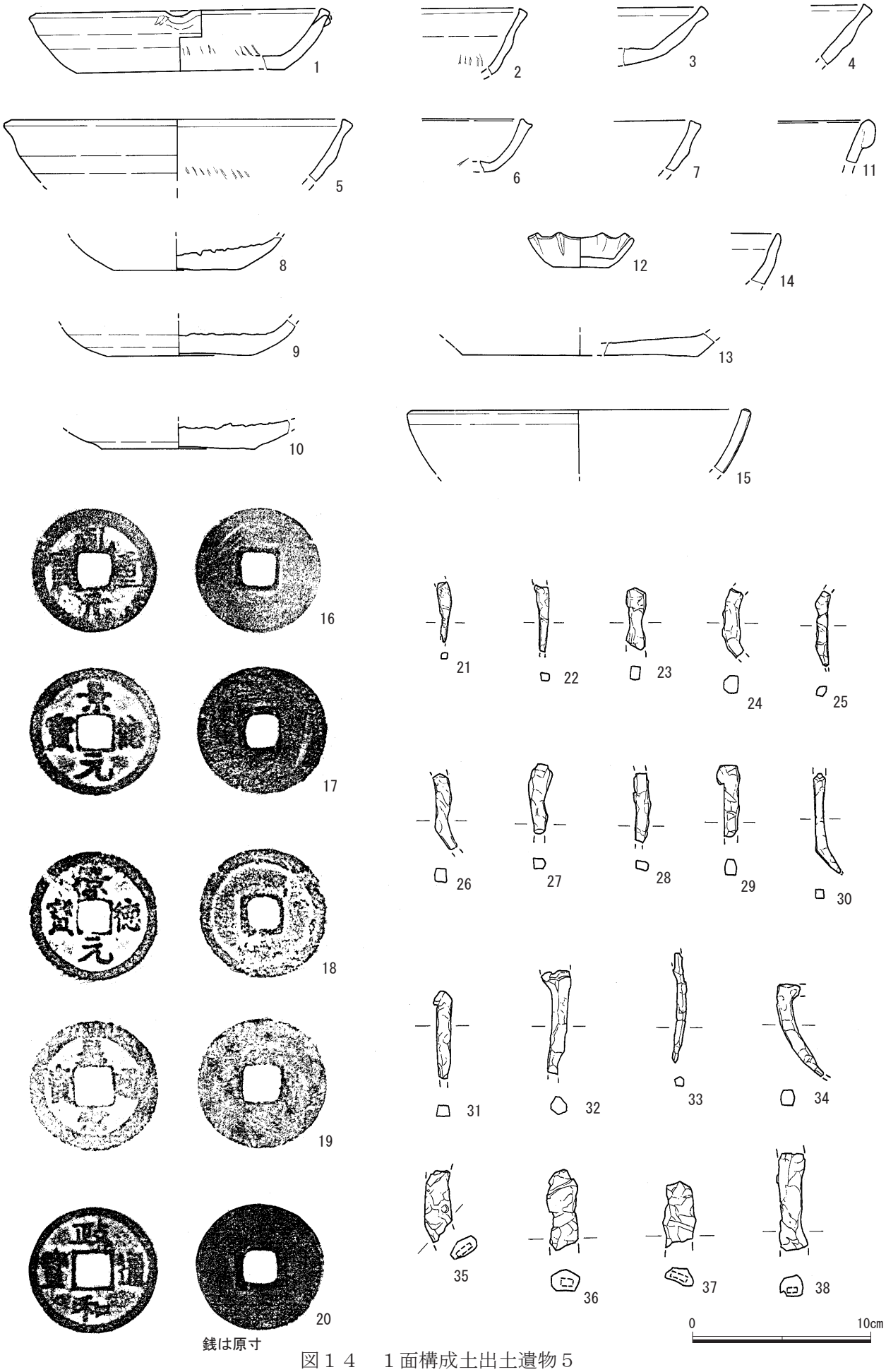


図１３　１面構成土出土遺物４



銭は原寸

図１４　１面構成土出土遺物５

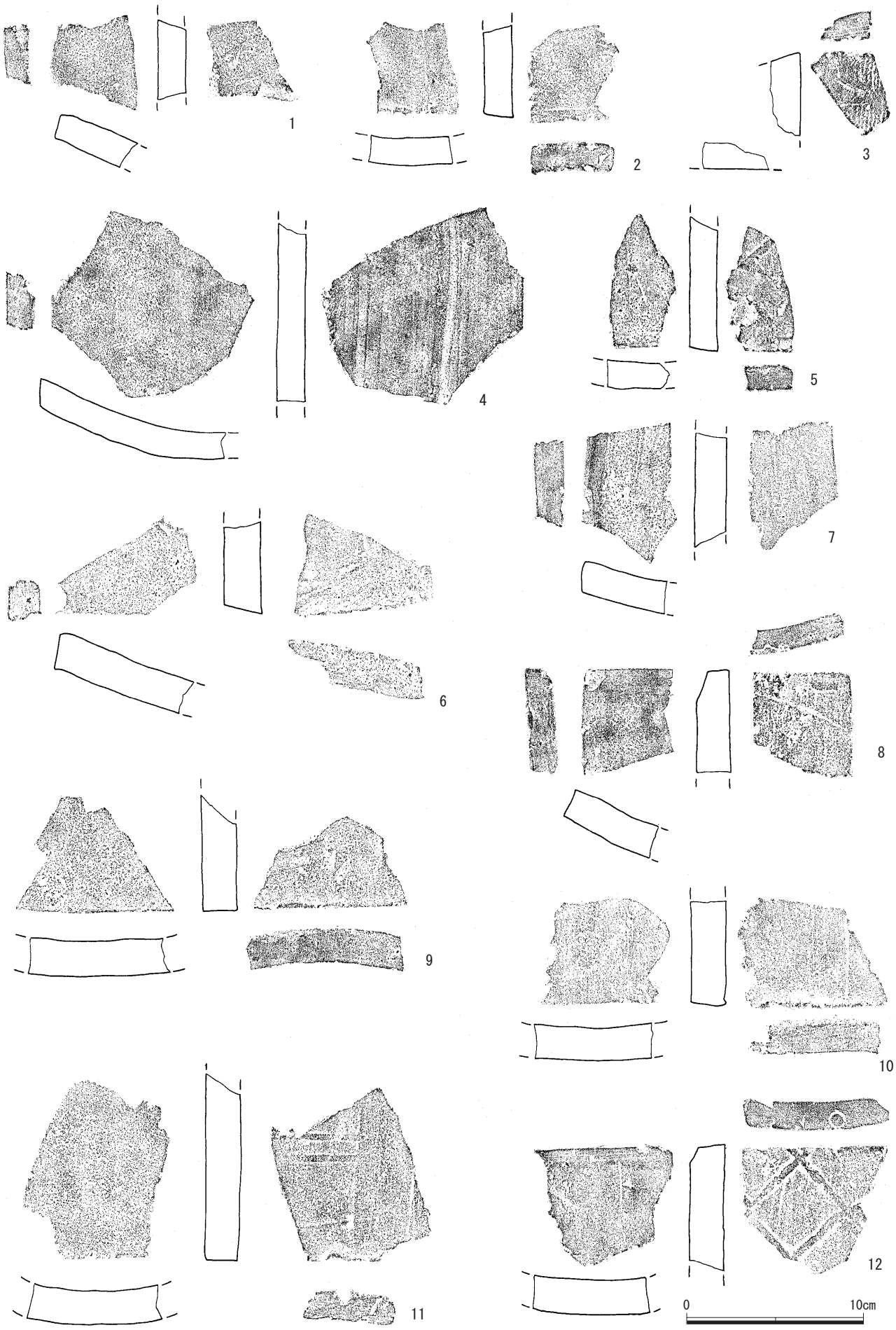


図１５　１面構成土出土遺物６

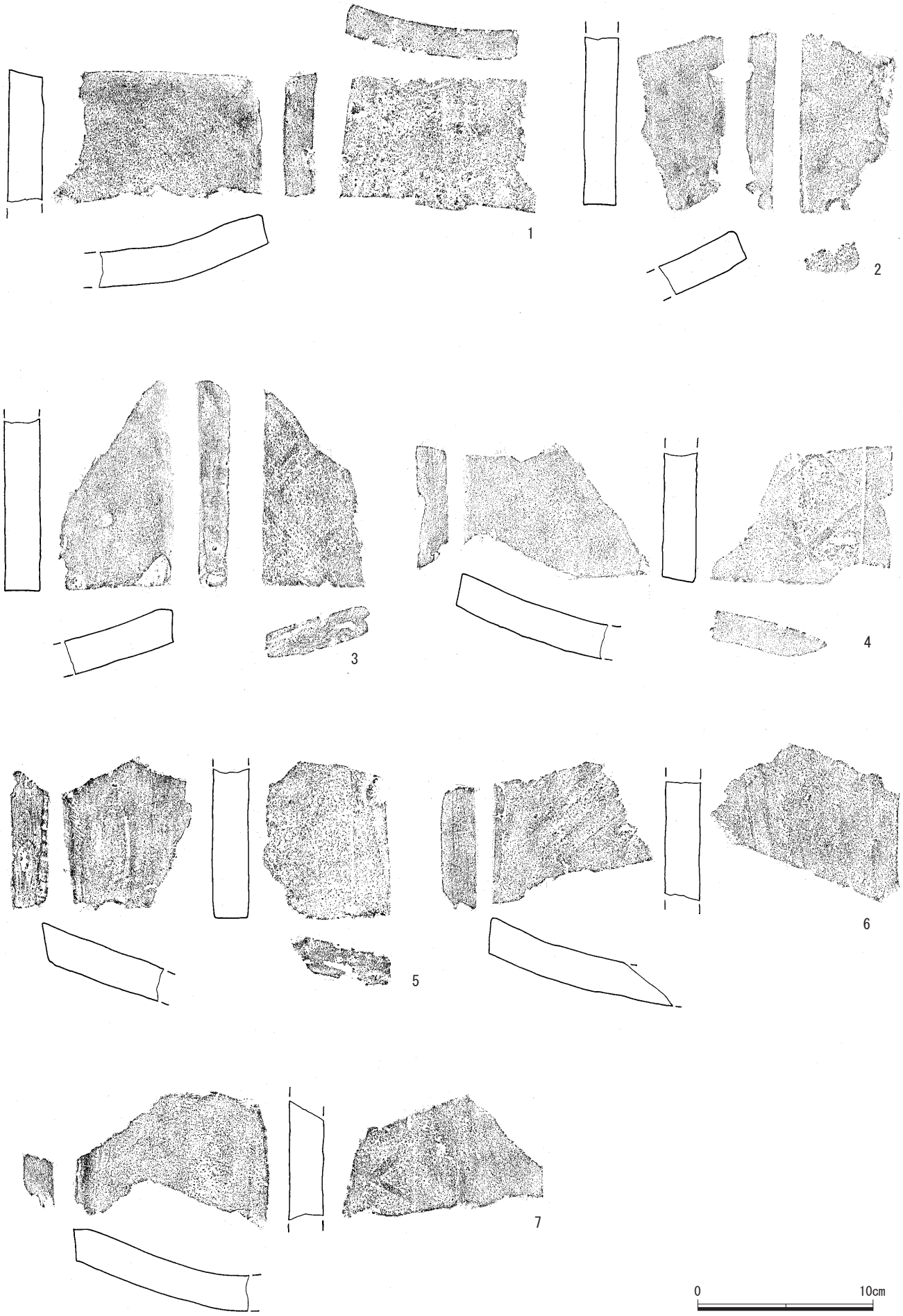


図１６　１面構成土出土遺物７

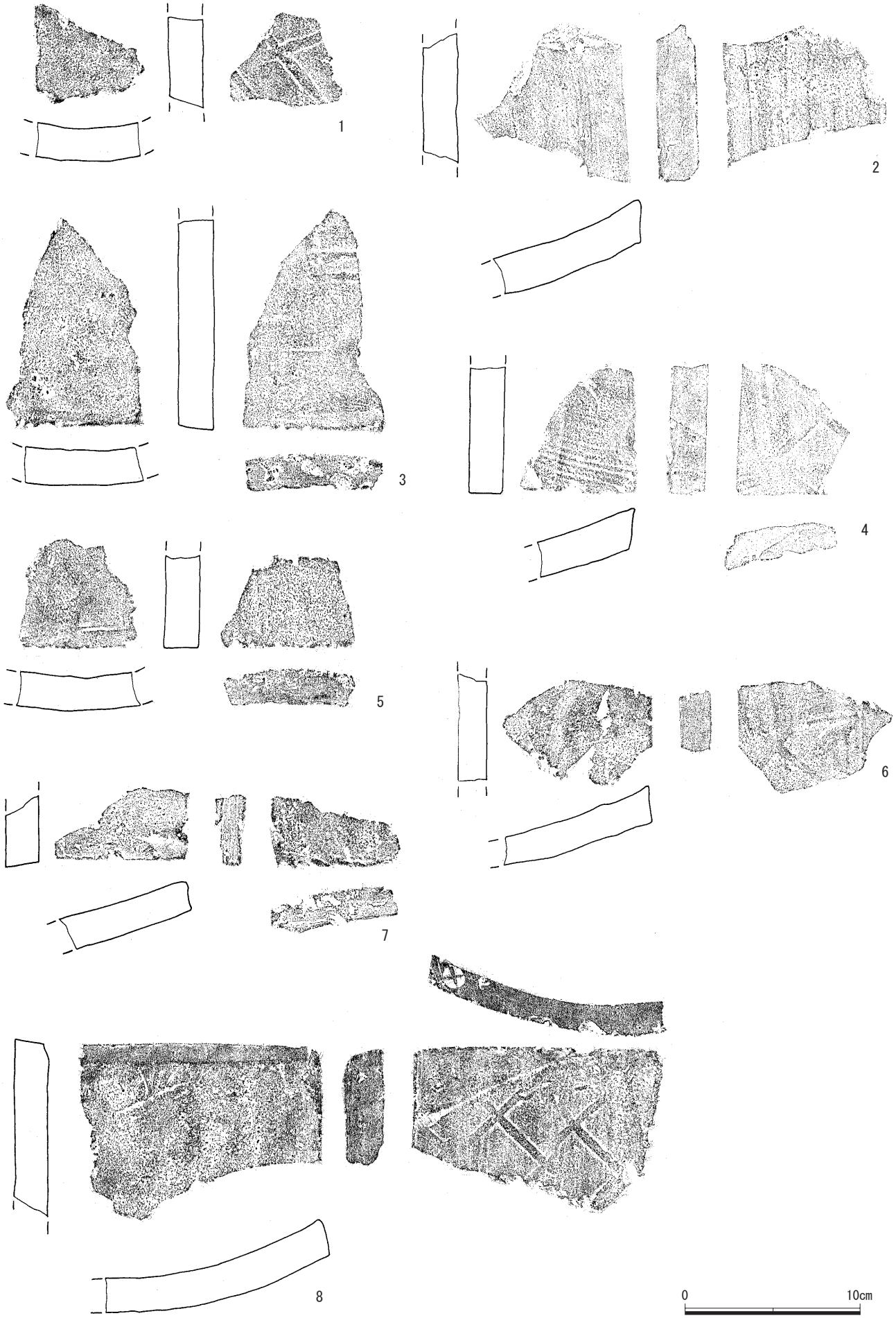


図１７　１面構成土出土遺物８

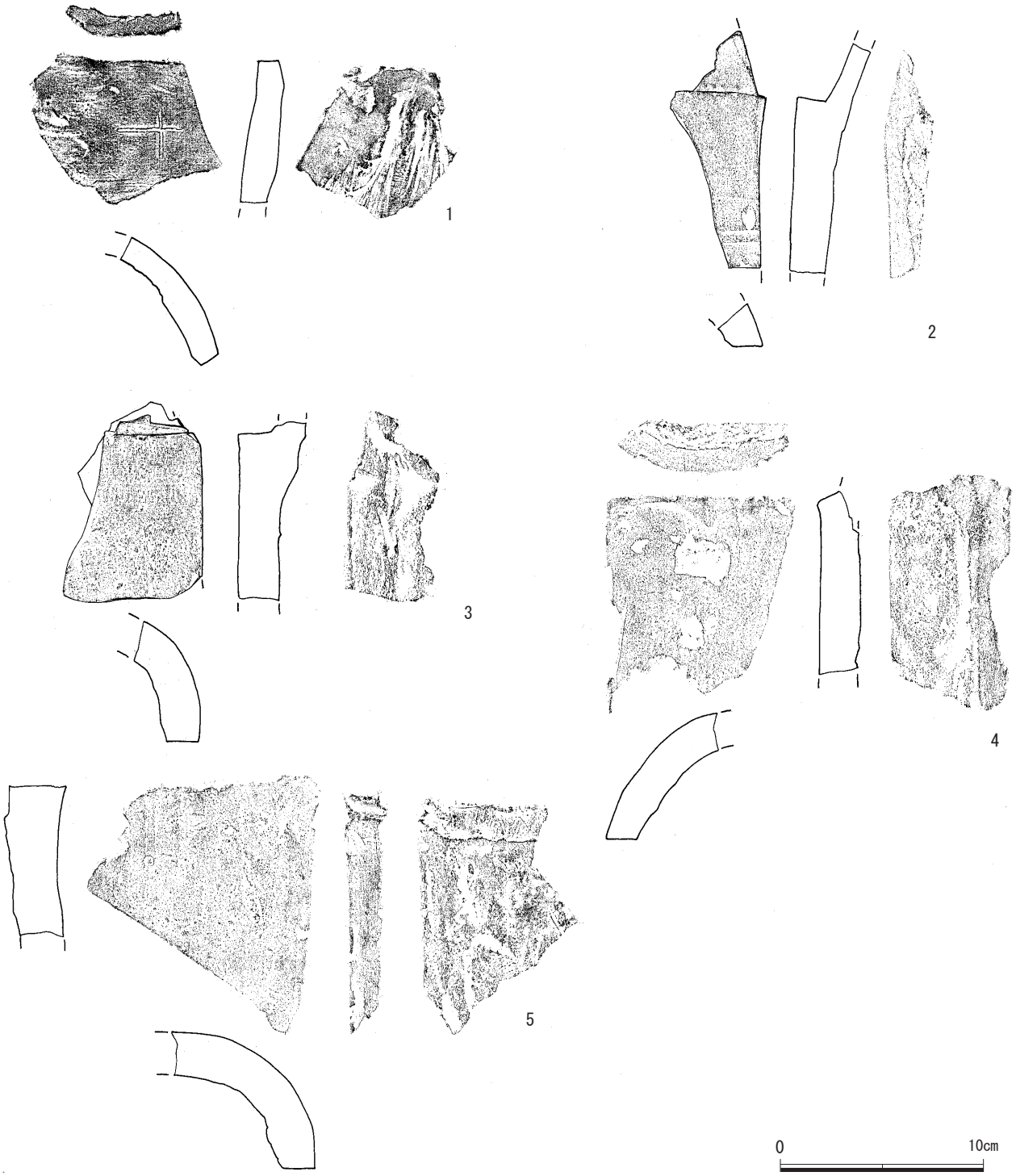


図１８　１面構成土出土遺物９

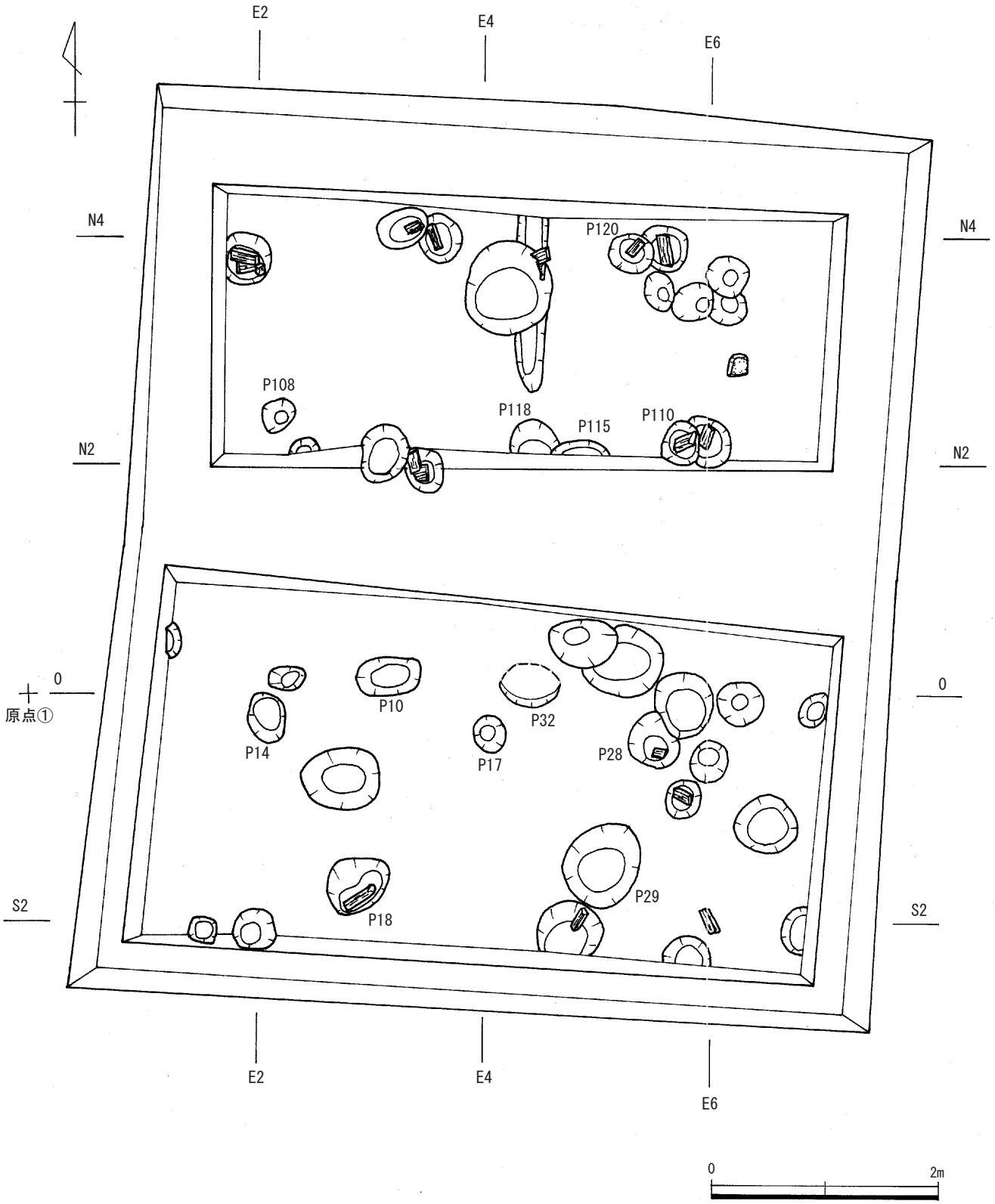

E2
E4
E6
N4
N2
0
S2
原点①
P120
P108
P118
P115
P110
P10
P32
P14
P17
P28
P29
P18
0
2m

図１９　２面全側図

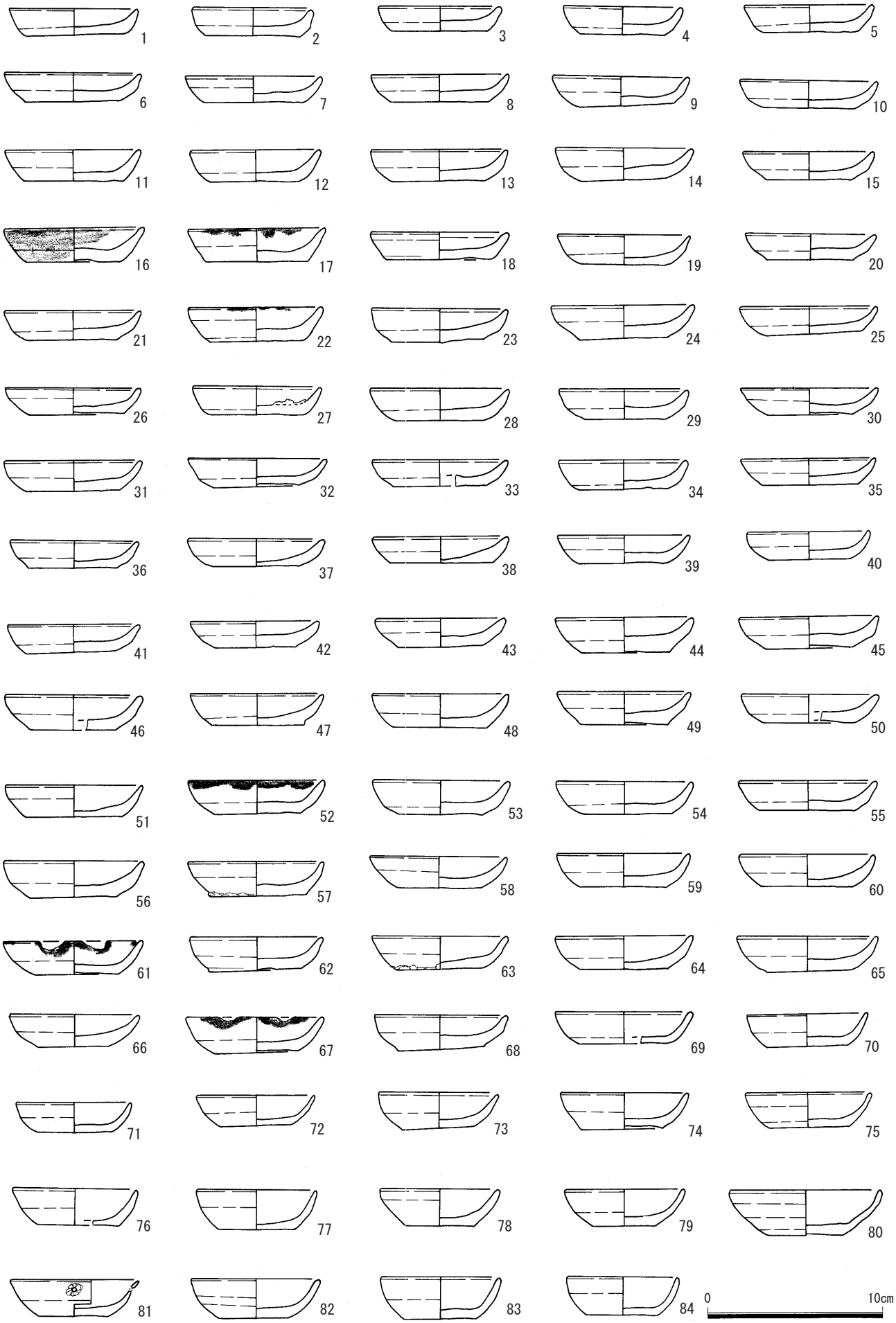

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
0
10cm

図２０　２面出土遺物１

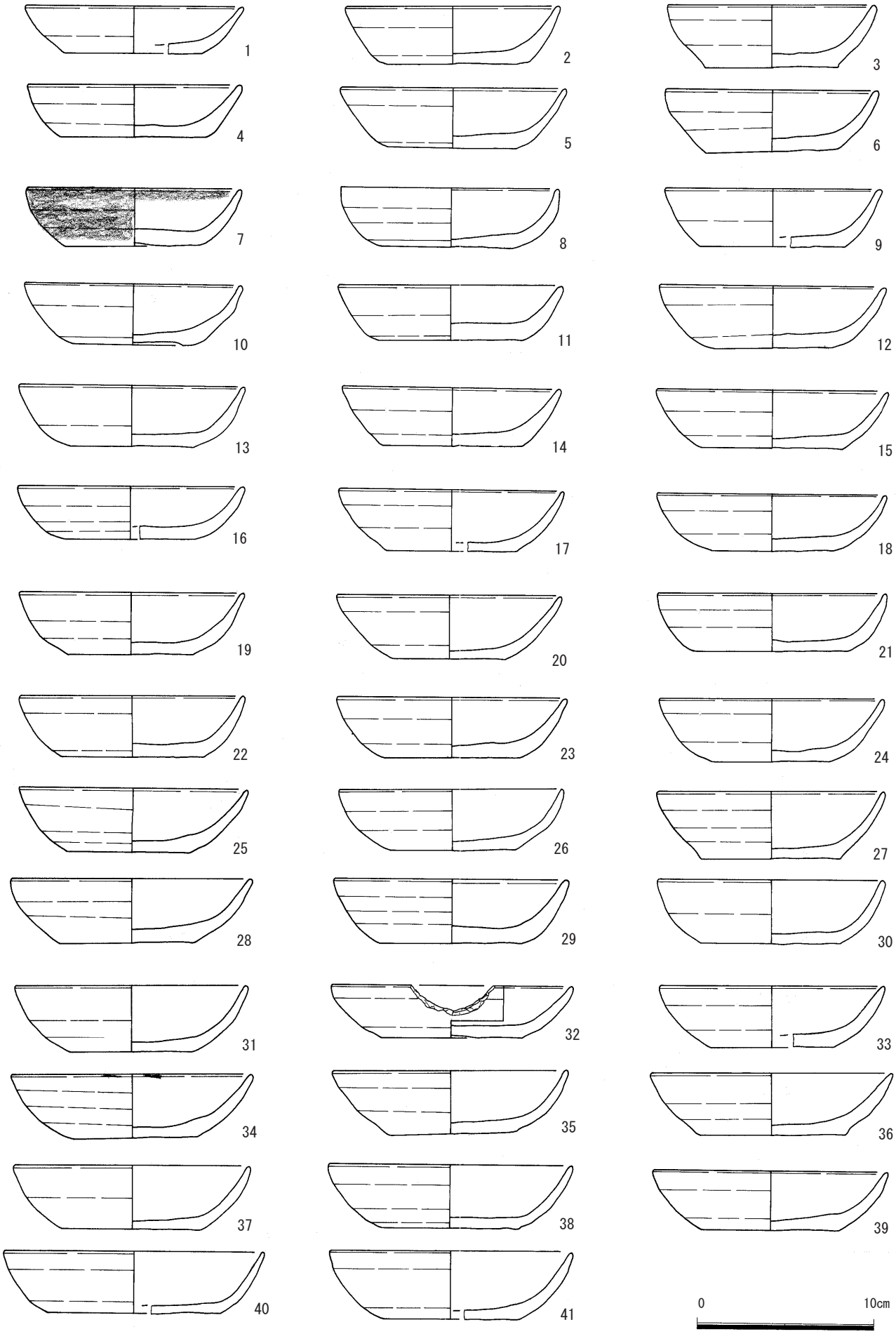

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
0
10cm

図２１　２面出土遺物２

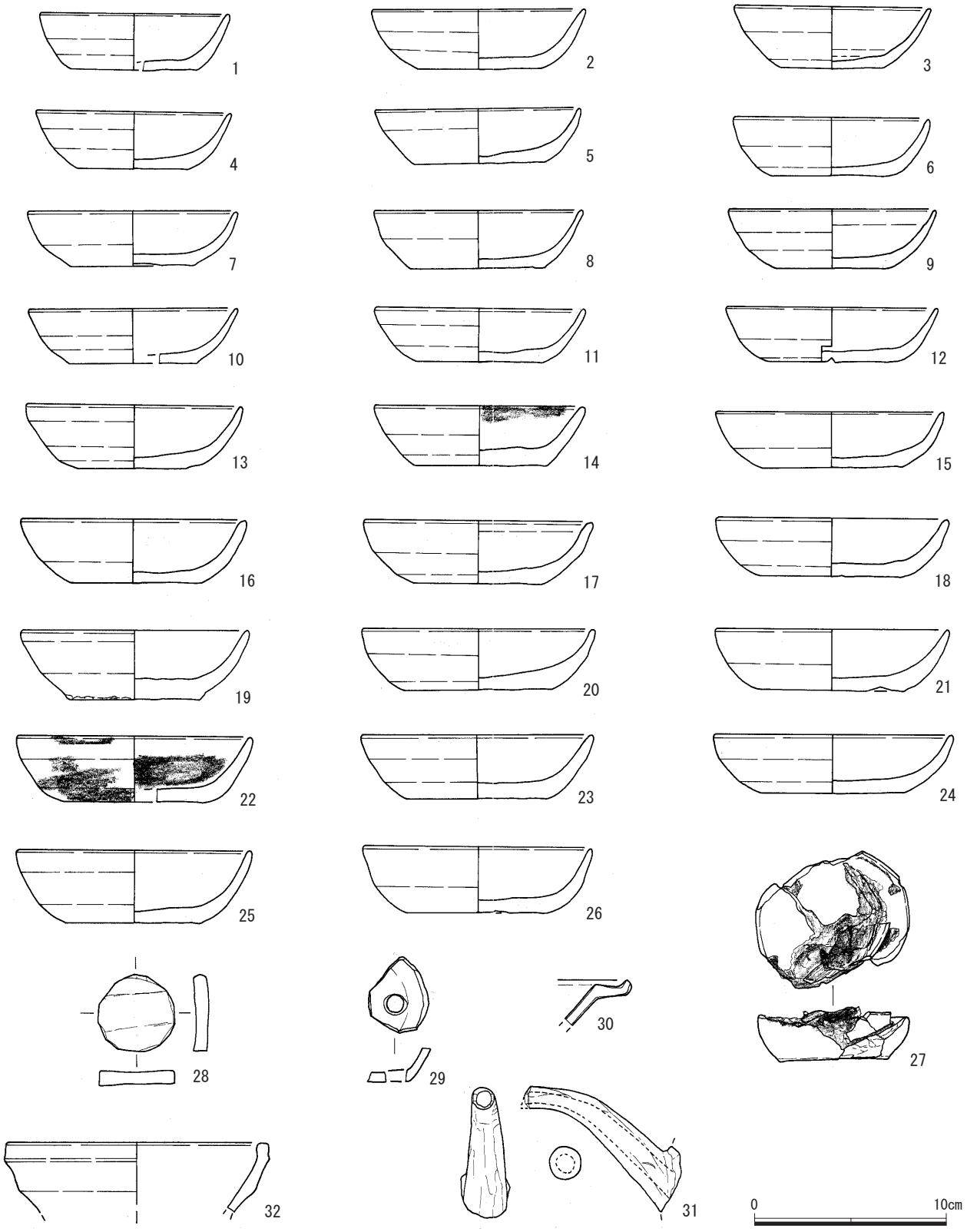

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
0
10cm

図２２　２面出土遺物３

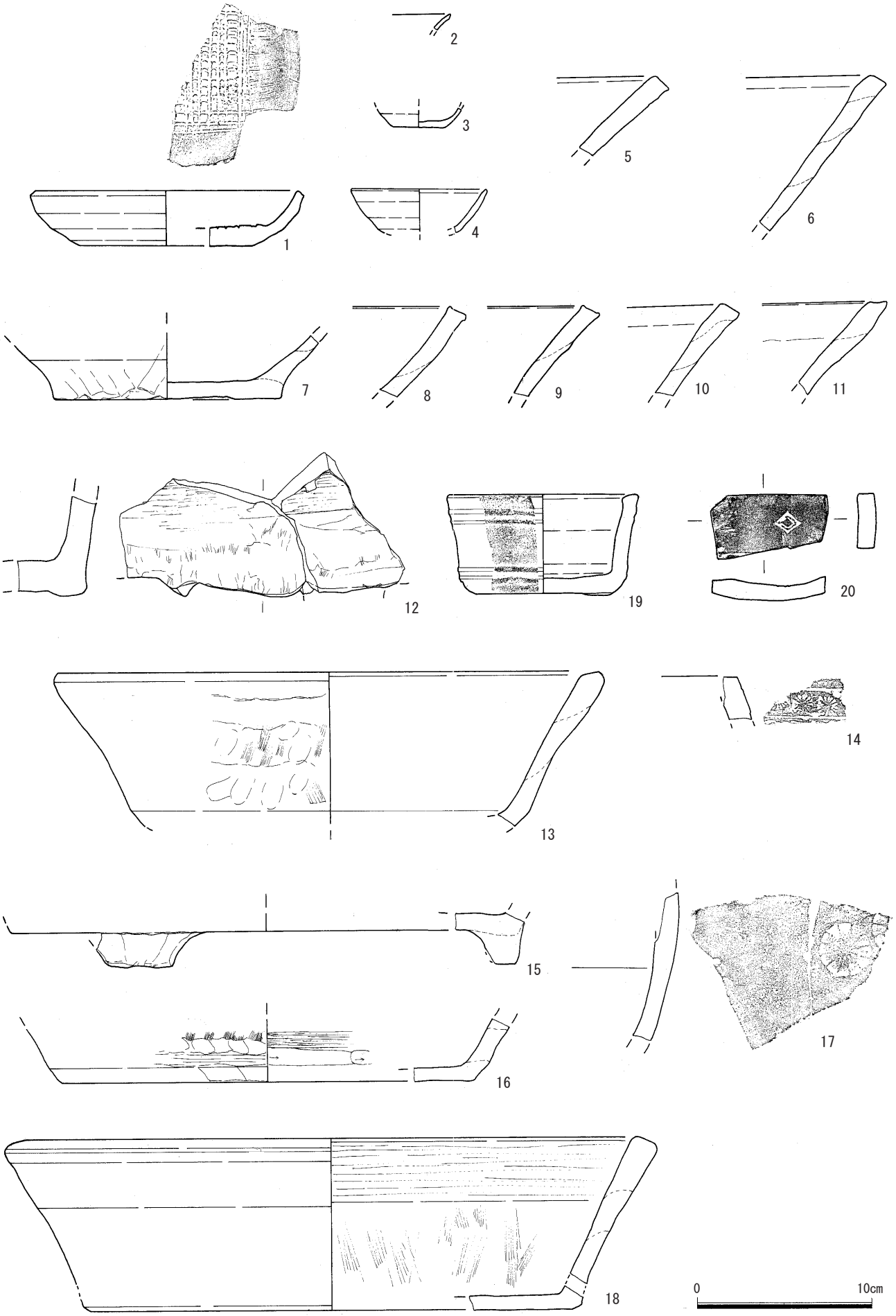


図２３　２面出土遺物４

図２４　２面出土遺物５

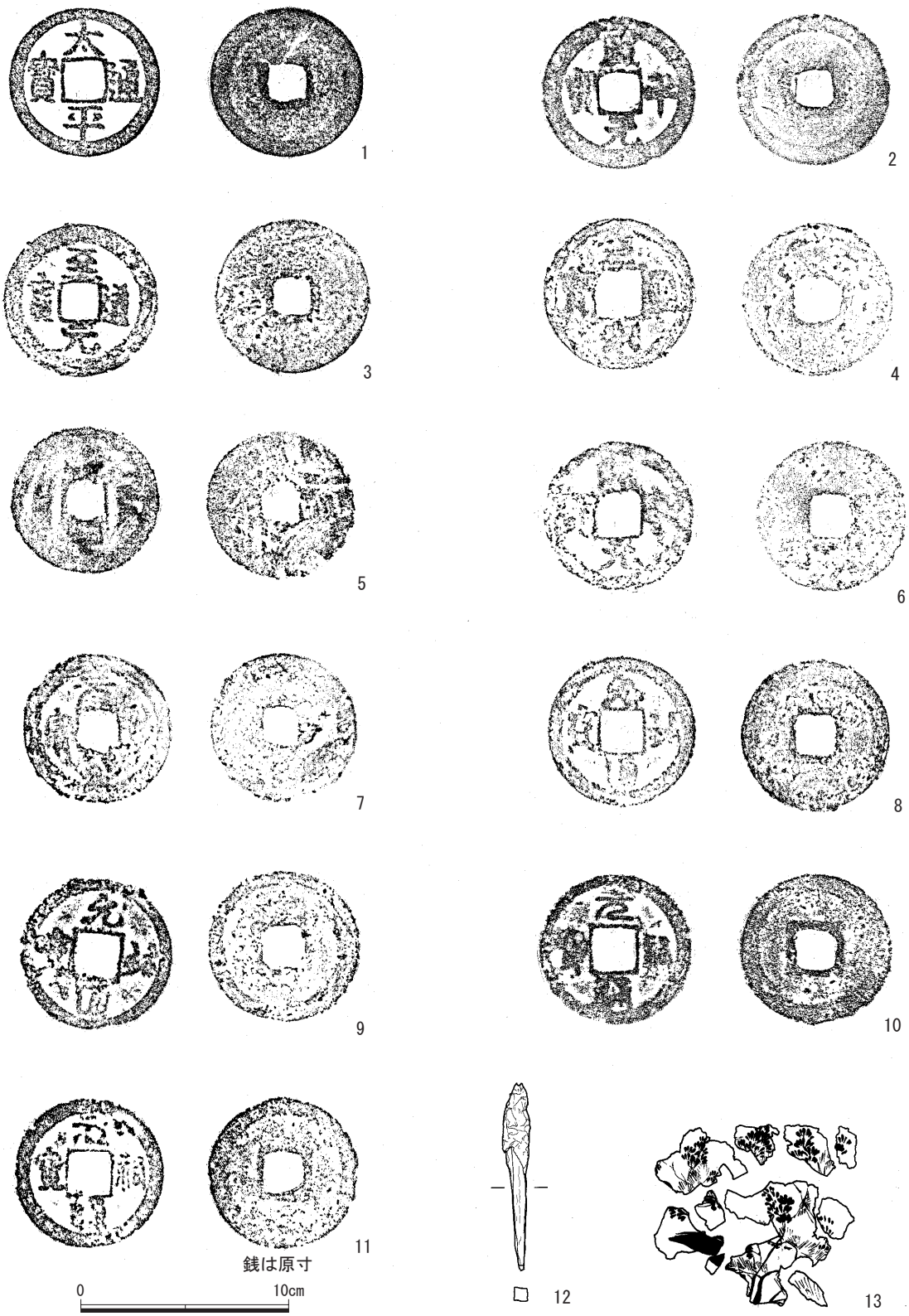


図２５　２面出土遺物６

第４面構成土中から、轆轤成形のかわらけに混じり、１点だけ手捏ね成形のかわらけが出土。龍泉窯青磁劃花文碗の碗や常滑の甕や片口鉢（Ⅰ類）６a型式。渥美の片口鉢の他箸が多数出土。

第４面の時期は板壁建物の床面に張り付いていた常滑片口鉢などから、13世紀後半代と考えられる。

第５節　第５面の遺構と遺物（図48・図49・図50　図版４・11）

地表から約1.8m下の第11層、土丹地業面（海抜約11.6～11.7m）を第５面とした。

柱穴43穴、土壙３、東西方向に延びる溝を４条検出した。Ⅰ区で検出した柱穴は、溝に沿って東西方向に２m間隔で２間並ぶ。南北方向には延びないので、柵列になると思われる。この柵列の柱穴47から、かわらけと青磁鎬蓮弁文碗が２点出土している。

第５面構成土中から、かわらけ、常滑片口鉢（Ⅰ類）、手捏ね成形の瓦質碗の他に、須恵器長頸壺の小片が出土している。

５面の時期は13世紀中～後半にかけてか。

第６節　第６面の遺構と遺物（図51・図50・図52～図55　図版５・12）

地表から約2.1m下の第13層（海抜約11.4m）を第６面とした。灰褐色砂層（貝混じりの砂）で、１～５面を構成している土丹地業面とは趣が異なり砂が敷かれている。遺構は柱穴36穴と土壙２穴を検出した。柱穴は東西方向に規則性が見いだせそうだが、建物にはならない。土壙24は、Ⅰ区・２区に跨り、暗褐色腐植土のみの単層で、藁や木器の腐植土が大半でゴミ穴と思われる。規模は幅1.4m、長さ4.5m、深さ35cmである。轆轤成形のかわらけ、渥美片口鉢、常滑片口鉢（Ⅰ類）、男瓦、折敷、荷札（墨書は不明）等が出土。渥美鉢は12世紀末～13世紀初頭、常滑鉢は５型式（13 世紀中葉）。

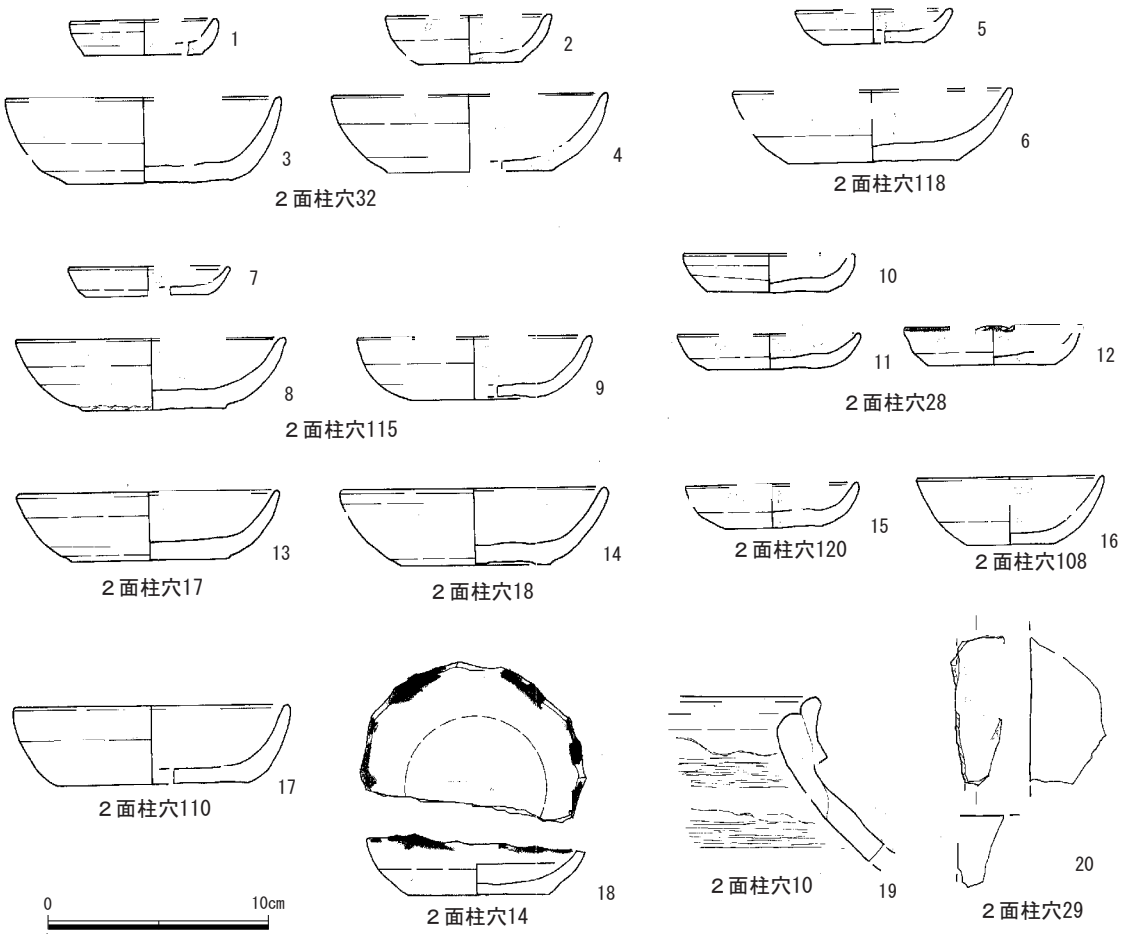


図２６　２面遺構出土遺物

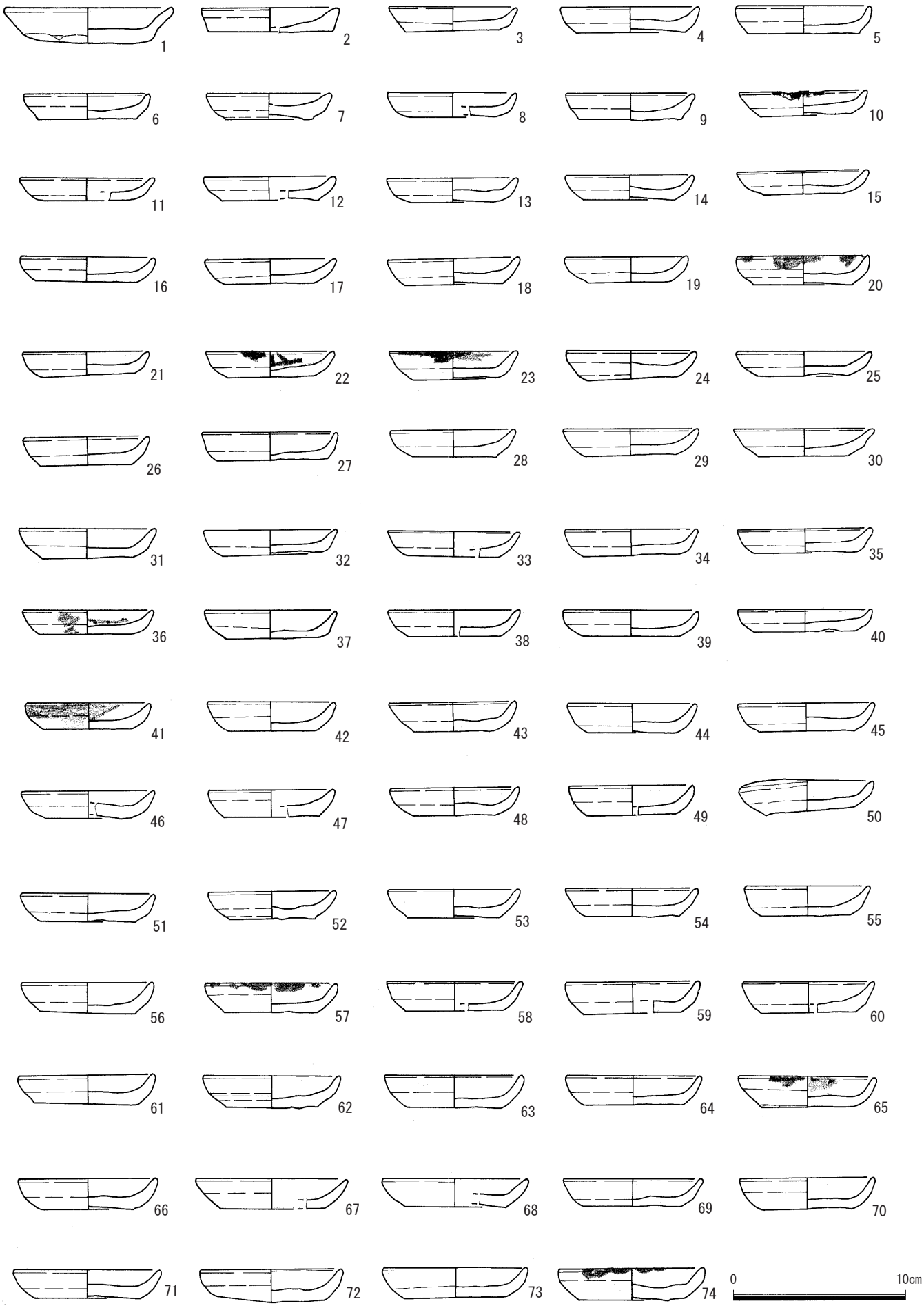


図２７　２面構成土出土遺物１

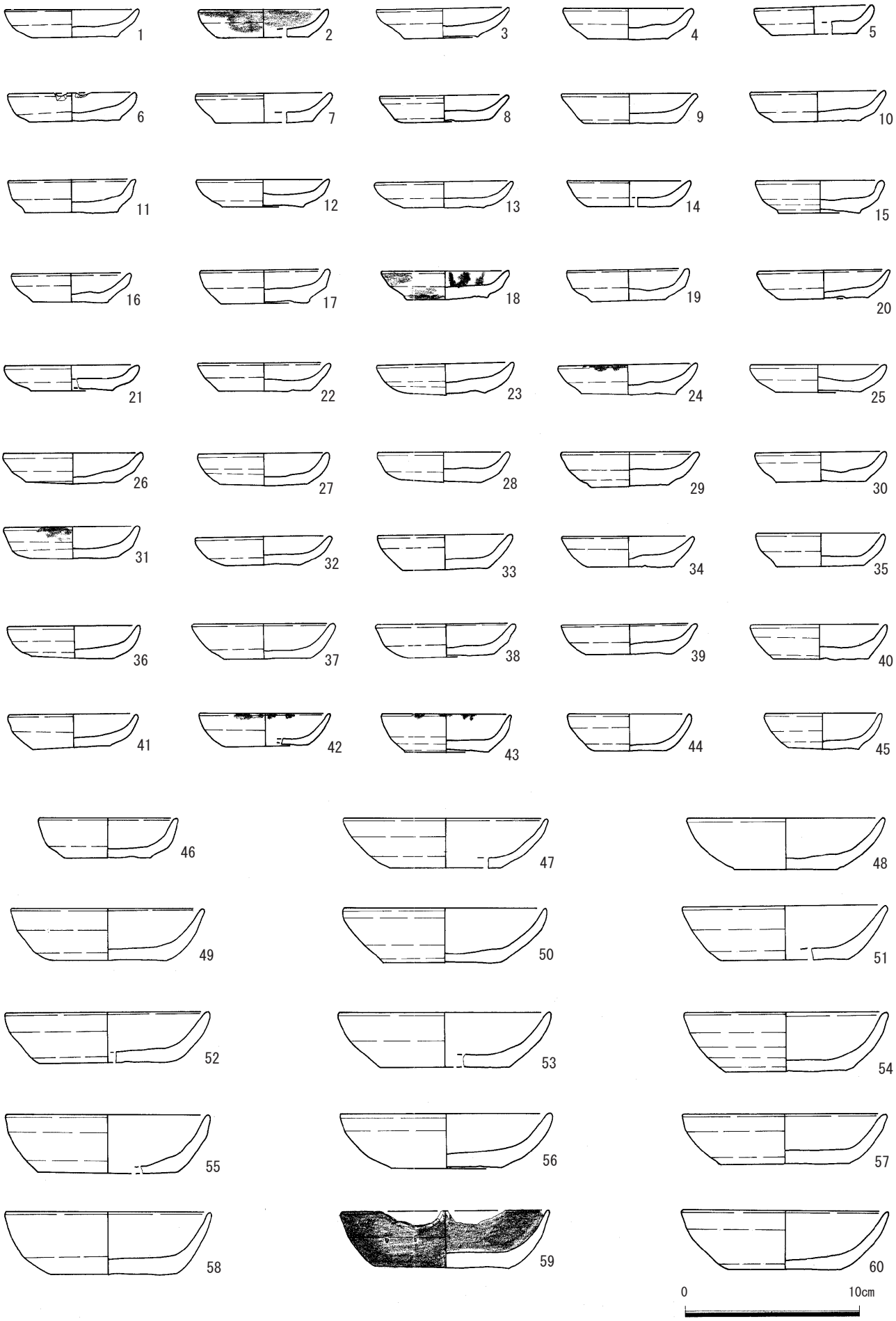
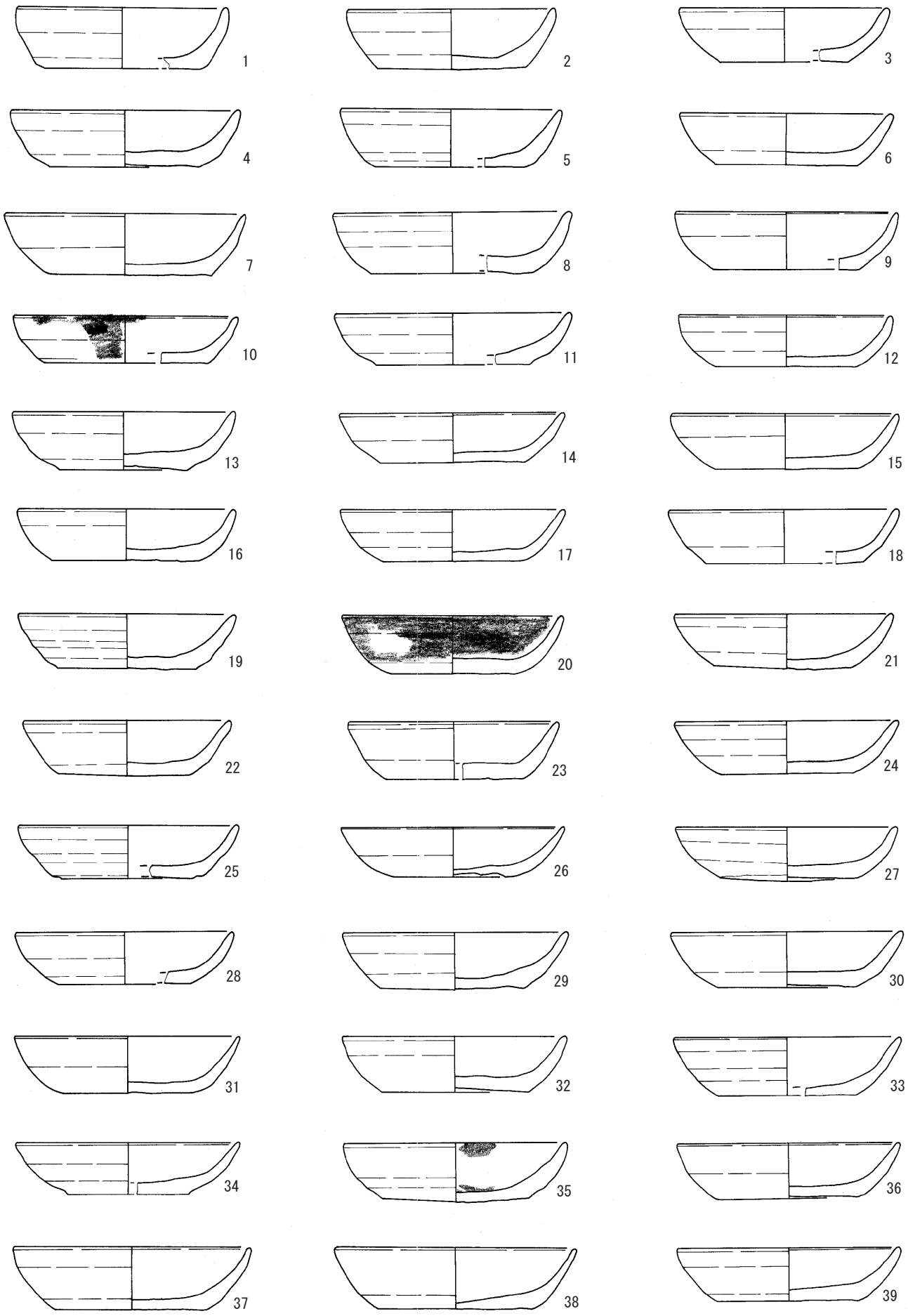


図２８　２面構成土出土遺物２



0　10cm

図２９　２面構成土出土遺物３

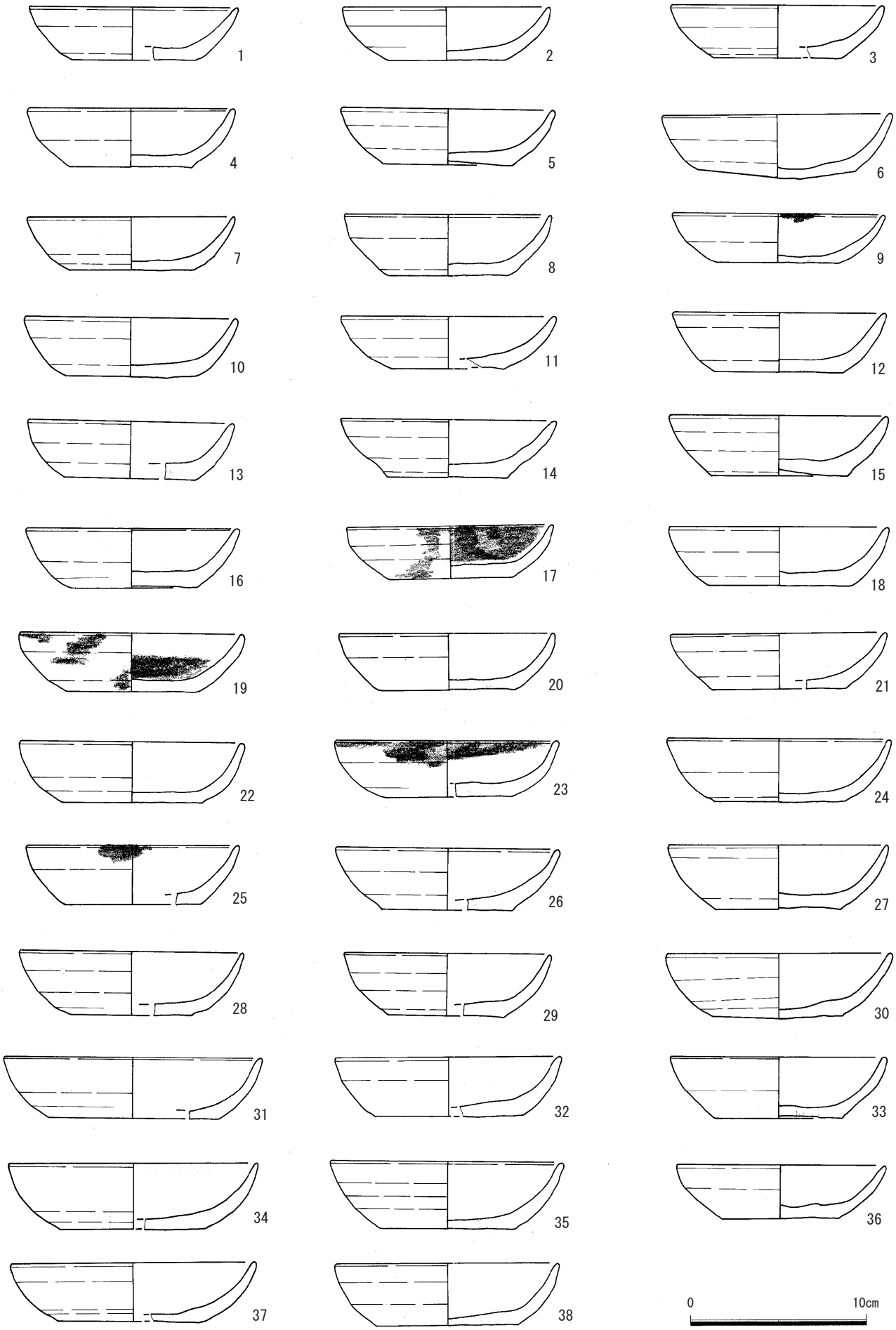


図３０　２面構成土出土遺物４

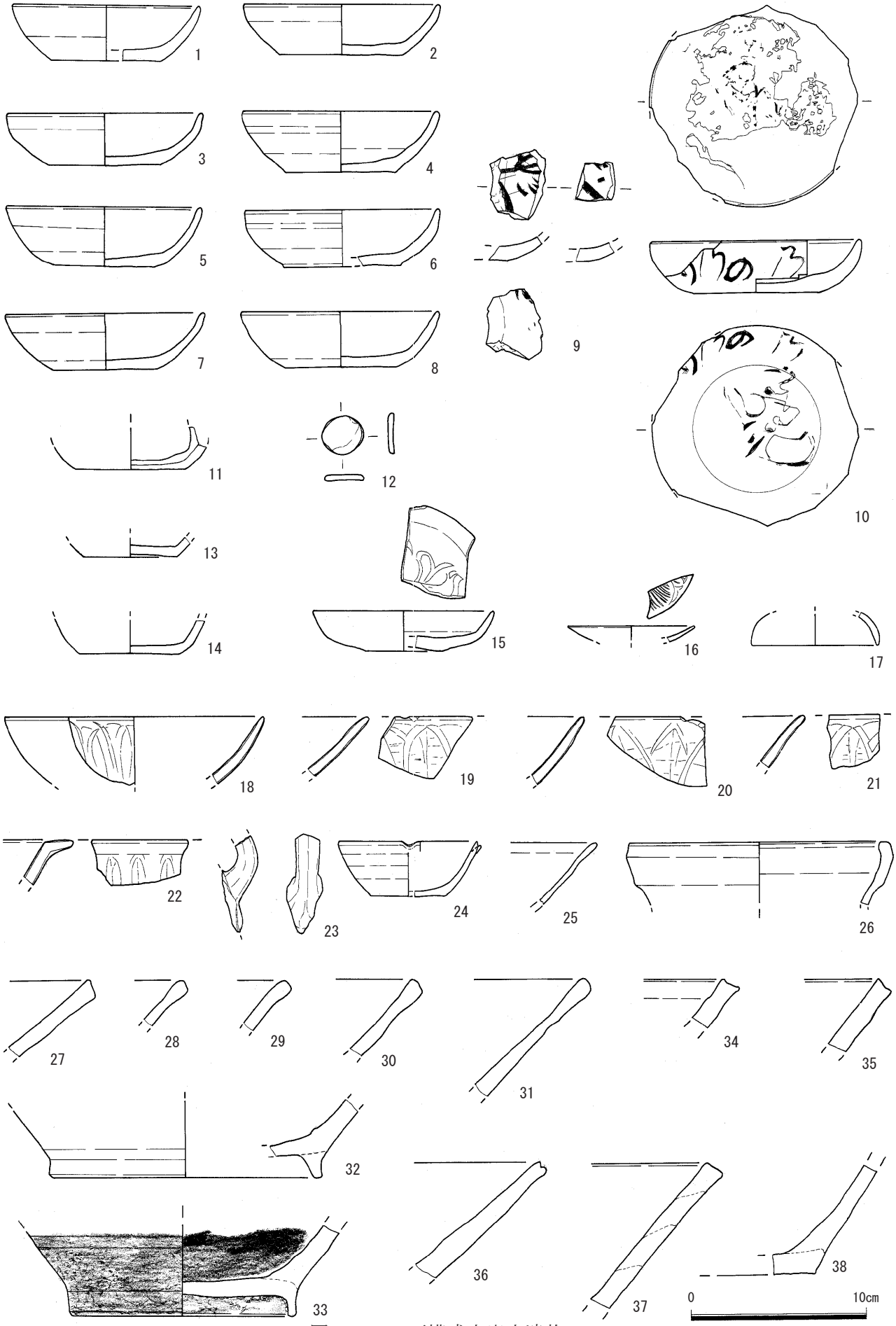


図３１　２面構成土出土遺物５

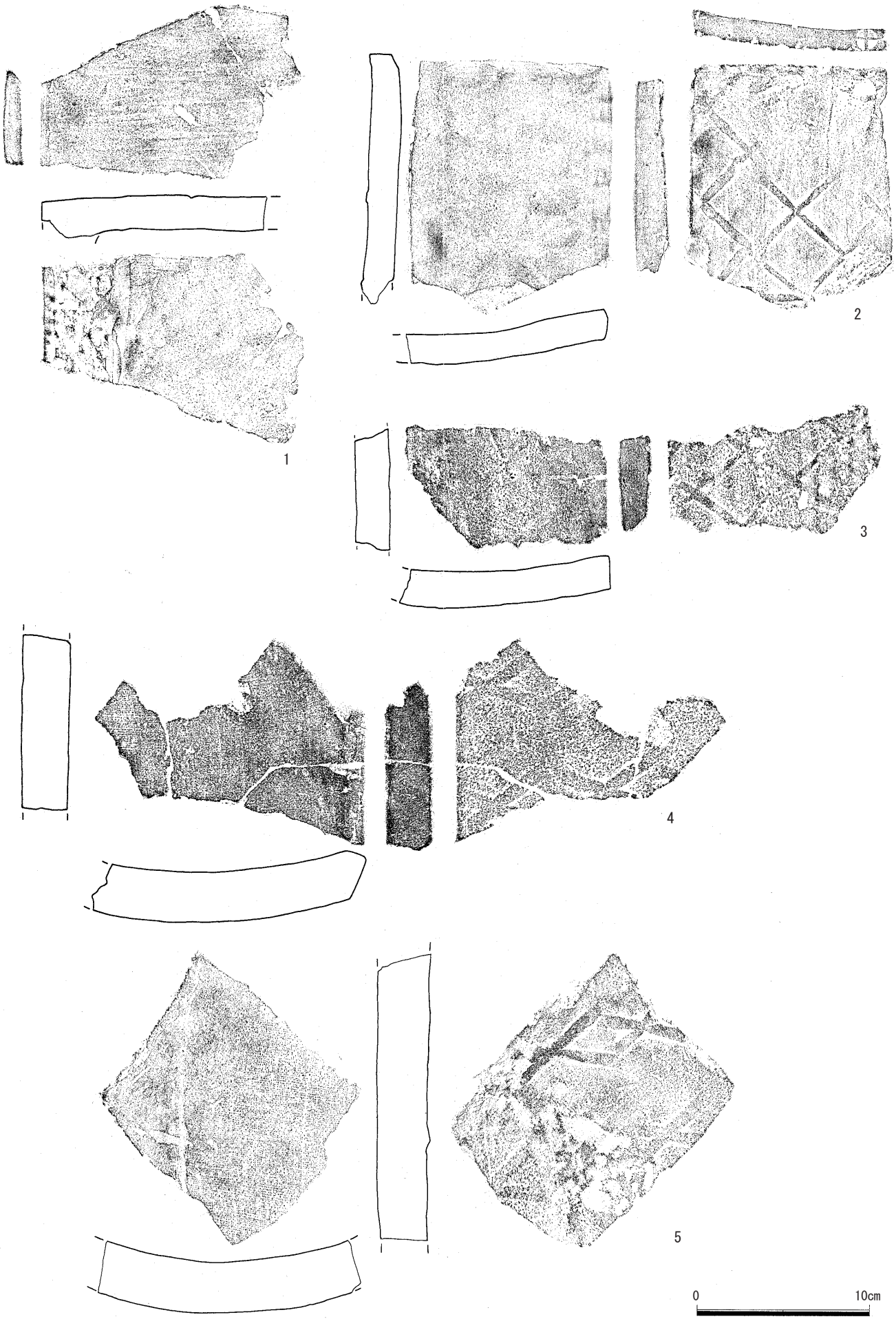


図３２　２面構成土出土遺物６

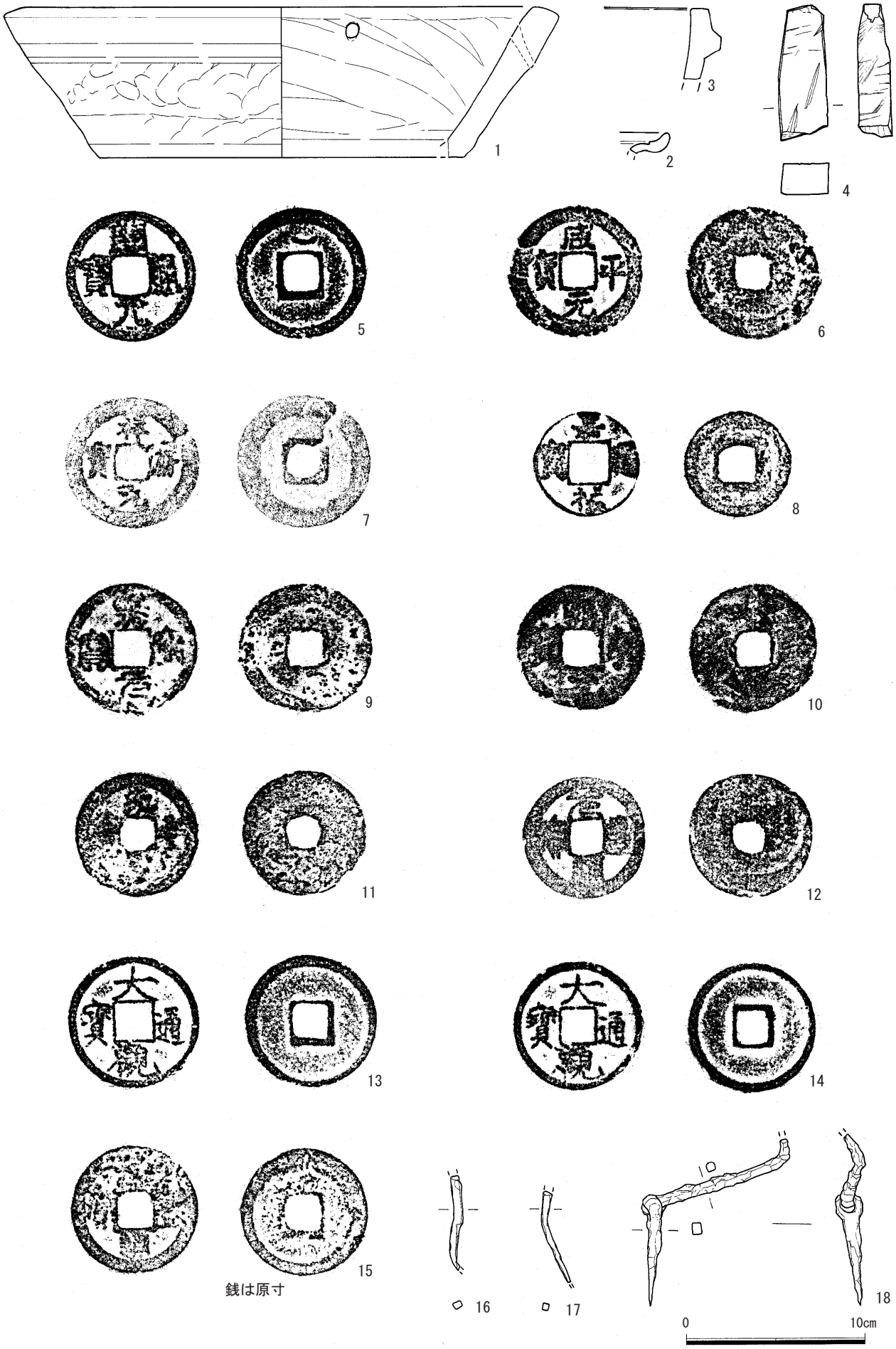


図３３　２面構成土出土遺物７

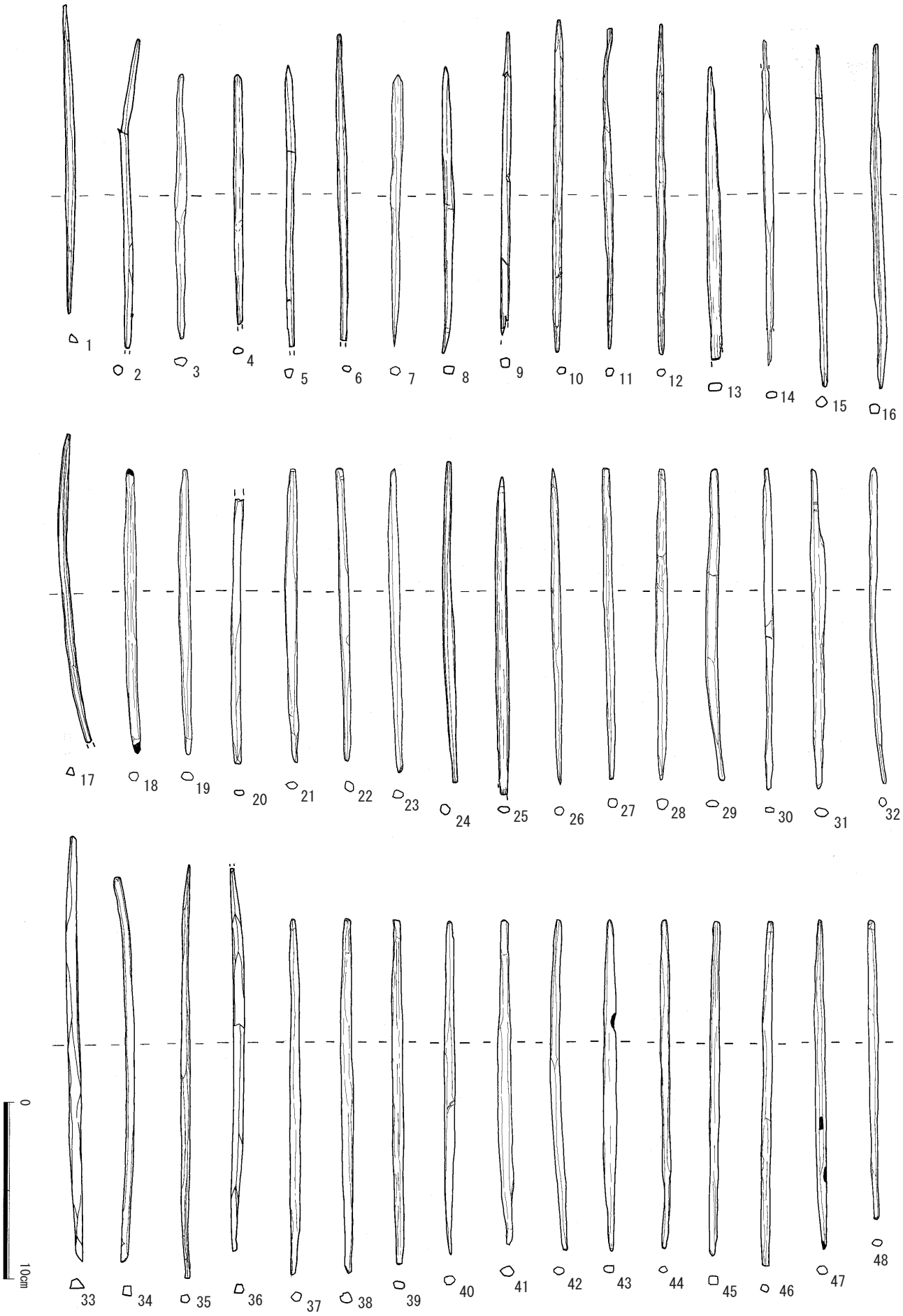


図３４　２面構成土出土遺物８

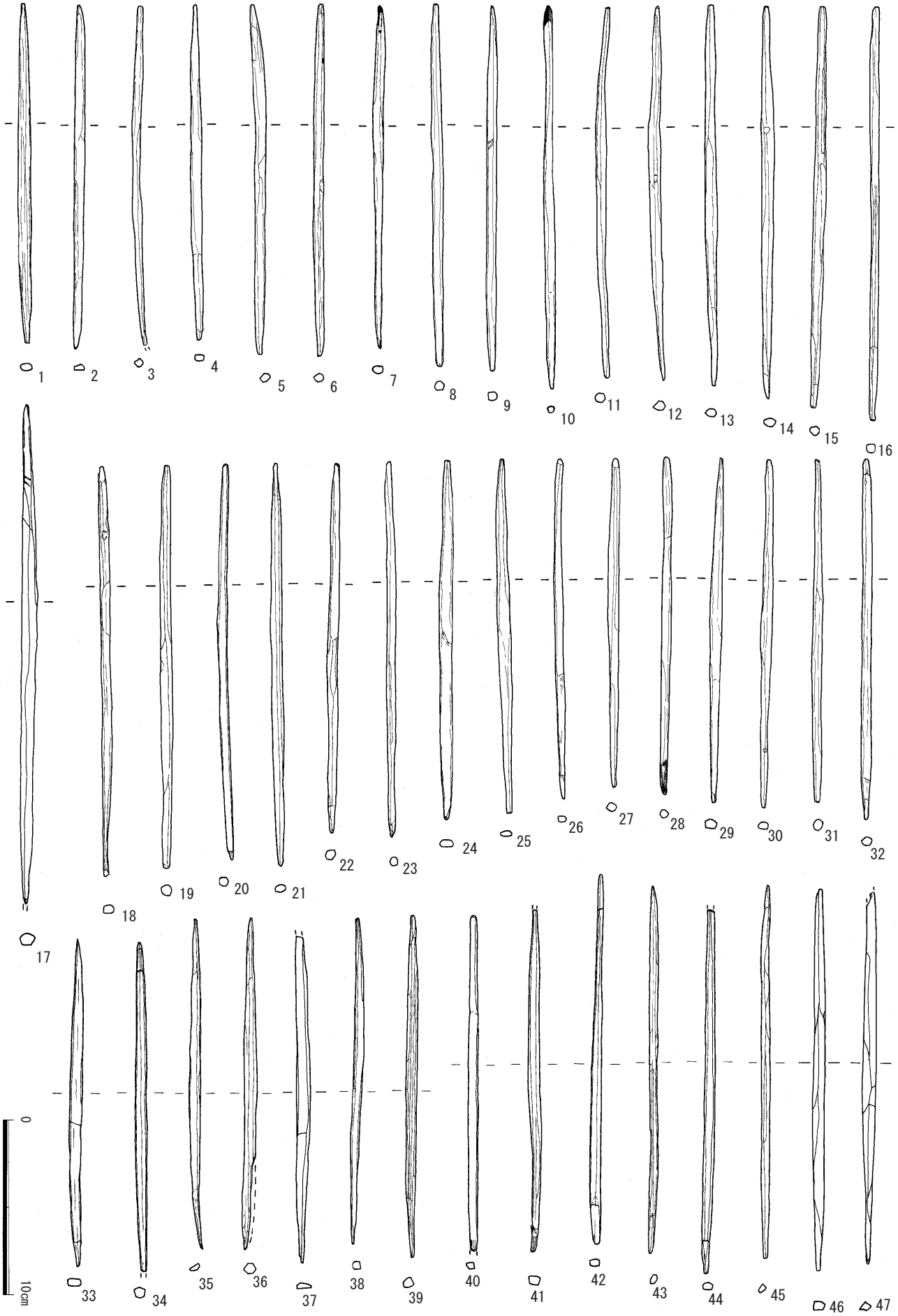


図３５　２面構成土出土遺物９

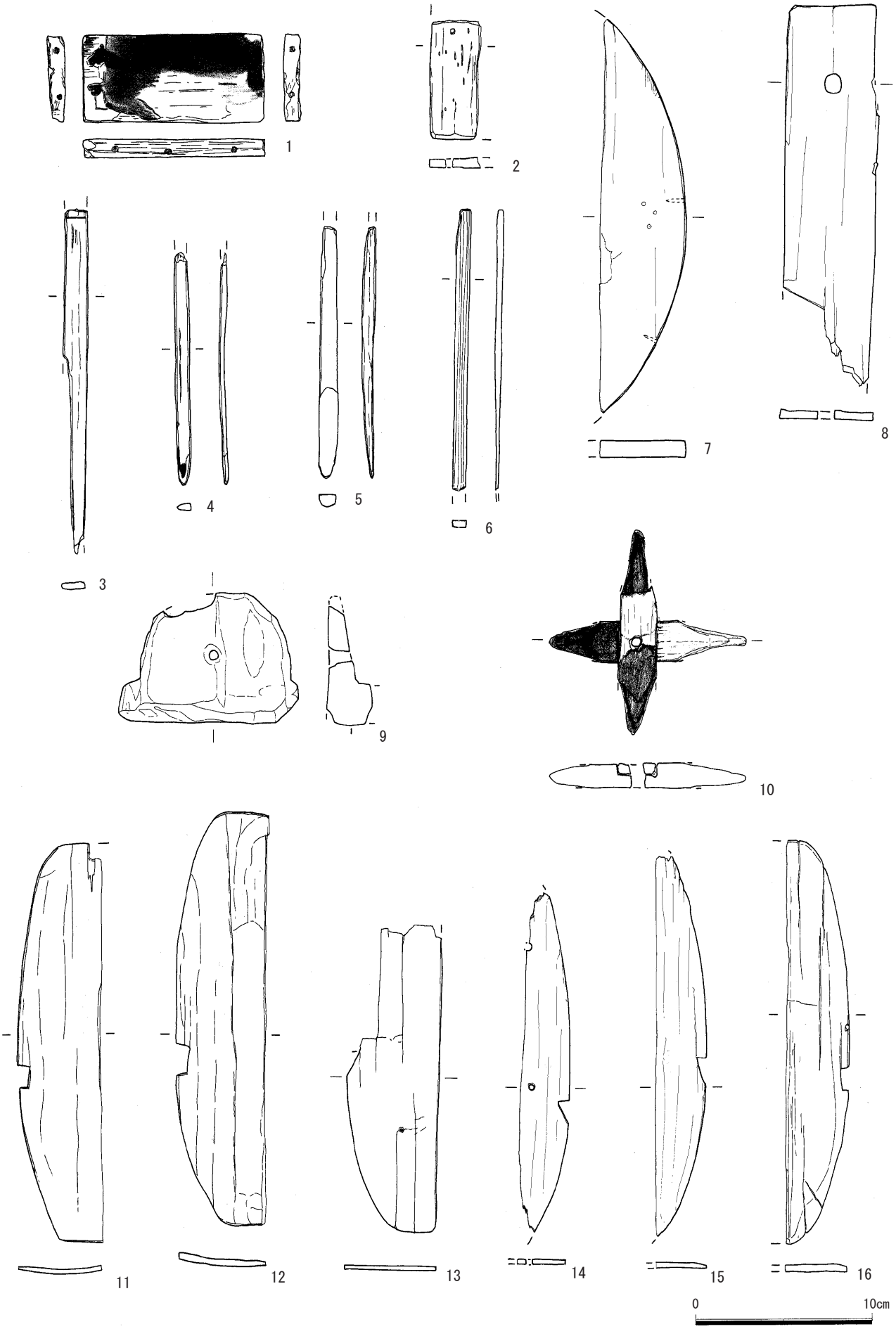


図３６　２面構成土出土遺物１０

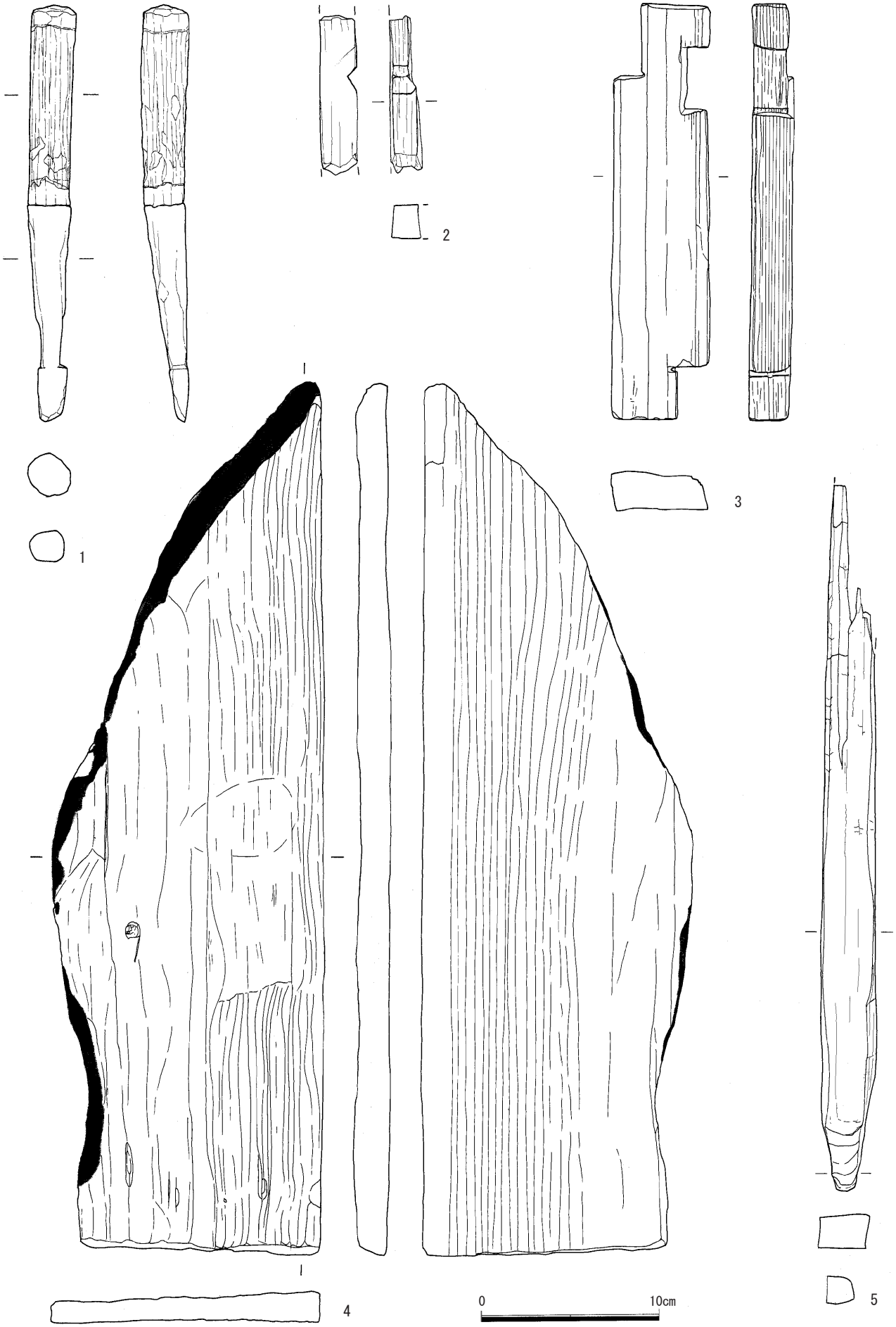
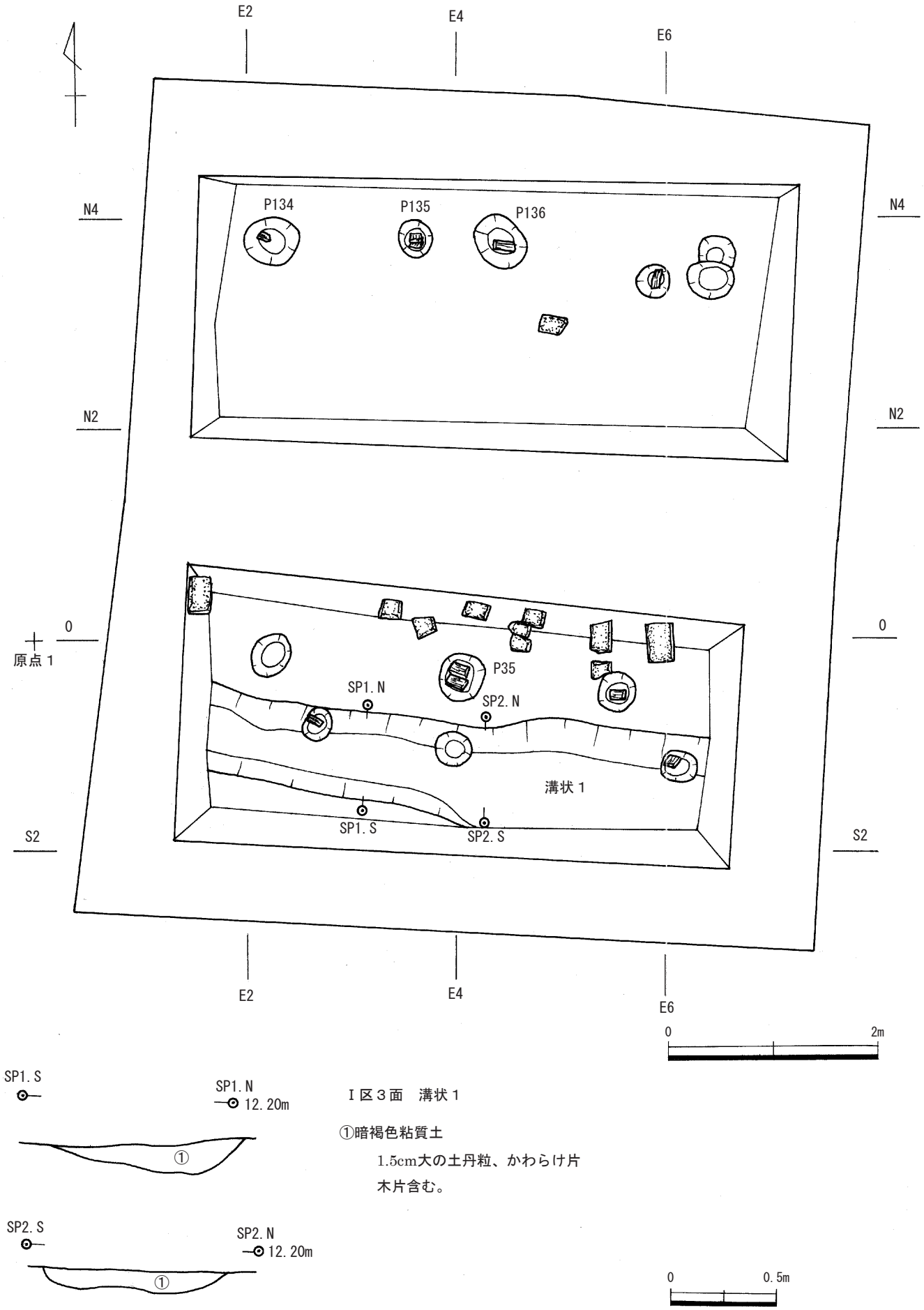


図３７　２面構成土出土遺物１１

図３８　２面構成土出土遺物１２



Ⅰ区３面　溝状１

①暗褐色粘質土

1.5cm大の土丹粒、かわらけ片

木片含む。

図３９　３面全側図

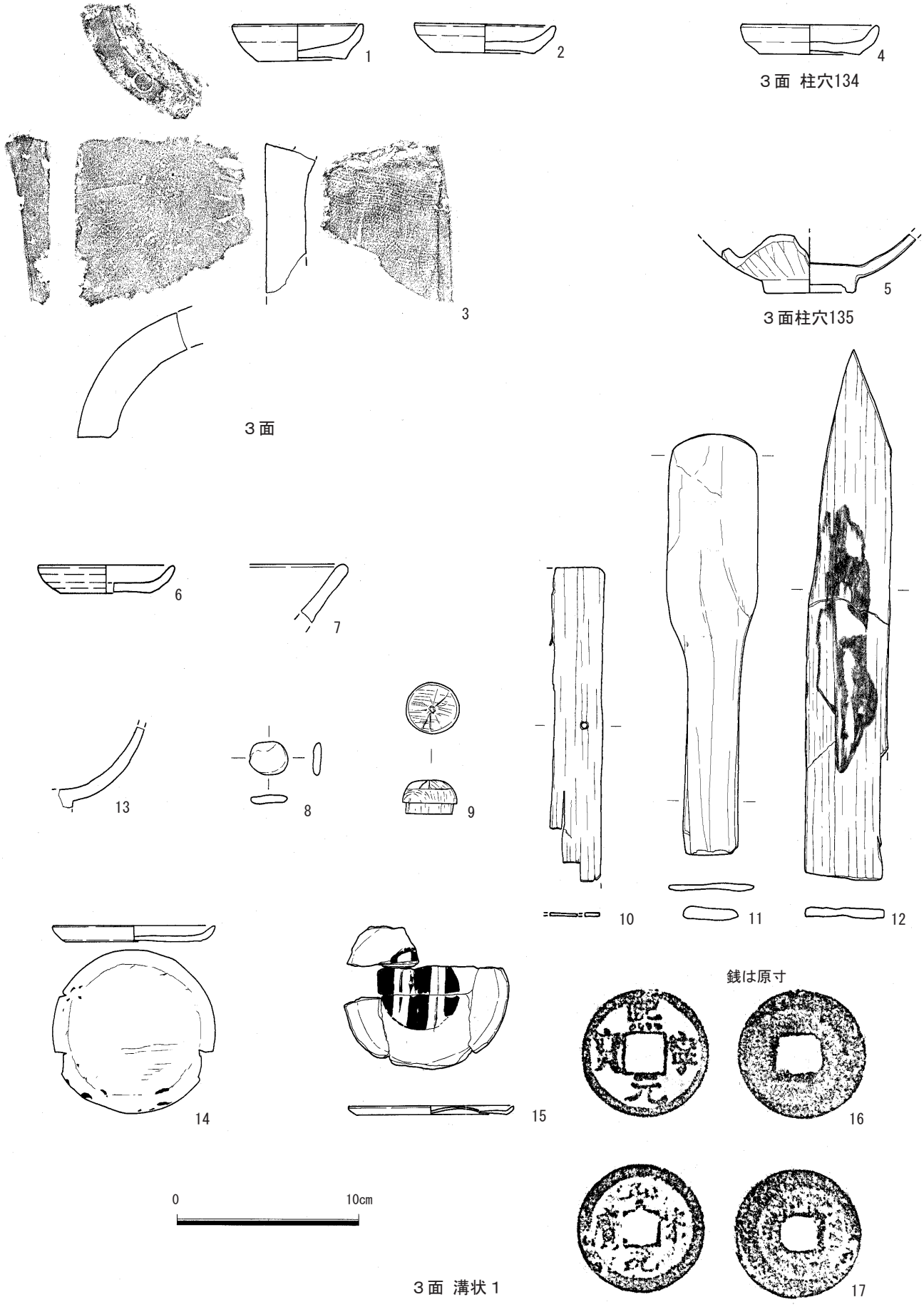


図４０　３面・３面遺構出土遺物

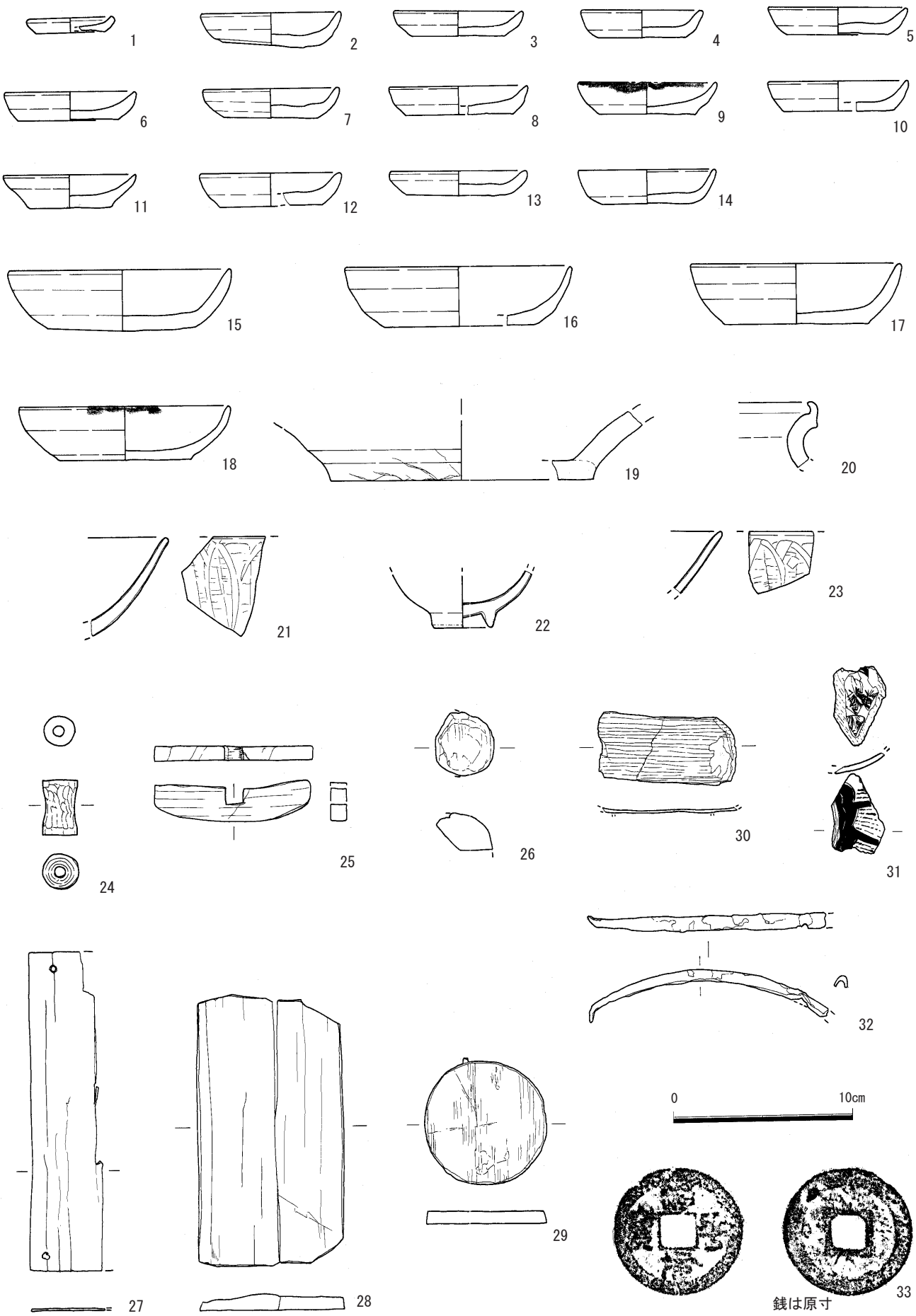


図４１　３面構成土出土遺物

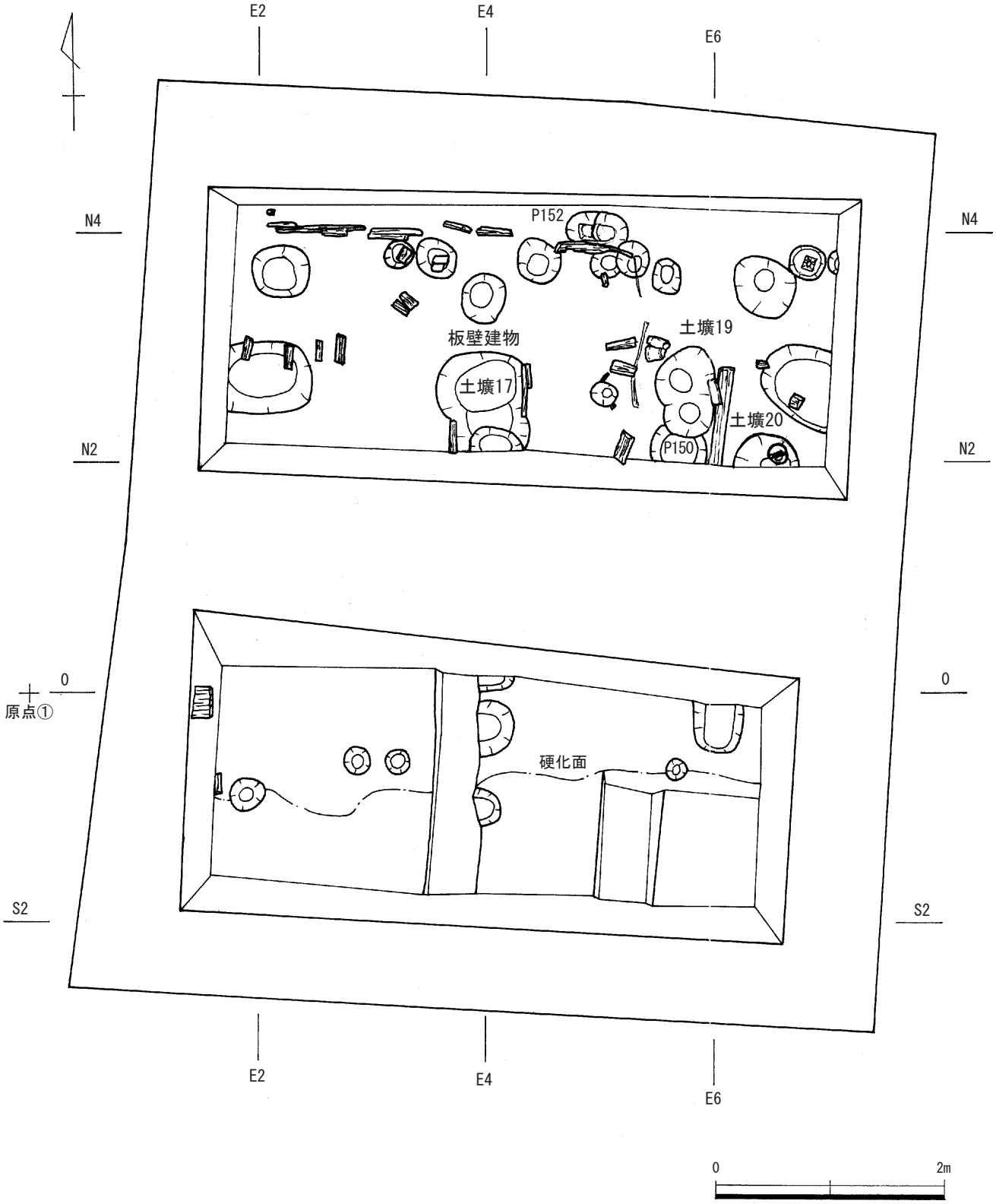


図４２　４面全側図

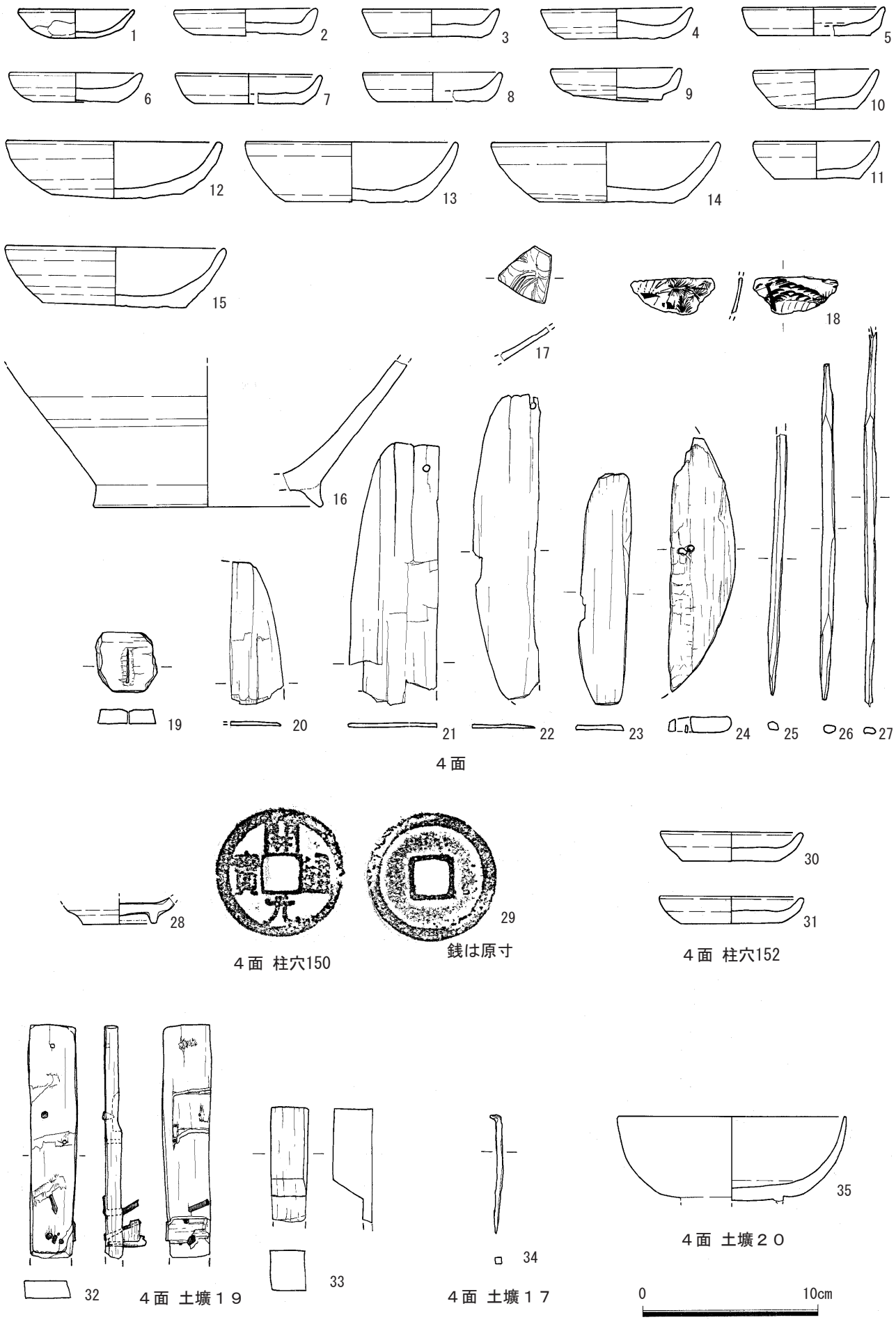


図４３　４面・４面遺構出土遺物

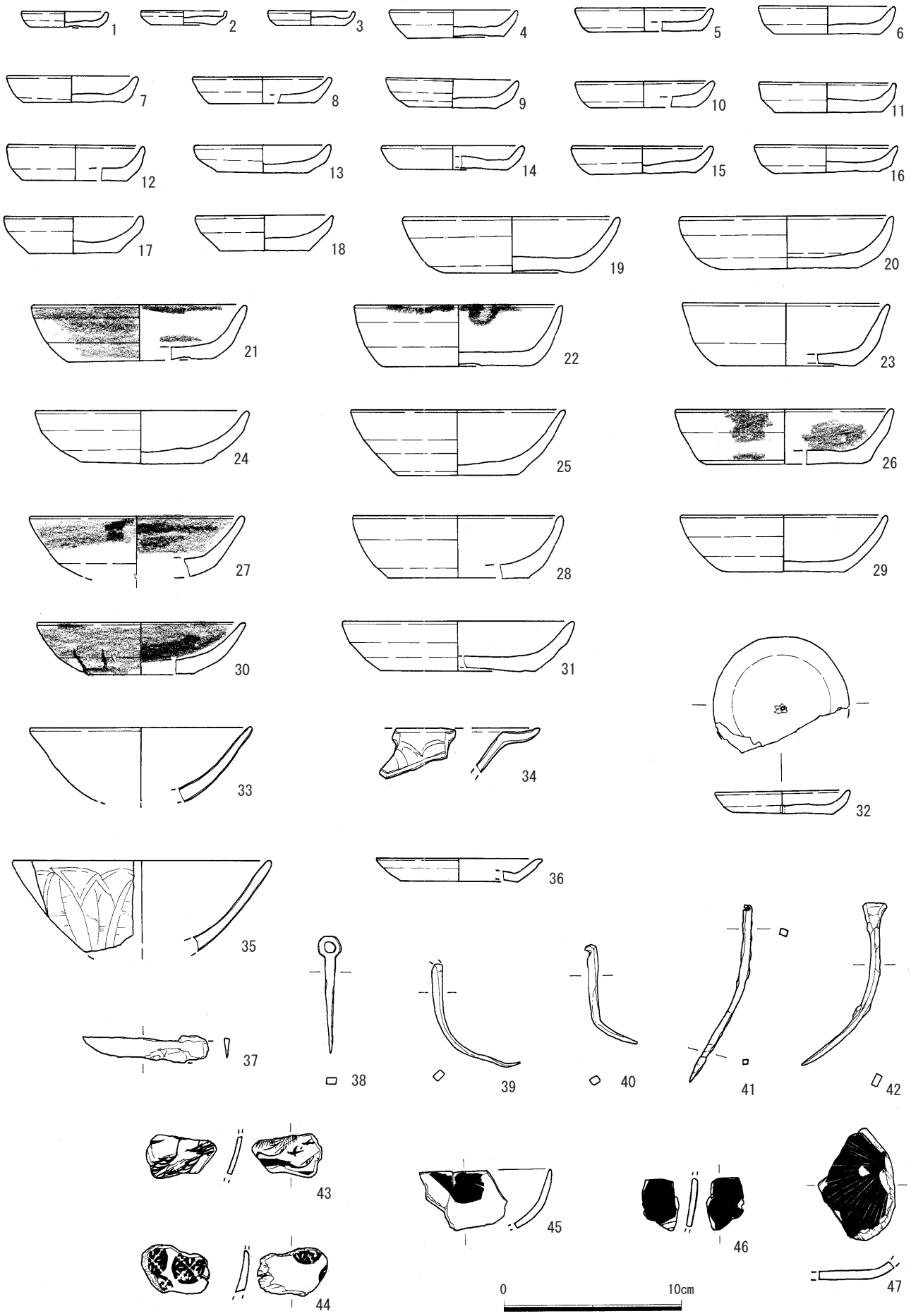


図４４　４面構成土出土遺物１

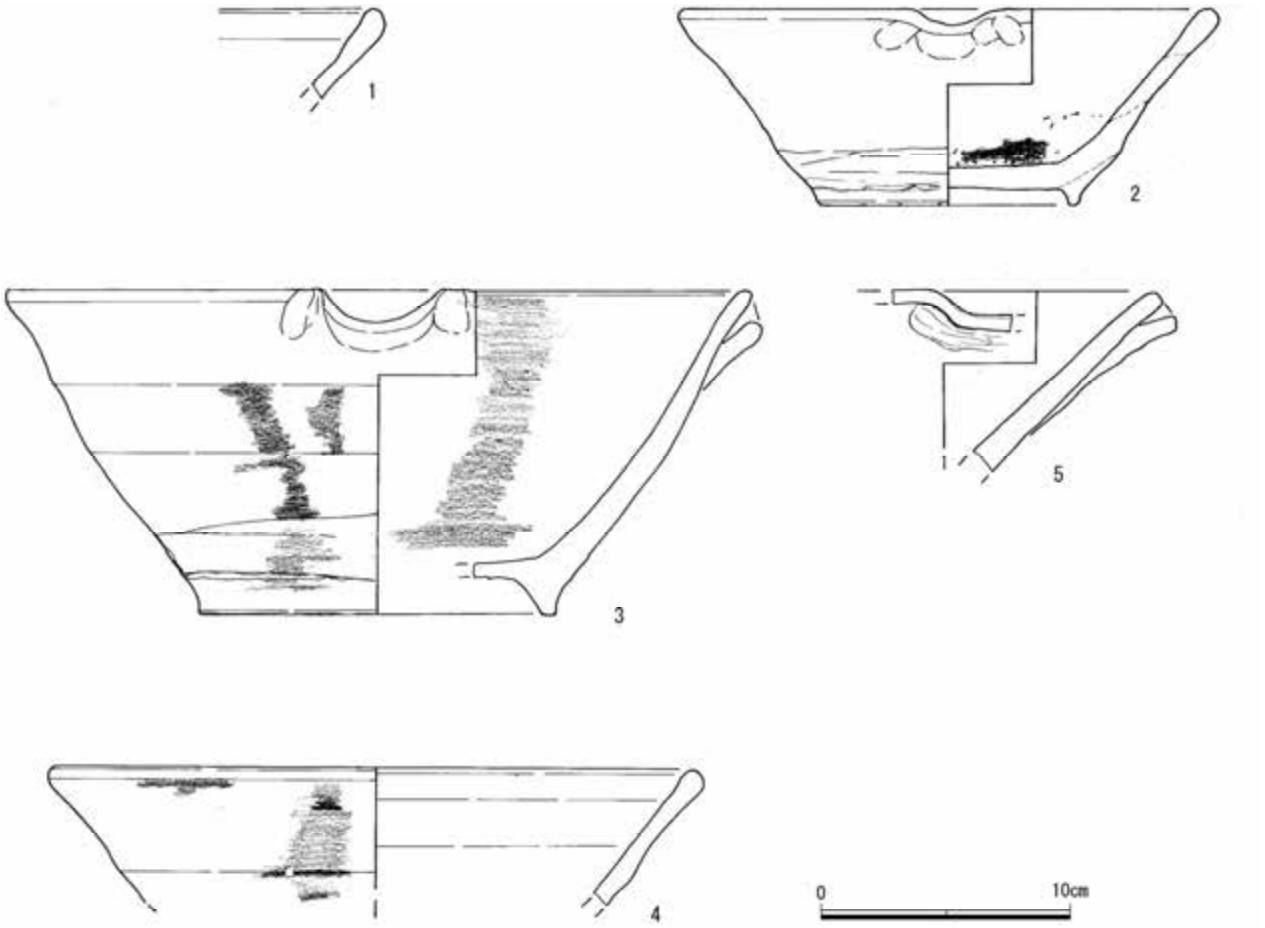


図４５　４面構成土出土遺物２

第６面構成土中から、轆轤成形のかわらけと共に手捏ね成形のかわらけが多く出土するようになり、他に瓦、黒漆碗、青白磁合子蓋、灰釉陶器、須恵器甕が出土。宇瓦の瓦当文様は唐草文の周囲に連珠文が巡る。胎土はきめ細かな精良土でＧ類。Ａ類胎土の女瓦、男瓦とともに鎌倉Ⅰ期。Ｃ類胎土の女瓦は鎌倉Ⅱ期。鎌倉Ⅱ期の女瓦が確認されていることから、第６面の時期は13世紀中葉頃か。

第７節　第７面の遺構と遺物（図56・図57～図60　図版５・13）

地表から約2.3～2.4m下の第14層(海抜約11.3m)を第７面とした。面は青灰色砂質土層で、東西方向の溝を検出した。地表からの深度が２mを超えたため、調査面積を狭め段掘りを行った。

第７面から出土するかわらけの半数以上が手捏ね成形になり、轆轤成形のかわらけを上まわる。口径44.8cm、復元最大径66cm、器高56.2cmの常滑甕(５型式)が一個体まとまって出土。女瓦も鎌倉Ⅰ期。

第７面構成土中から、かわらけ、青磁劃花文碗、白磁四耳壷、唐草文宇瓦、鎌倉Ⅰ期の男瓦・女瓦が出土している。

出土遺物から第７面の時期は13世紀前半代と考えられる。

第８節　第８面の遺構と遺物（図61・図62・図63　図版５・14・15）

地表から約2.5m下の第15層(海抜約11m)を第８面とした。第８面は青灰色砂質土層(５～10mmの土丹粒多く、茶褐色砂質土混じる)で、Ⅰ区で南北方向の溝14と直径40cmと25cmの礎石を検出した。溝の幅

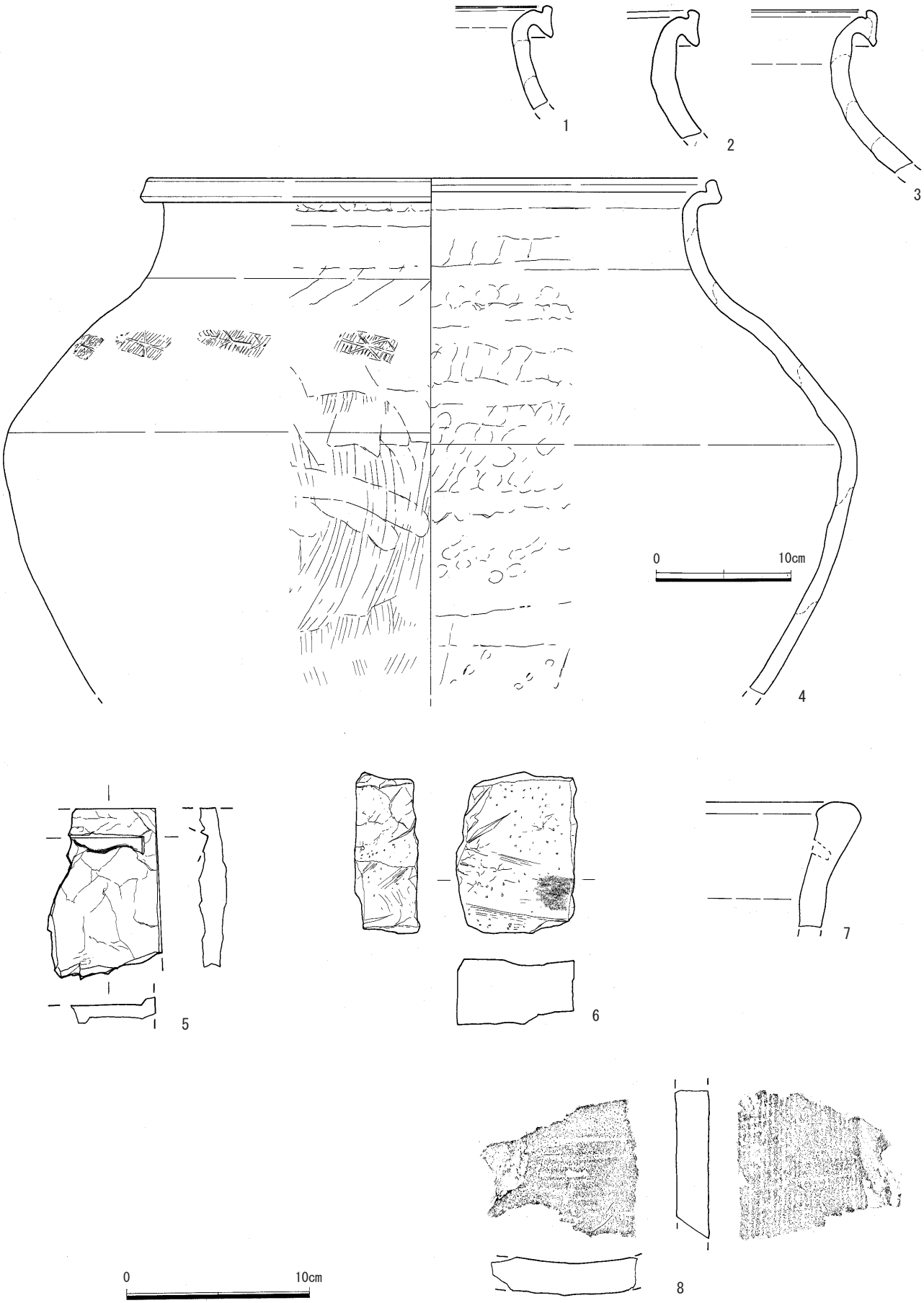


図４６　４面構成土出土遺物３

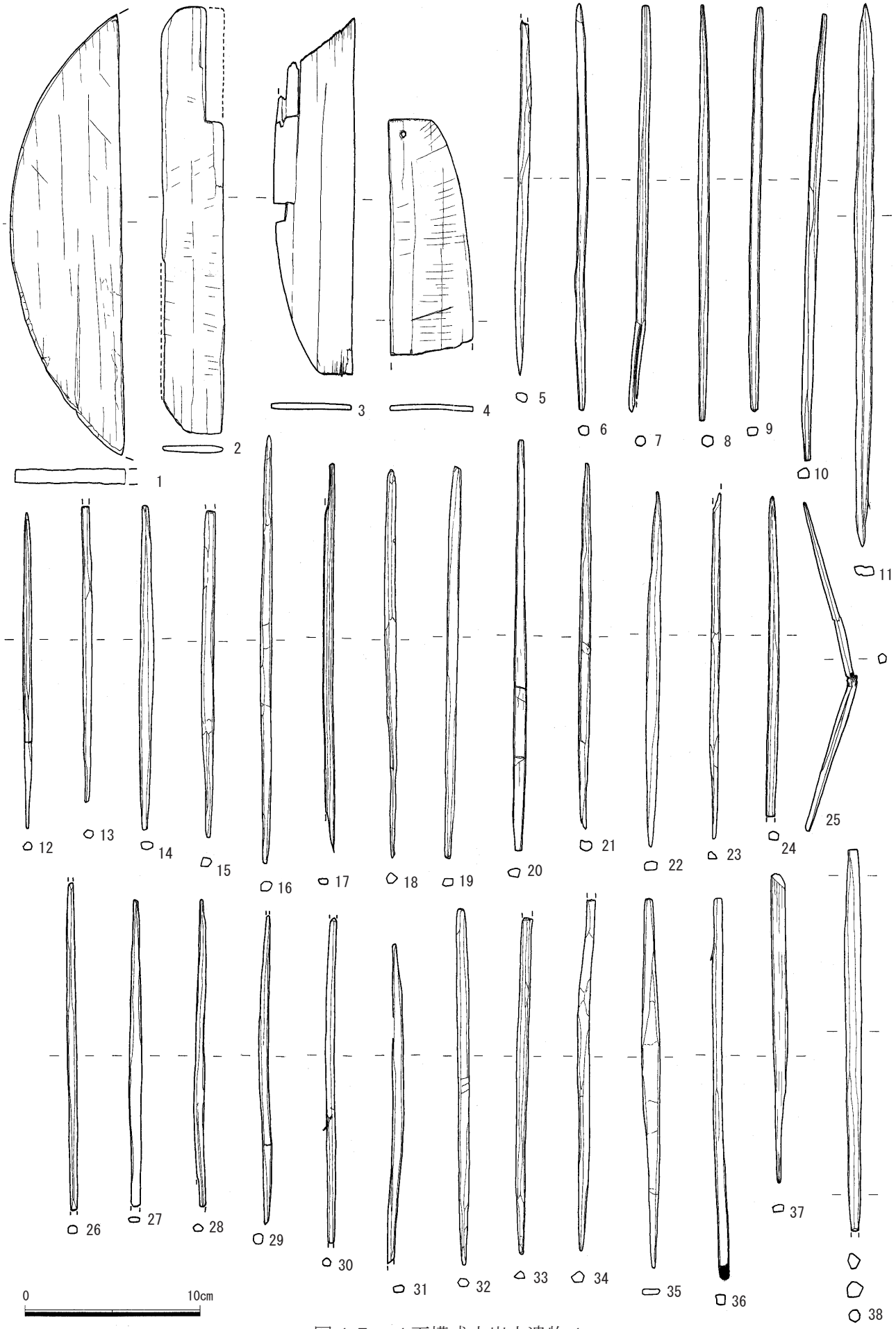


図４７　４面構成土出土遺物４

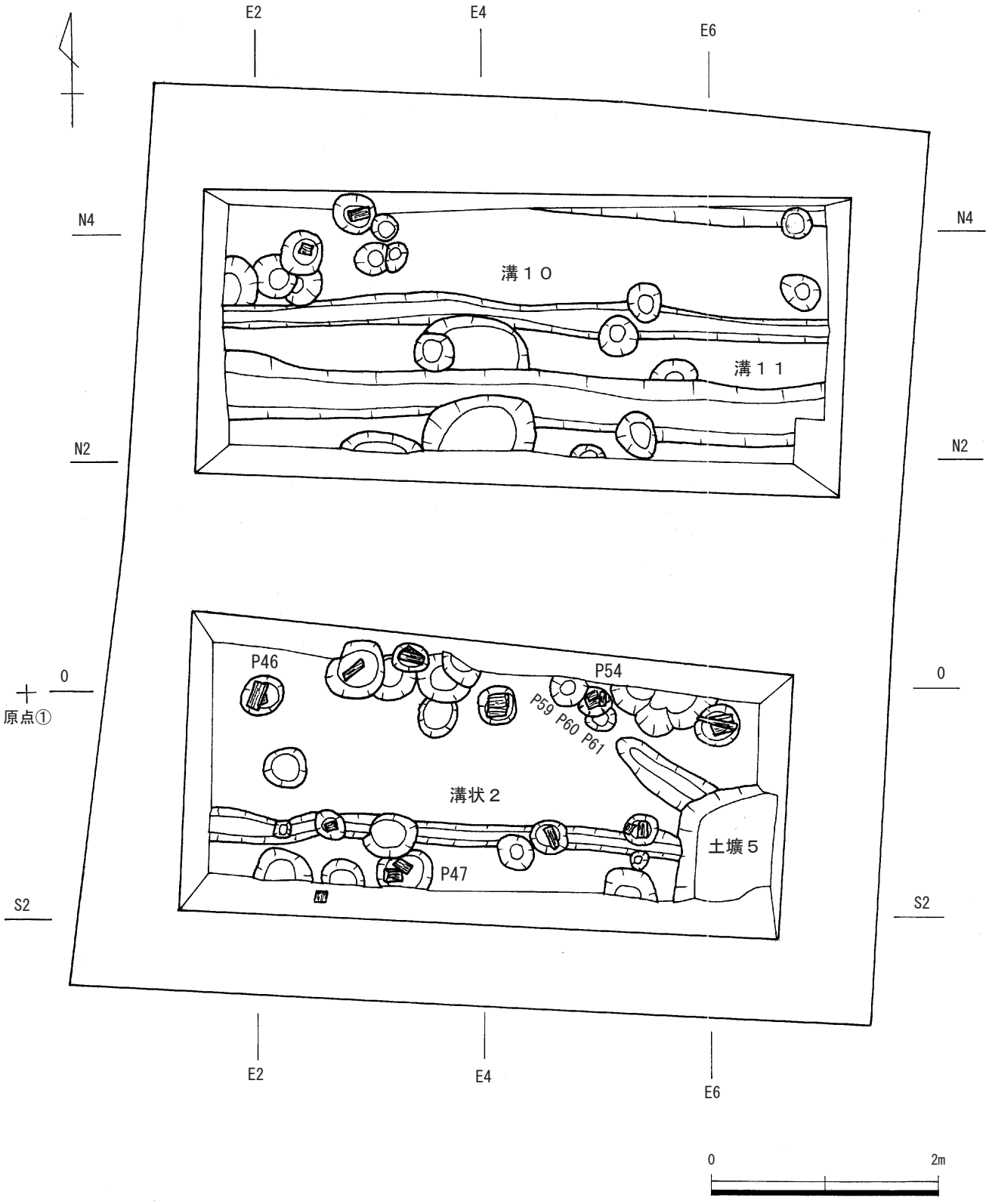


図４８　５面 全側図

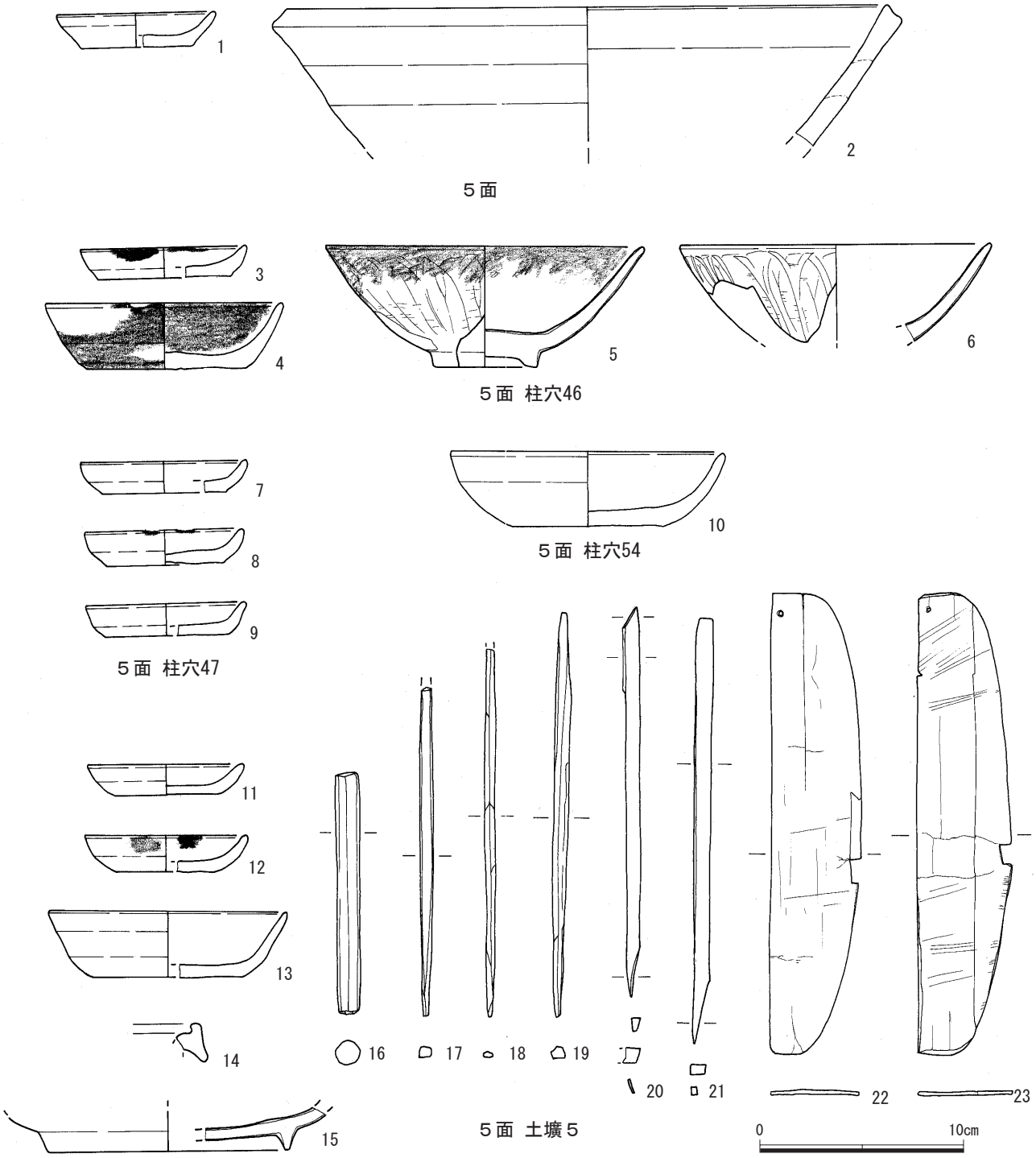


図４９　５面・５面遺構出土遺物

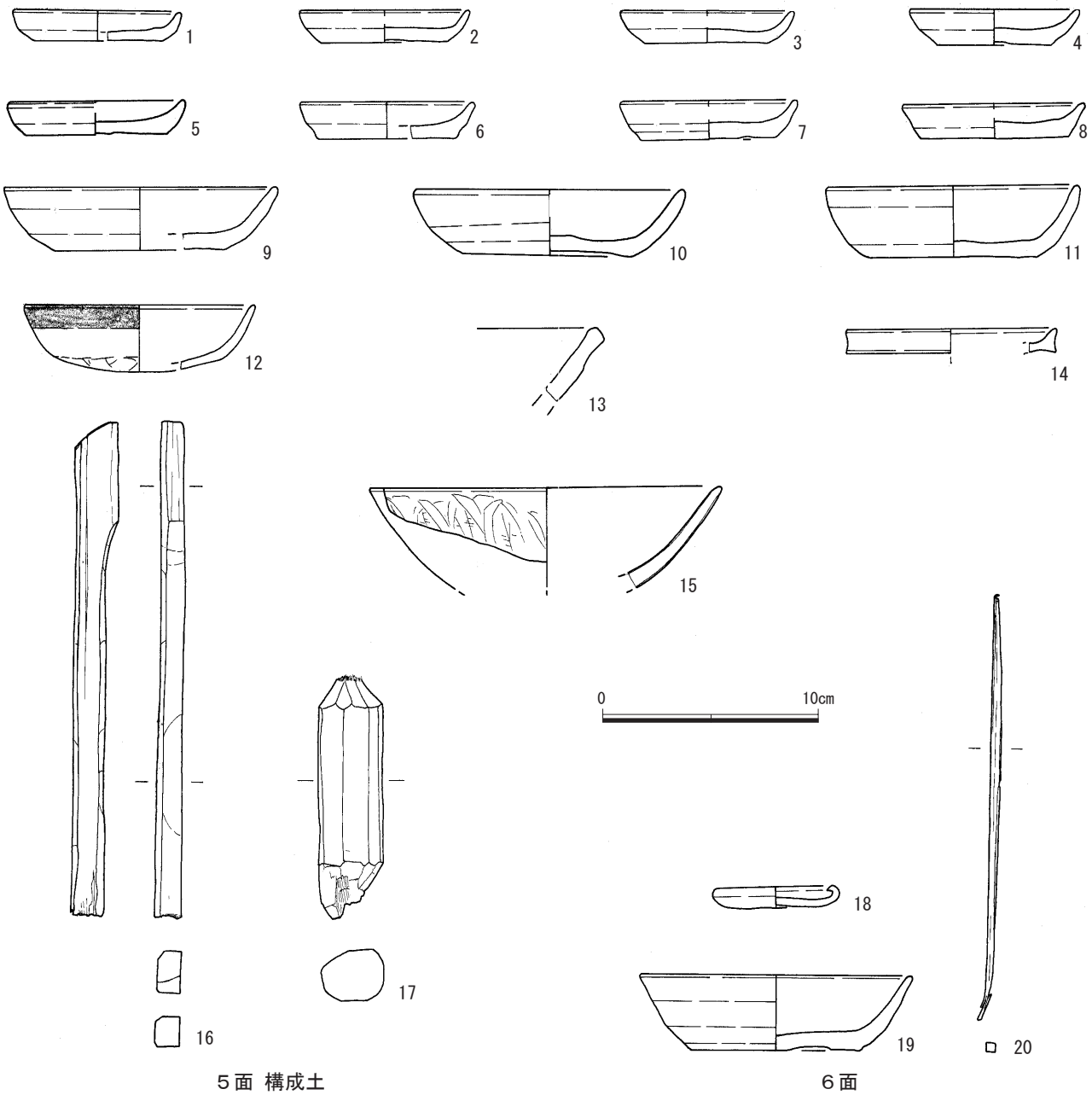


図５０　５面構成土・６面出土遺物

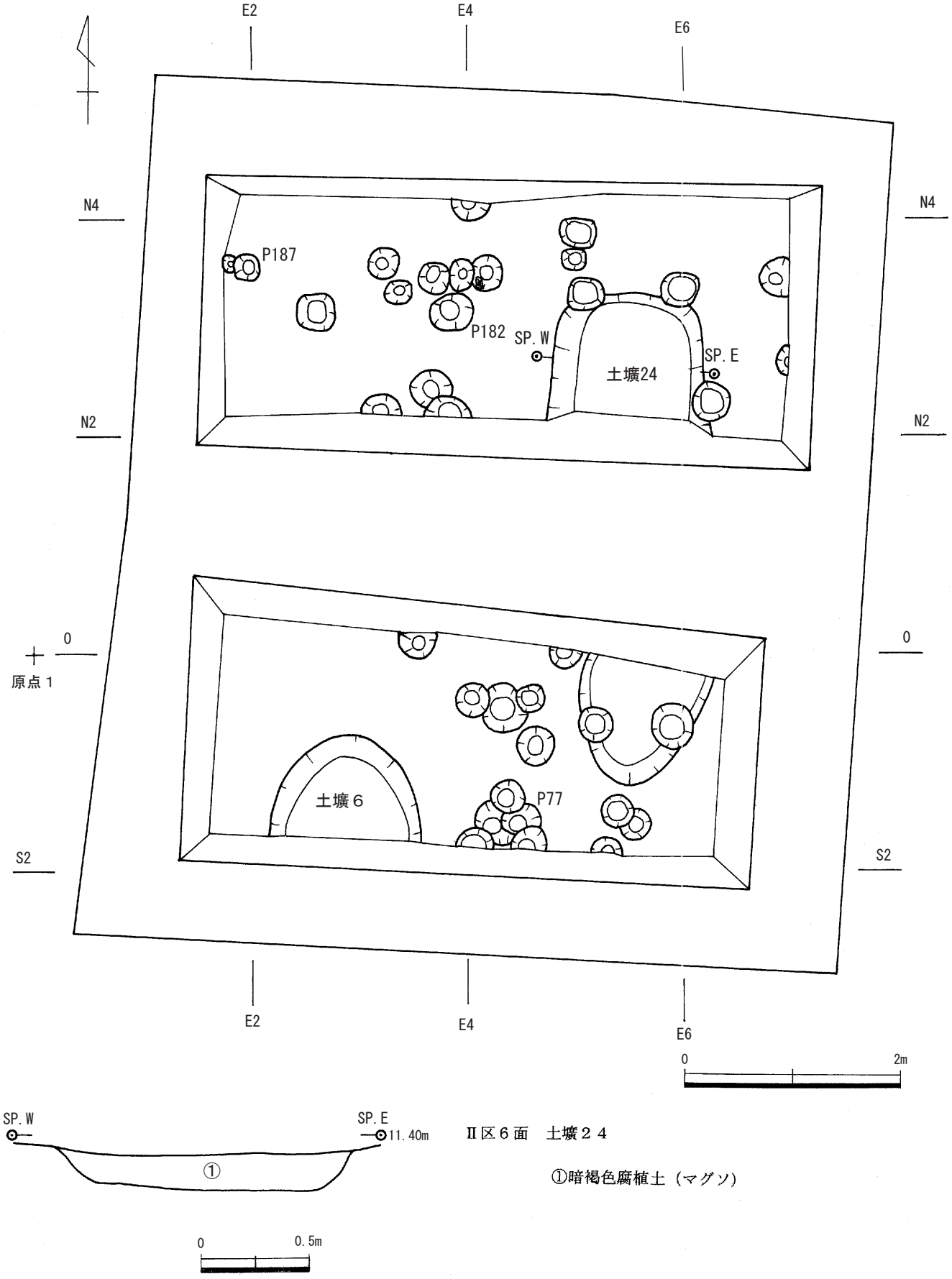

E2
E4
E6
N4
N2
0
S2
原点１
P187
P182
SP. W
SP. E
土壙24
土壙６
P77
0
2m
SP. W
SP. E
11. 40m
①
Ⅱ区６面　土壙２４
①暗褐色腐植土（マグソ）
0
0. 5m

図５１　６面全側図

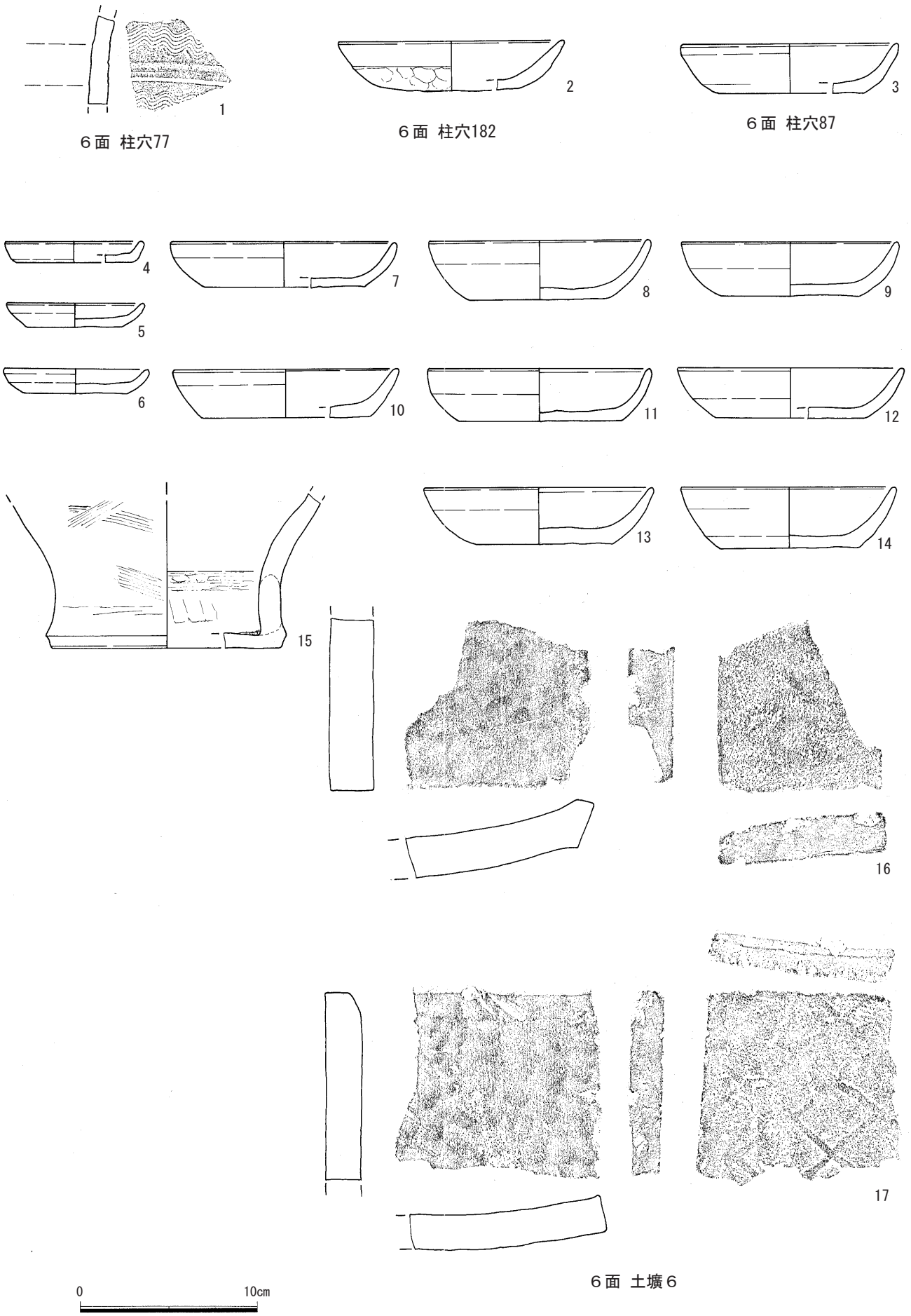


図５２　６面遺構出土遺物１

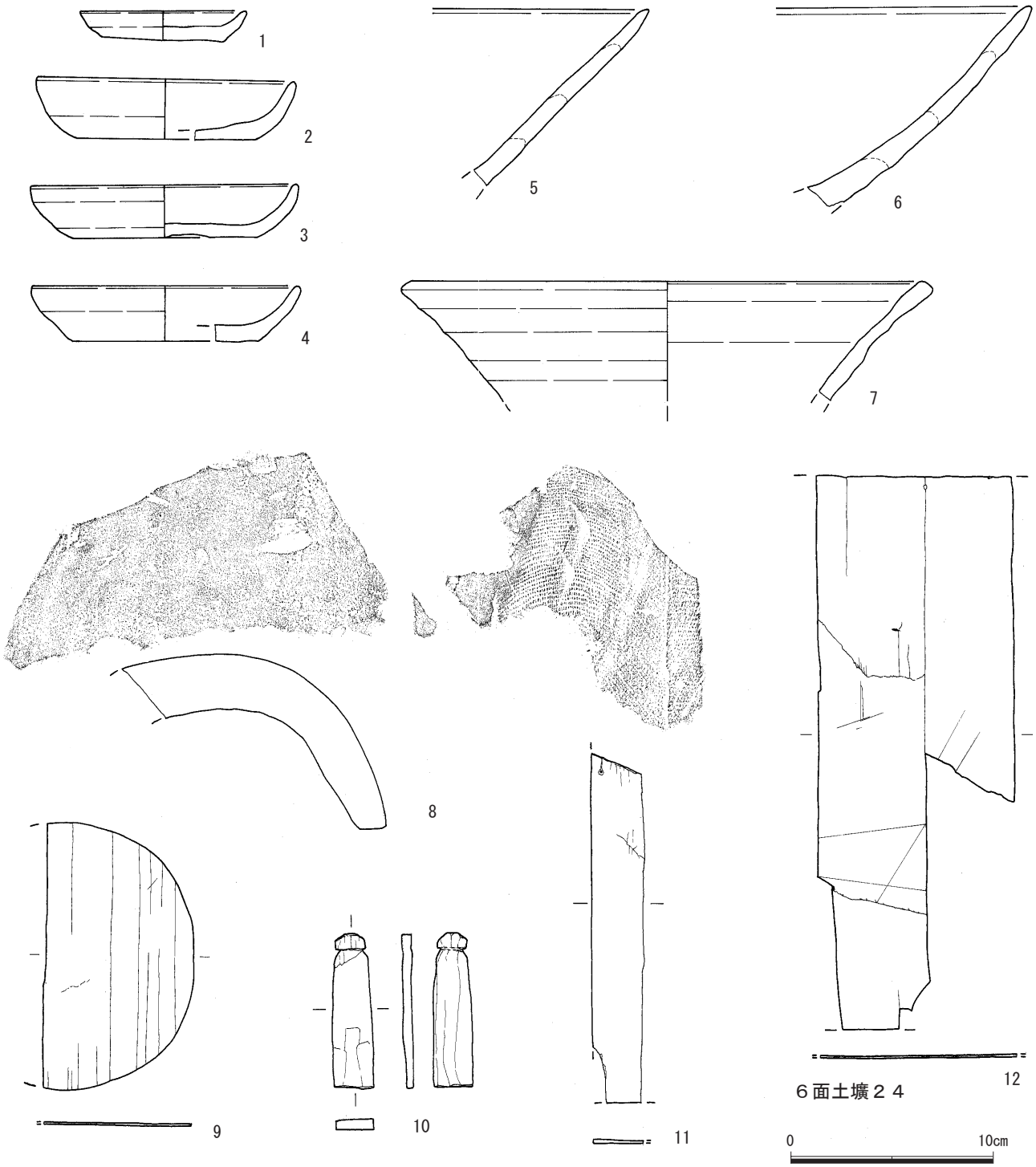


図５３　６面遺構出土遺物２

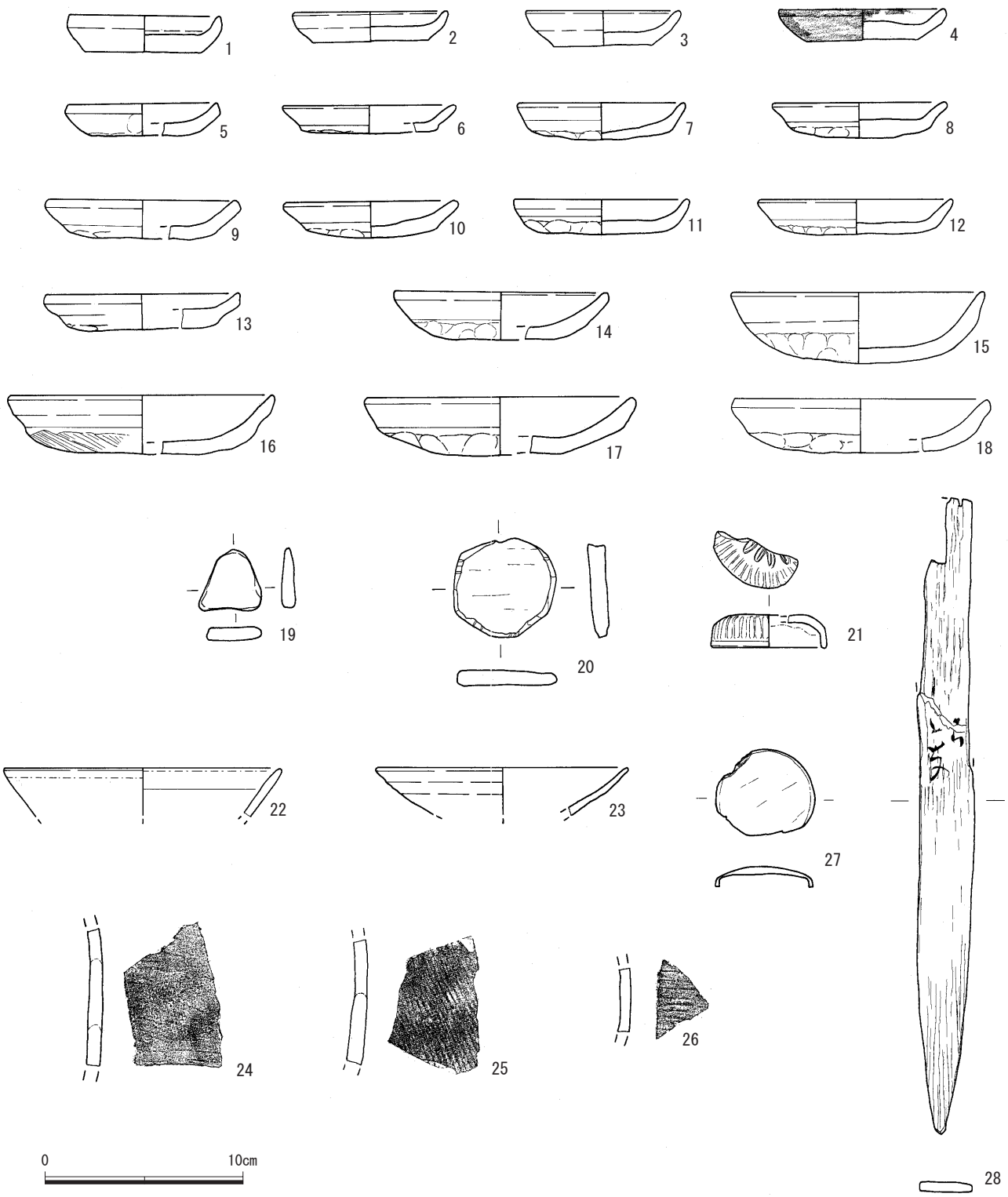


図５４　６面構成土出土遺物１

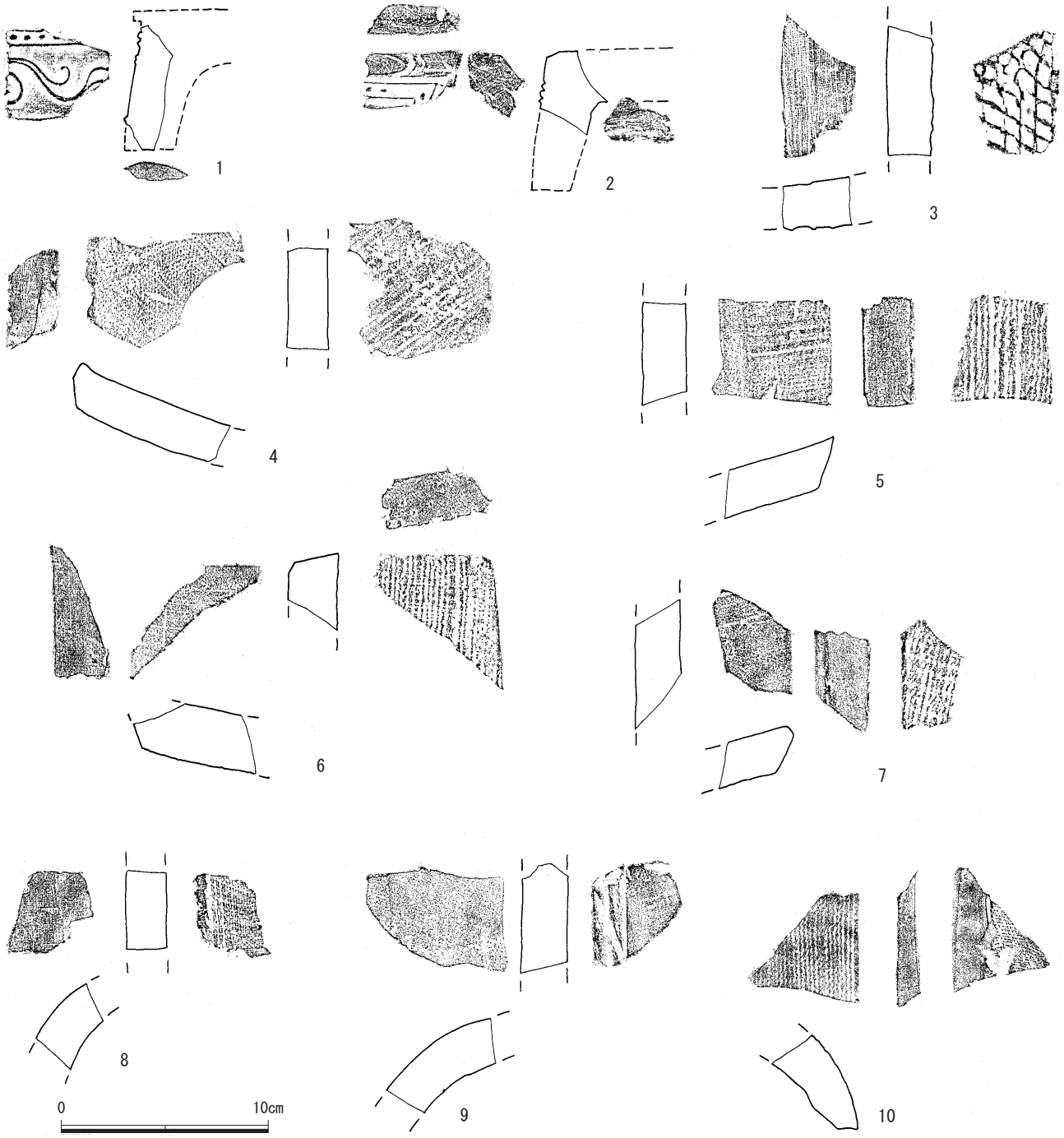


図５５　６面構成土出土遺物２

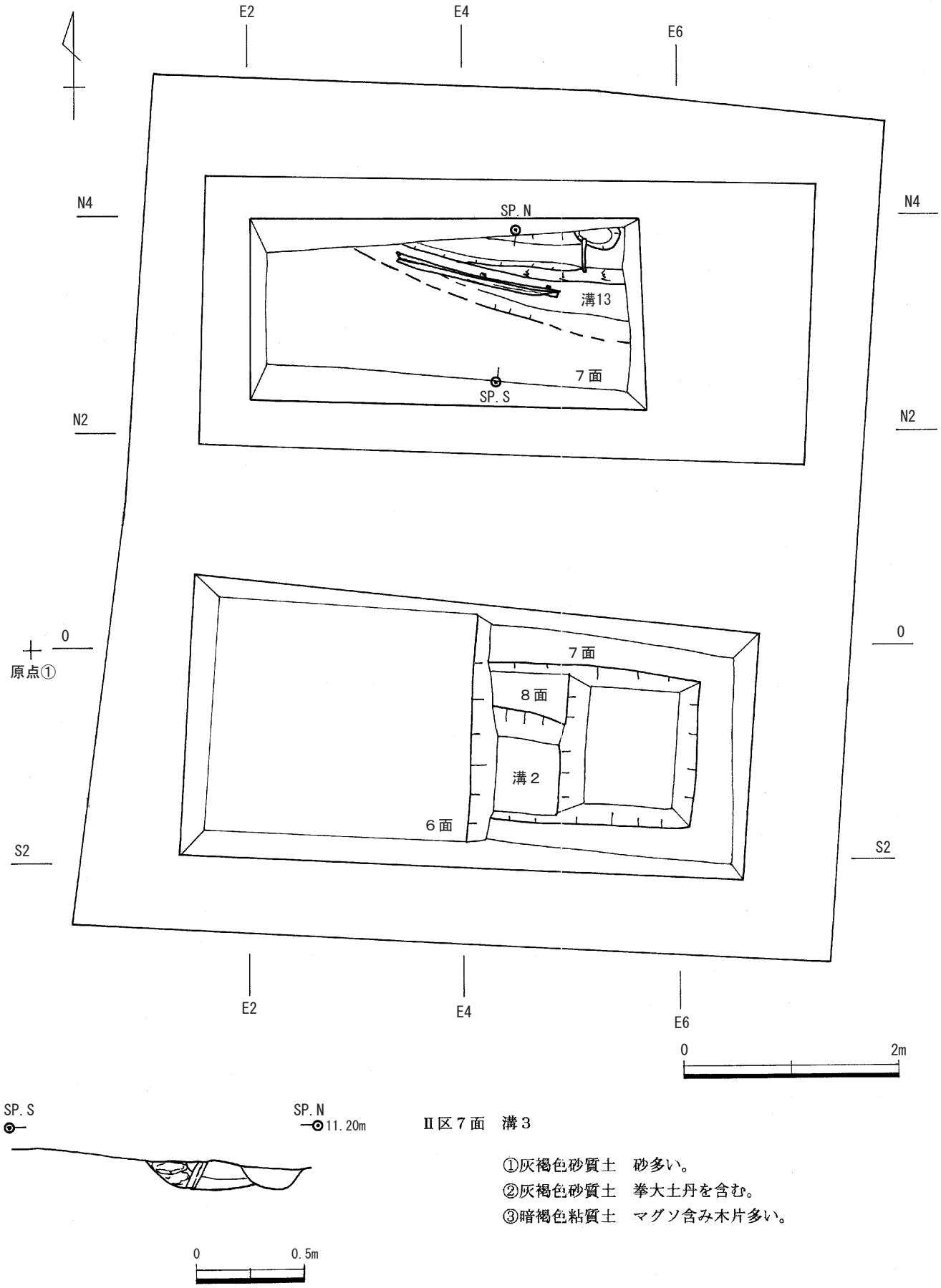

E2
E4
E6
N4
N2
0
S2
SP.N
SP.S
溝13
7面
8面
溝2
6面
原点①
0
2m
SP.S
SP.N
11.20m
Ⅱ区7面　溝3
①灰褐色砂質土　砂多い。
②灰褐色砂質土　拳大土丹を含む。
③暗褐色粘質土　マグソ含み木片多い。
0
0.5m

図５６　７面全側図

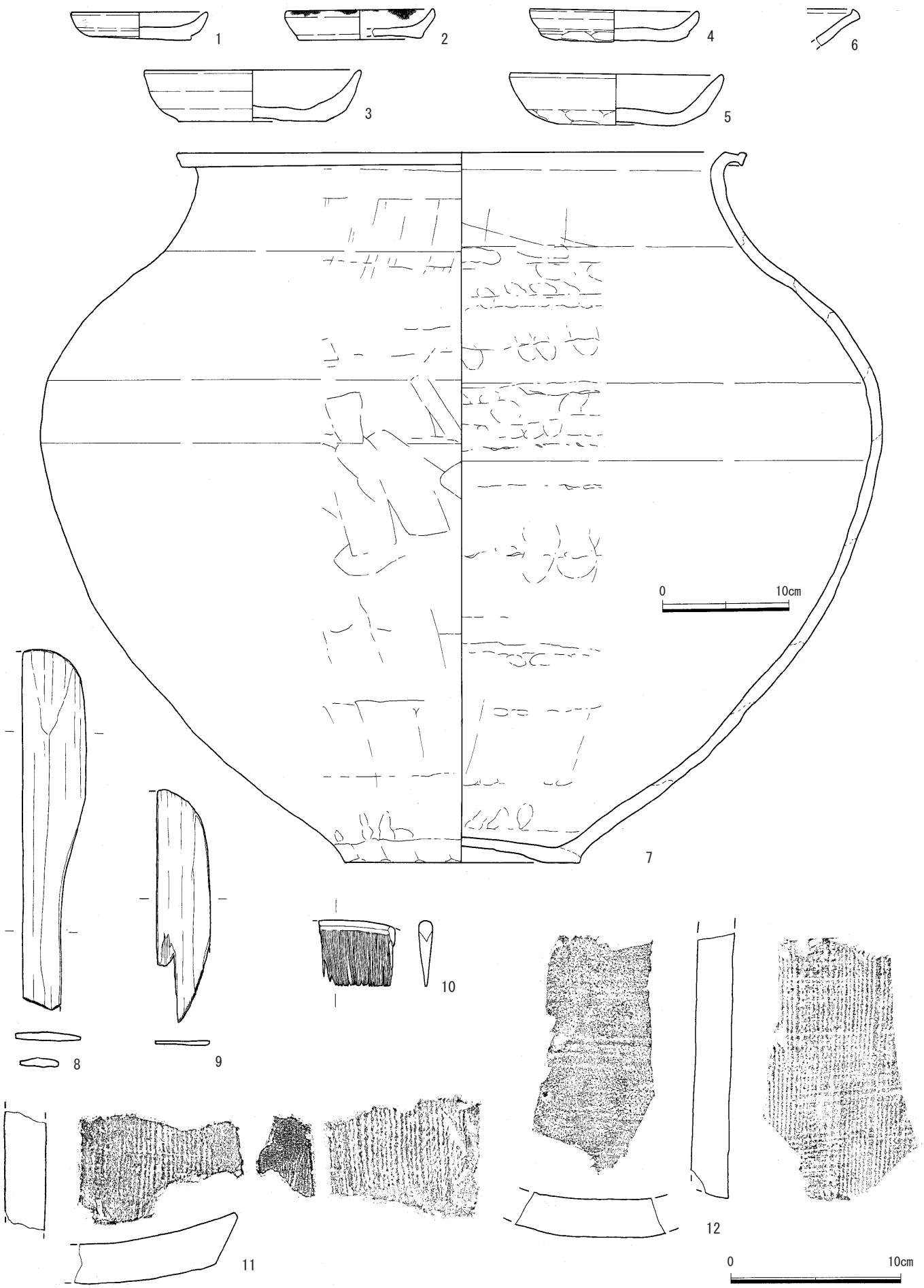


図５７　７面出土遺物

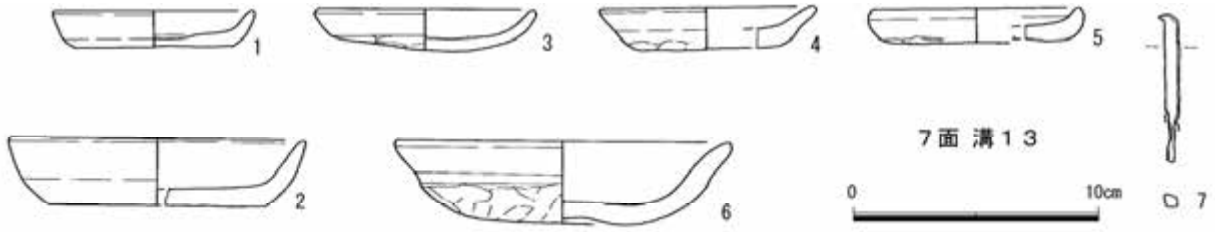


図５８　７面遺構出土遺物

は約50㎝程であるが、溝の西側縁に沿って並ぶ径25㎝程の玉石と、玉石の抜き跡列が検出された。溝の東側縁は削平のため玉石列の抜き跡は検出されていない。大きな礎石の中心から小さな礎石の中心まで150㎝、溝の中心まで180㎝である。径が40㎝の礎石は建物本体と径25㎝の礎石は縁束、溝14は雨落ち溝と考えられ、礎石と溝が一体の建物とすると、縁の幅が５尺、軒出が６尺、床が貼られた建物の周囲に雨落ち溝が廻る大規模な建物と推定される。遺跡の位置が大倉幕府の中枢域の北寄りに当たることから、幕府関連の建物の一部とも考えられよう。

第８面から出土するかわらけの大半が器高の低い手捏ね成形のものである。他に常滑片口鉢（５型式）、瓦ではＡ類のきめ細かく精良土の巴文鐙瓦、Ｇ類のきめ細かく雲母が含まれる精良土、唐草文の周囲に連珠文が廻る宇瓦。舶載陶器の緑釉盤。全面黒漆塗りの漆器は器高が高く底部が突出している。これらの出土遺物から第８面の時期は13世紀前葉と考えられる。

第９節　第９面の遺構と遺物（図64・図63　図版６・14）

地表から約2.9m下の第18層（海抜約10.7m）を第９面とした。黒褐色砂質土層（砂が多い）でＩ区のみで確認した。南北方向の溝が検出されているが、８面で確認した溝14の真下である。同じ規模の建物の雨落ち溝の痕跡とするならば、大倉幕府は数回に渡り焼失していることから、その時の再建の痕跡か。他に１穴のみ確認されている浅い柱穴も、溝のすぐ脇にあり深さも浅いことから雨落ち溝の縁石の痕跡と見ることも出来る。調査区が狭いために詳細は不明である。

第９面からは手捏ね成形のかわらけ、灰釉の壺、土師器甕が出土している。

第９面構成土中からは轆轤成形・手捏ね成形の小型かわらけ、Ａ類の鎌倉Ｉ期の女瓦、灰釉陶器、須恵器甕、土師器甕が出土している。中世の遺物は多くないが、かわらけと女瓦から第９面の時期は12世紀末～13世紀前葉と考えられる。

第10節　第10面・地山面の遺構と遺物（図65・図66　図版６・14）

地表から約３ｍ下の第19層（海抜約10.3m）を第10面及び中世の地山面とした。黒灰色砂質土層で混入物なし。土師器長甕の破片が出土している。中世遺物は出土していない。

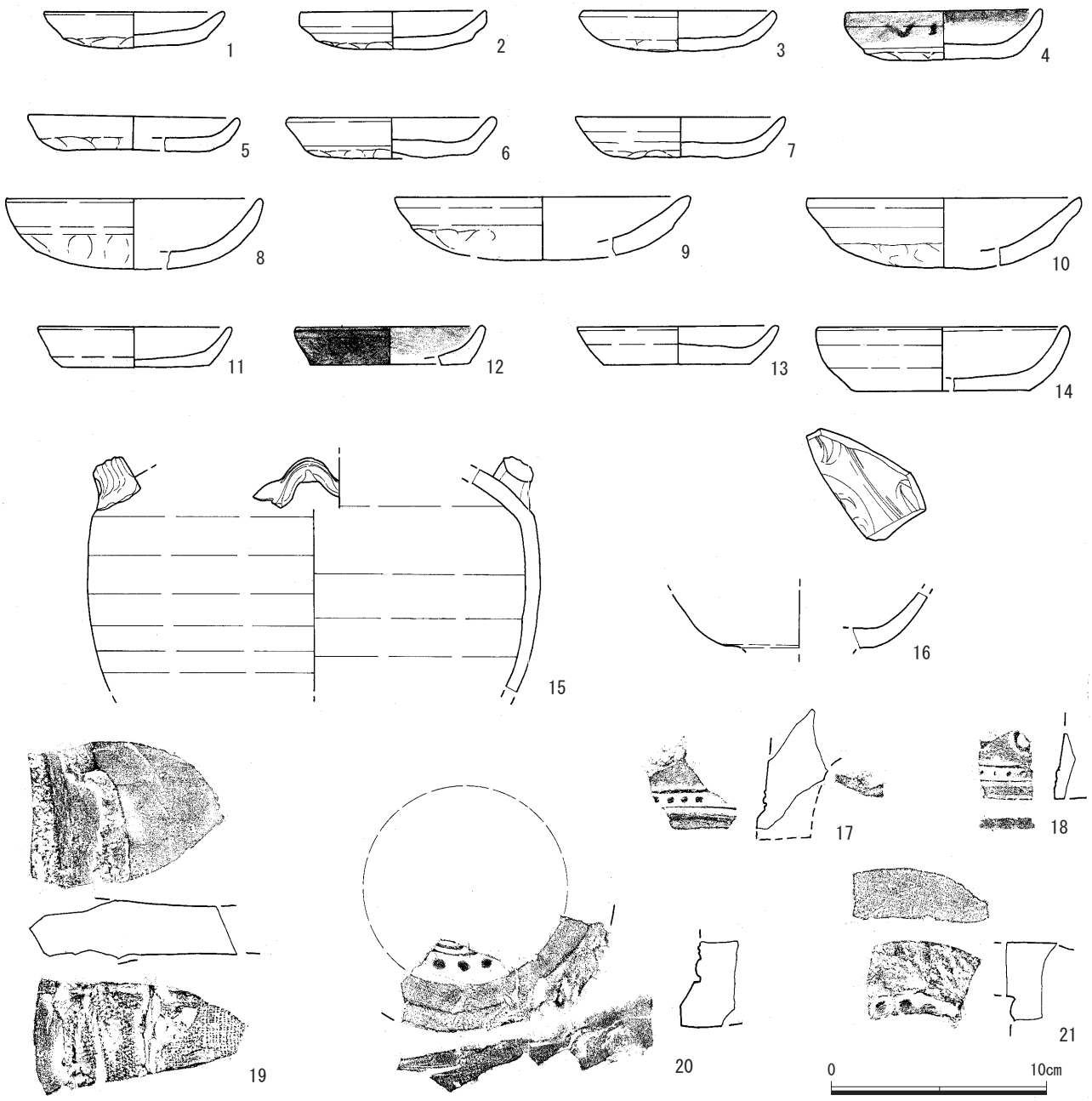


図５９　７面構成土出土遺物１

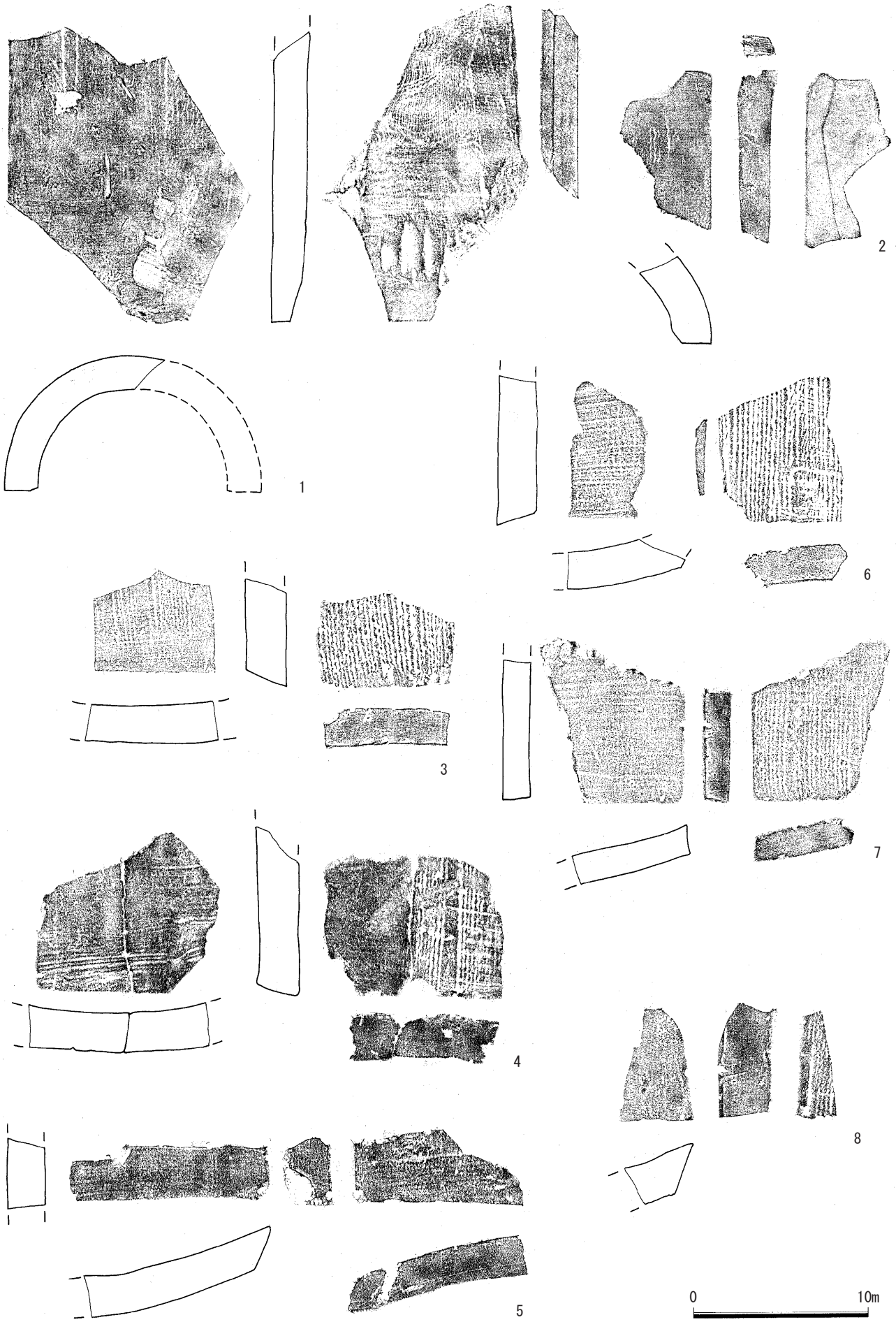


図６０　７面構成土出土遺物２

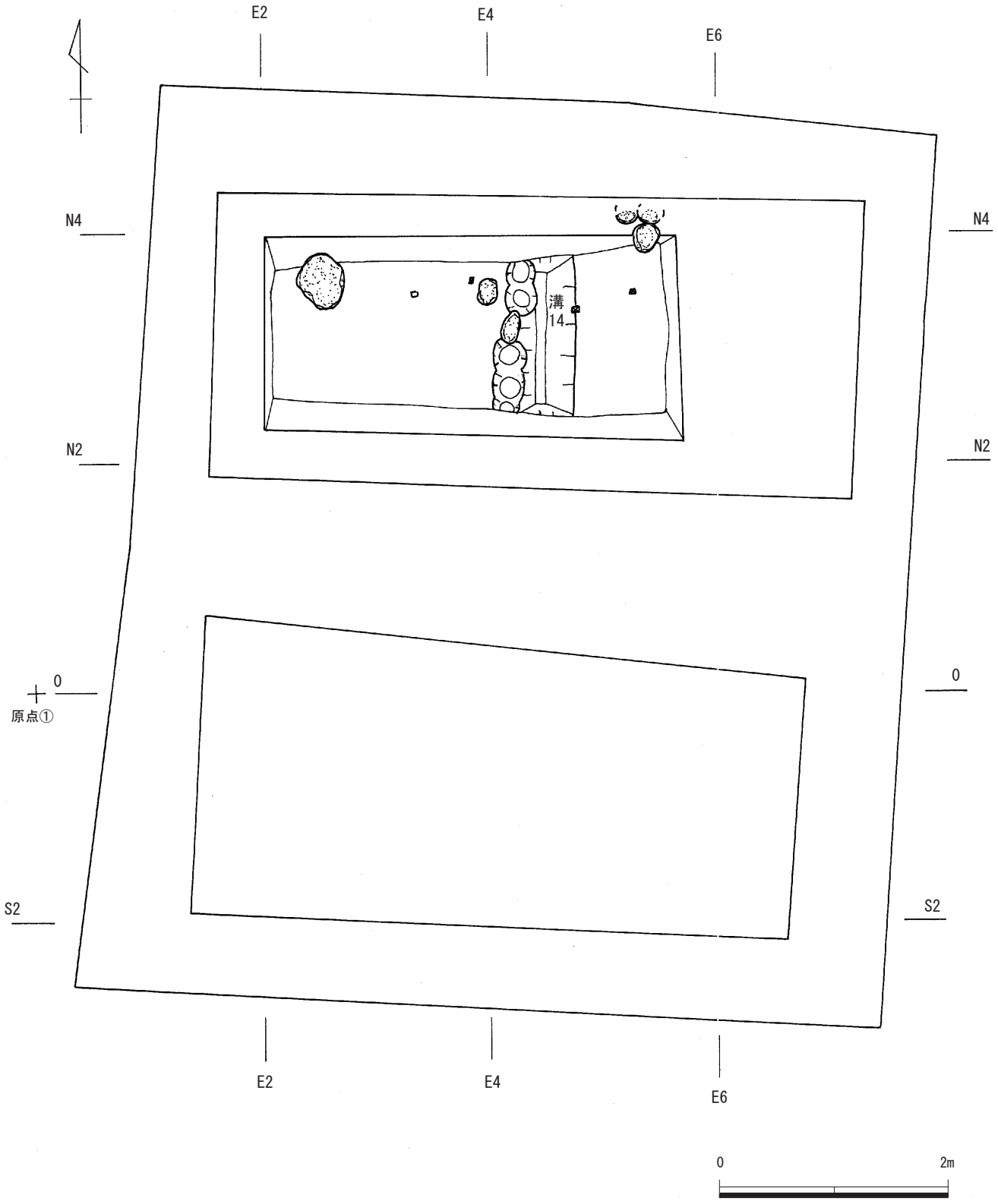
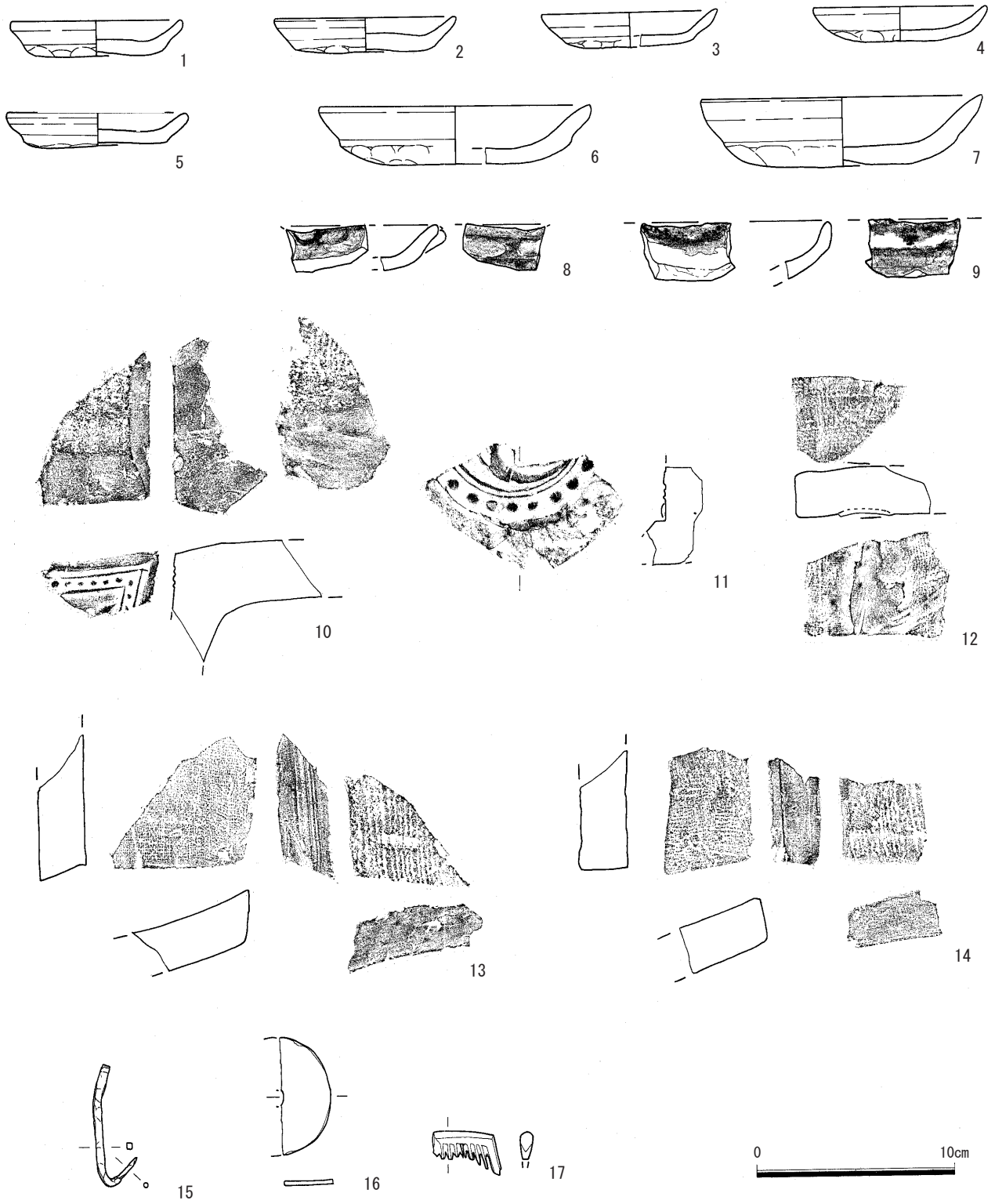
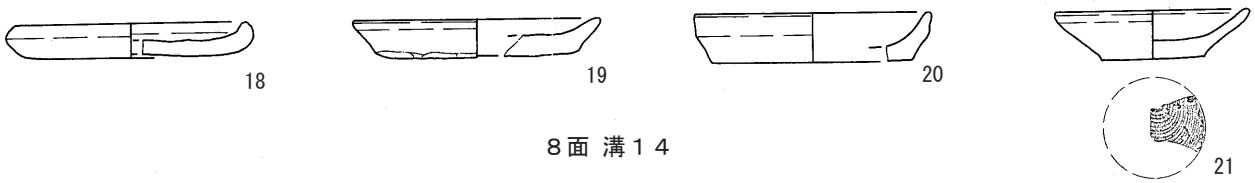


図６１　８面全側図



８　面



８面 溝１４

図６２　８面・８面遺構出土遺物

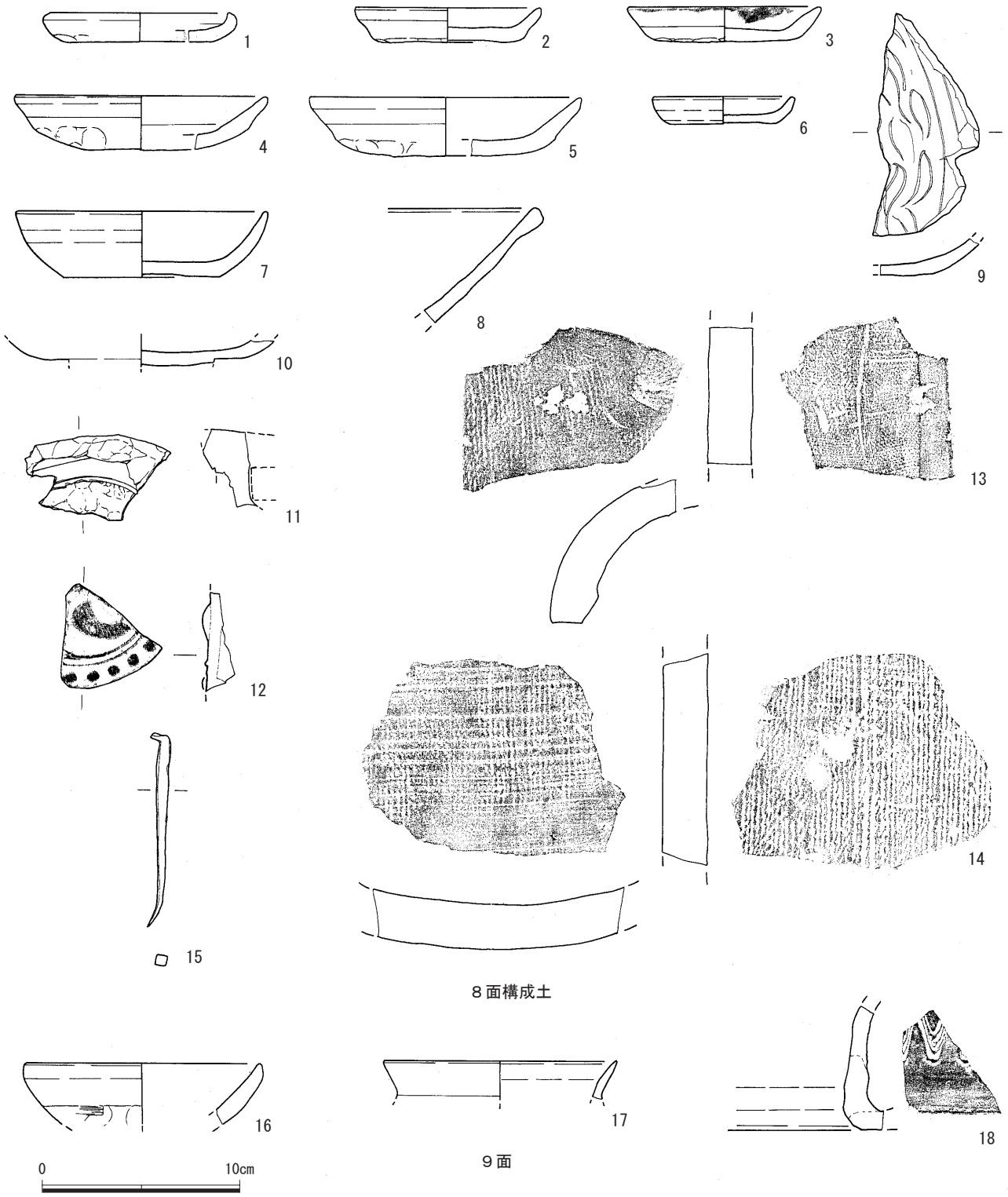


図６３　８面構成土・９面出土遺物

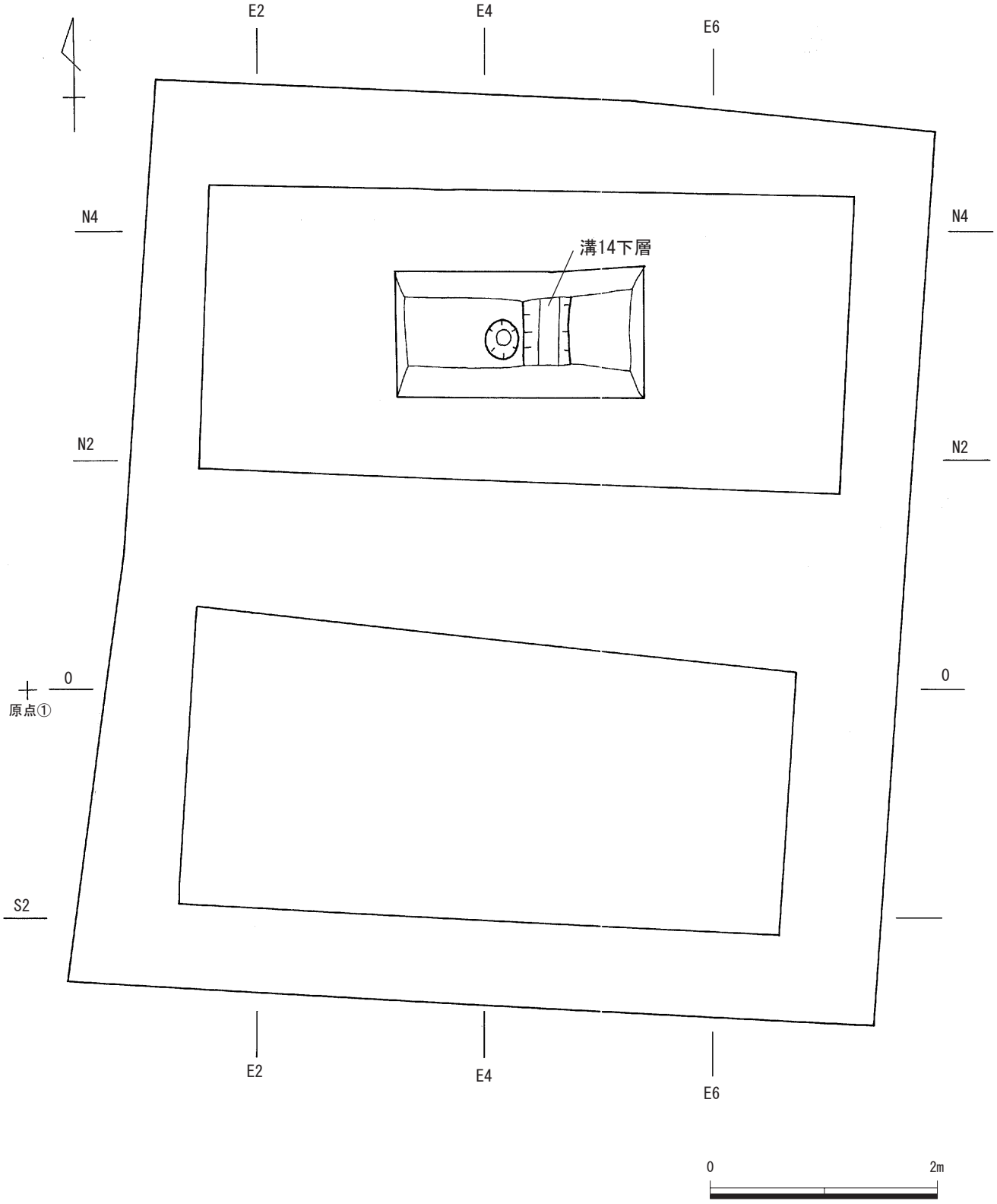


図６４　９面全側図

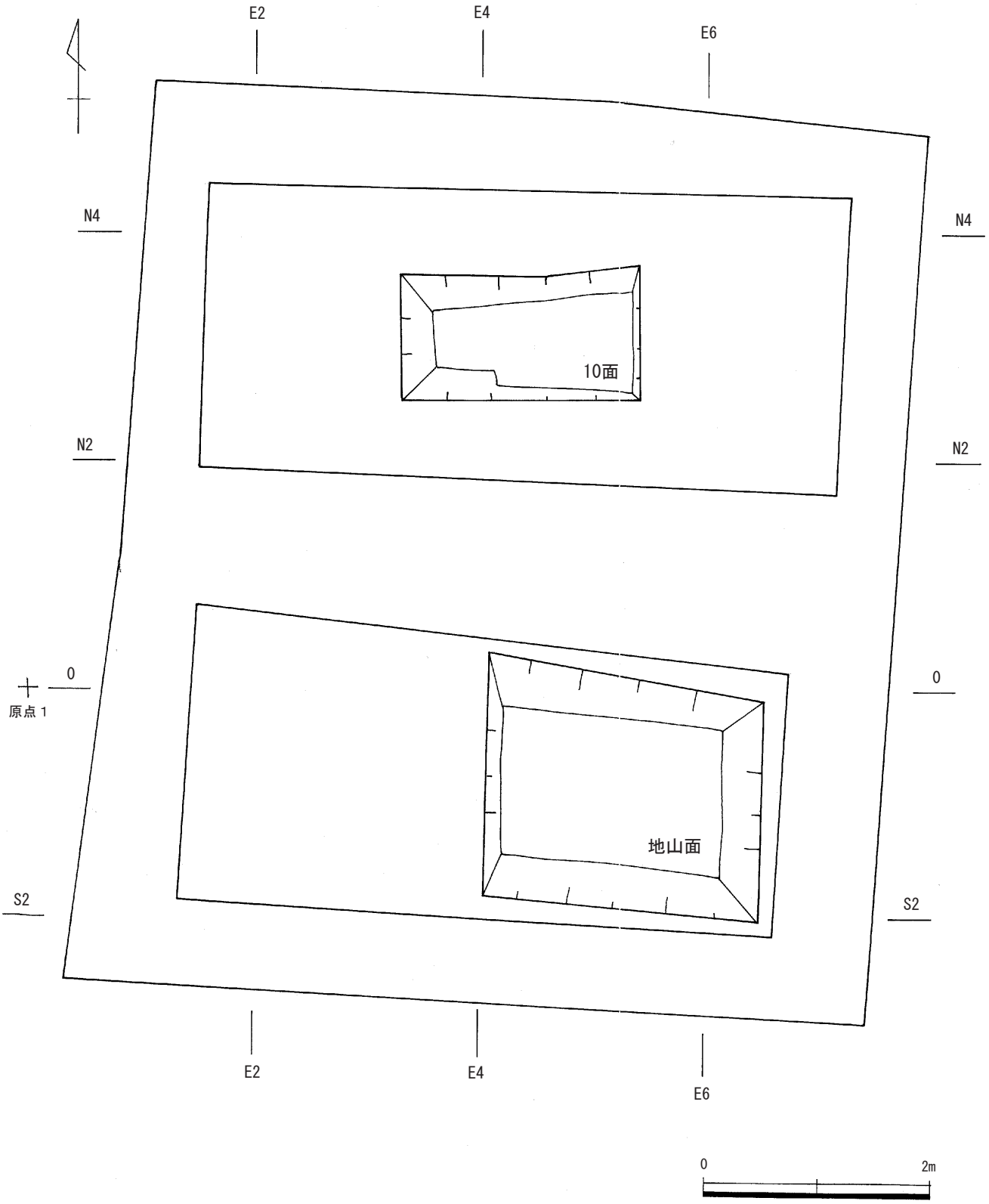


図６５　１０・地山面全側図

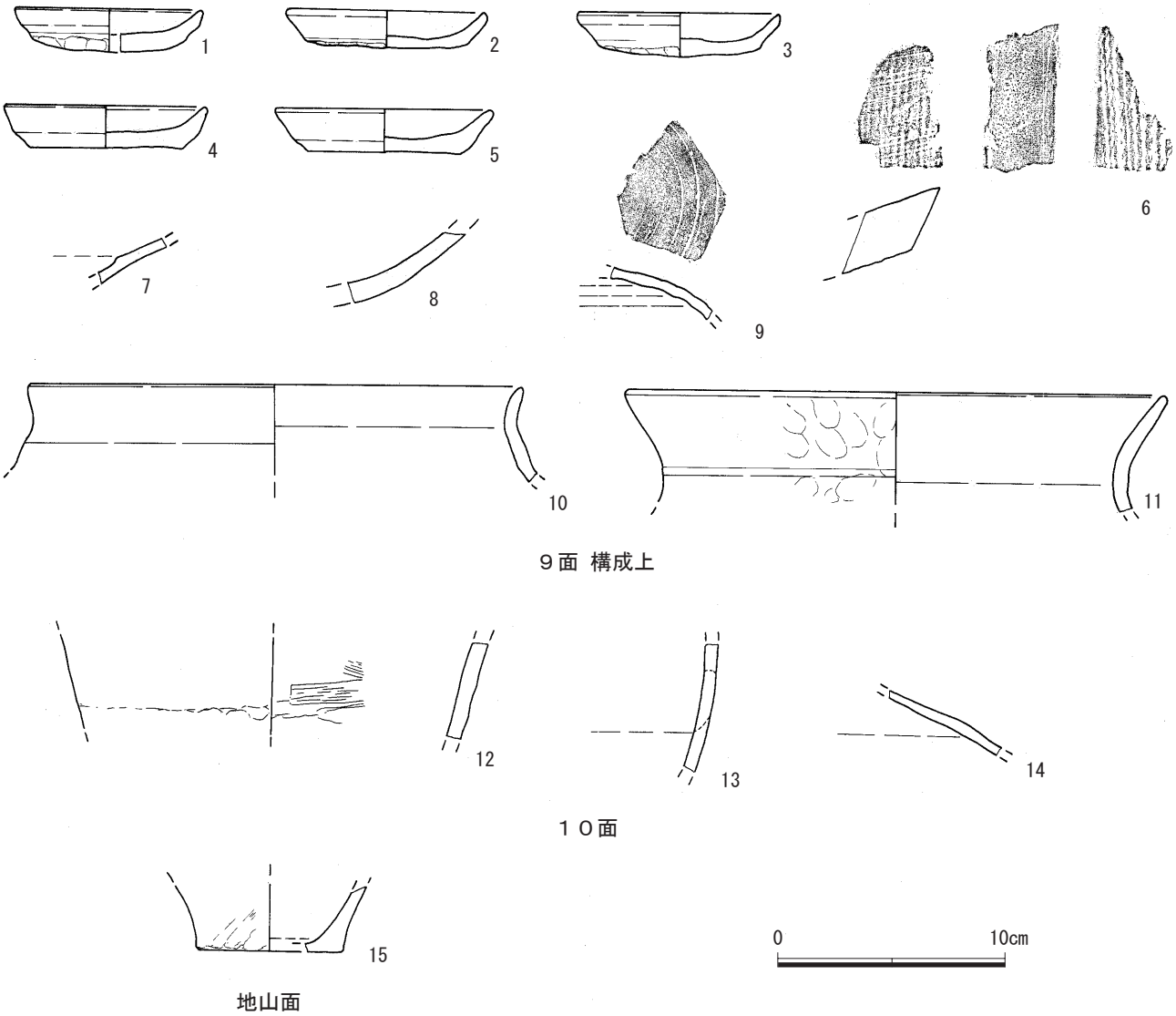


図６６　９面構成土・１０面・地山面出土遺物

第11節　出土瓦について

鐙瓦・宇瓦・女瓦・男瓦が出土している。出土量は多くないが、すべて鎌倉期に属する瓦である。永福寺出土瓦を基準にした鎌倉出土瓦の時期区分を以下に記した。(永福寺跡　遺物編・考察編 2002年 鎌倉市教育委員会)

永福寺の瓦の変遷

永福寺瓦の時期区分	変　　革	時期区分
永福寺Ⅰ期瓦(1192～1231年頃)	永福寺創建の建久３年(1192)から寛喜３年(1231)、惣門焼失までの時期。	鎌倉Ⅰ期瓦
永福寺Ⅱ期瓦(1235～1280年頃)	惣門が再建された文暦２年(1235)と、寛元･宝治年間修理から弘安３年の焼失までの時期。	鎌倉Ⅱ期瓦
永福寺Ⅲ期瓦(1287～1315年頃)	鎌倉極楽寺の忍性が別当坊に入り、弘安10年の再建から延慶３年の焼失までの時期	鎌倉Ⅲ期瓦

本遺跡の出土瓦

出土瓦分類	特　　徴	時期区分
Ａ類	砂粒を含む精良土、焼きは硬質･軟質がある。色は灰～灰褐色。 永福寺Ⅰ期	鎌倉Ⅰ期
Ｂ類	Ａ類と類似の胎土。女瓦は糸切り痕と細かい斜格子目叩き。 永福寺Ⅰ期	鎌倉Ⅰ期
Ｃ類	細かな砂粒が多いが精良土。Ａ･Ｂ類に似る。焼きは硬質･軟質がある。色は灰～灰褐色。女瓦凸面には斜格子目叩き。中に記号が入る。 永福寺Ⅱ期	鎌倉Ⅱ期
Ｄ類	砂粒･石粒を多く含む粗土。焼きは良好で硬い。寺銘系と類似。 永福寺Ⅱ期	鎌倉Ⅱ期
Ｇ類	砂粒のきめが細かく、雲母が見られる精良土。永福寺では確認されていない。宇瓦は珠文帯の巡る唐草文、鐙瓦は左回りの巴文。	鎌倉Ⅰ期か

本遺跡出土の宇瓦・鐙瓦

胎土からＧ類と分類した宇瓦と鐙瓦である。６面構成土、７面構成土、８面、８面構成土から小片が出土している。

宇瓦の文様は、内区に繊細な凸線で唐草文を描き、界線を設けて内縁に密に珠文を配している(図55-1･2、図59-17･18)。瓦当幅は不明、内区幅は4.5㎝(図55-1)程か。瓦当面は顎貼り付け。永福寺Ⅰ期の宇瓦と比べても遜色ない大きさになるものと思われる。永福寺ではこれまで、唐草文に珠文帯が巡るものは、２種類(YNⅠ02・YNⅠ05)が出土している。いずれも永福寺Ⅲ期以降に分類されたもので、全体が小型化して、唐草文は釣り針状に略され退化している。

鐙瓦の文様は、外区内縁に珠文が配されている。外区と内区の境の圏線を伴う左廻りの巴文(図59-20、図63-11･12)。瓦当径は復元で15㎝程か。珠文の数は不明。上記の唐草文宇瓦とセットになるものと考えられる。

瓦の出土層位は６面より下で８面までの間、遺構・面・面構成土中からの出土である。この層位の他の出土遺物を確認すると、手捏ね成形のかわらけ、常滑５型式の甕・片口鉢、渥美片口鉢、永福寺Ⅰ期の女瓦・男瓦と12世紀末～13世紀前葉の遺物が主体であることから、Ｇ類に分けた宇瓦と鐙瓦は、少なくても13世紀前葉、鎌倉の瓦編年のⅠ期に相当する年代観が与えられるものと考える。

第４章　まとめ

調査地点は大倉幕府跡のほぼ中央北寄り、金沢道より北に折れ、源頼朝法華堂跡に至る南北道路の西側に位置し、東側は清泉小学校になる。

調査面積は約56㎡であるが、調査を行った面は10面にも及んだ。遺物も非常に多く、コンテナ分けて約100箱分出土した。掲載遺物は厳選したが遺物図版数が53プレートに及んだ。

特徴的なのは最下層の第10面・地山面から第６面と、５面より上の堆積土の違いである。特に６面・７面・８面の上には貝砂が敷かれていた。貝砂の敷かれた地面は、これまでの発掘調査で北条時房・顕時邸跡、北条小町邸跡、今小路西遺跡や多くの武家屋敷内と考えられる地点・地層から発見されている。当該地点も大倉幕府中枢域内であることから、何らかの建物と建物の間敷かれた貝砂と推察できよう。このことを示すように８面では大小個の礎石と雨落ち溝と考えられる溝14が確認されている。

地山面から６面までに出土している遺物は主に、12世紀末～13世紀前葉のもので占められ、５面の地業面は６面以下を覆い隠すように叩き締められ、遺物も13世紀中から15世紀代のものが中心となる。13世紀前葉の年代は大倉幕府が宇津宮辻子に移転する時期と重なる。

吾妻鏡から幕府移転後の土地利用に関わる記載を挙げておく。

嘉禄元年(1225)12月20日条	今日若君御移徒の儀あり。
文暦２年(1235)９月１日条	右大将家法華堂前の湯屋失火す。風しきりに吹きて、法華堂すこぶるこの災を免れがたきのところ、諏方兵衛尉盛重一人最前に馳せ向ひ、中間の民家数十宇を壊たしむるの間、火止まりをはんぬ。
寛元５年(1247)１月13日条	右大将家法華堂前の前の人家数十宇失火す。陸奥(実時)掃部助の亭その中にあり。
康元元年(1256)12月11日条	右大将家の法華堂の前焼亡。北風烈しく吹き、勝長寿院ならびに弥勒堂・五佛堂の塔、ことごとくもつて災す。ただし本尊および一切経等は、希有にしてこれを取り出したてまつると云々。

調査範囲が狭く、また深度が深く湧水に悩まされたために十分な検証が出来たとは言えないが、地山面近く、礎石や雨落ち溝の検出は、大倉幕府中枢に関わる建物(寝殿や侍所等)の可能性が大きい。調査面積が狭いために、建物の性格、方位や規模など不明だが鎌倉Ⅰ期相当の瓦が出土している。出土量が少ないことから、瓦葺きの建物というよりも棟だけに瓦を葺いた檜皮葺きや柿葺きの建物かも知れない。

５面以降と見られる嘉禄元年の大倉幕府移転後の土地利用は、文献から民家が建ち並んでいたことが伺える。また北条実時亭があったことも確認されることから、大倉幕府(頼朝御所)縁の土地として保存されたのではなく積極的に利用が行われたと考えられる。このことは板壁建物の検出や出土遺物の多さから見て肯定されよう。

調査地点は幕府中枢域であった後、吾妻鏡に見られる民家屋的な土地利用がされた一角になるのかも知れない。

遺物観察表

図5　表採・表土出土遺物

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		口径	底径	器高	
1	かわらけ	(7.8)	(6.0)	1.7	轆轤成形　口縁部に煤付着
2	かわらけ	7.4	5.0	1.7	轆轤成形
3	かわらけ	(7.2)	4.6	2.2	轆轤成形
4	かわらけ	(7.4)	4.8	1.8	轆轤成形
5	かわらけ	(11.2)	(6.0)	3.4	轆轤成形　口縁部に煤付着
6	かわらけ	(11.4)	7.0	3.5	轆轤成形
7	青磁折縁皿		(13.0)		龍泉窯
8	瀬戸入子				降灰釉付着　13～14世紀
9	瀬戸卸皿				灰釉ハケヌリ・ツケガケ併用　古瀬戸中Ⅲ期(13世紀中葉)
10	瀬戸柄付片口				灰釉ツケガケか　古瀬戸中期～後期(14世紀)
11	常滑甕			(16.0)	底部片
12	常滑片口鉢(Ⅰ類)				底部片　6a型式(13世紀中葉)を下限とするものか
13	常滑片口鉢(Ⅱ類)				10型式(15世紀後半)
14	常滑片口鉢(Ⅱ類)				9型式(15世紀前半)
15	常滑片口鉢(Ⅱ類)				9型式(15世紀前半)
16	瓦器質碗				13世紀か
17	鉄製品　鎹	長15	幅0.6	厚0.5	
18	銭　大平通寶	径2.4	重2.3g		初鋳年 976(北宋)
19	銭　皇宋通寶	径2.4	重3.0g		初鋳年1038(北宋)真書
20	木製品　箸	長20.8	幅0.4	厚0.6	
21	木製品　箸	残18.4	幅0.7	厚0.4	
22	木製品　箸	残18.4	幅0.5	厚0.4	
23	木製品	残17.8	幅0.9	厚0.7	棒状
24	女瓦			厚1.8	C類 凸面斜格子目叩き　水殿瓦窯産

図6　トレンチ・撹乱出土遺物

トレンチ 撹乱

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		口径	底径	器高	
1	かわらけ	7.4	4.8	1.9	轆轤成形
2	かわらけ	8.2	5.2	1.9	轆轤成形
3	常滑片口鉢(Ⅱ類)				7型式(14世紀前半)か
4	土器				外面に2条の沈線あり　内面に付着物、漆喰か
5	火鉢	(39.6)	(30.0)	10.7	土器質
6	女瓦			厚2.0	A類 凸面縄目叩き
7	青磁折縁皿	(10.8)			外面蓮弁文

図7　1面まで出土遺物1

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		口径	底径	器高	
1	かわらけ	(6.8)	(3.8)	1.8	轆轤成形
2	かわらけ	(7.8)	(4.2)	1.9	轆轤成形
3	かわらけ	(6.8)	(4.0)	2.0	轆轤成形
4	かわらけ	(6.8)	(3.8)	2.3	轆轤成形　口縁部に煤付着
5	かわらけ	(7.8)	4.8	2.3	轆轤成形
6	かわらけ	(7.8)	(5.8)	2.3	轆轤成形
7	かわらけ	(10.2)	6.8	2.9	轆轤成形
8	かわらけ	(10.8)	(5.8)	3.5	轆轤成形
9	かわらけ	(12.8)	(7.6)	2.8	轆轤成形
10	瀬戸　折縁皿		(16.0)		灰釉ハケヌリ　古瀬戸前Ⅳ期～中Ⅱ期(13世紀後葉～15世紀前葉)か
11	瀬戸　縁釉小皿				鉄釉、口縁部にツケガケ 古瀬戸後期後半(15世紀中葉)か
12	瀬戸　卸皿				灰釉ハケヌリか　古瀬戸後期前半(14世紀後葉～15世紀前葉)か
13	瀬戸　折縁深皿				灰釉ナガシガケか　古瀬戸後期後半(15世紀中葉)か
14	瀬戸　折縁中皿				灰釉ハケヌリ　古瀬戸中期前半(13世紀末～14世紀前葉)
15	瀬戸　平碗				灰釉ツケガケ　古瀬戸中期～後期前半(14世紀～15世紀前葉)
16	青磁劃花文碗		(6.4)		龍泉窯
17	常滑　甕				10型式(15世紀後半)
18	常滑　甕か				内面摩滅
19	火鉢				瓦質　菊花文スタンプ
20	碁石	直径1.8		厚0.5	
21	砥石	残3.9	残幅2.3	残厚9.0	鳴滝産仕上砥 2面使用 両側面・小口1箇所が残る
22	砥石	残7.5	残幅4.0	残厚4.7	天草産中砥　1面使用
23	木製品　蓋か	直径2.4		厚0.7	側面にネジ状の溝あり
24	鉄製品　釘	残6.8	幅2.3	厚1.0	錆によるふくれ顕著
25	鉄製品　釘	残4.5	幅0.4	厚0.4	
26	鉄製品　釘	残4.8	幅0.9	厚0.5	
27	鉄製品　釘	残4.1	幅0.5	厚0.5	
28	鉄製品　釘	残長4.4	幅0.1	厚0.7	
29	鉄製品　釘	残長6.9	幅0.9	厚0.3	

30	鉄製品　釘	残長5.4	幅0.4	厚0.3	
31	鉄製品　釘	残長3.3	幅0.6	厚0.4	
32	鉄製品　釘	残長3.7	幅0.8	厚0.6	
33	鉄製品　釘	残長4.1	幅0.5	厚0.3	錆によるふくれ顕著
34	鉄製品　釘	残長6.8	幅1.0	厚0.8	
35	鉄製品　釘	残長5.8	幅1.3	厚0.5	
36	銅製品　管	長さ5.1	幅1.2		
37	銭　元祐通寶	径2.3	重2.9g		初鋳年1086(北宋)篆書

図８　１面まで出土遺物２

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
1	男瓦			厚2.1	A類 凸面縄目叩き
2	男瓦			厚2.4	B類
3	女瓦			厚2.5	C類 凸面斜格子目叩き　水殿瓦窯産
4	女瓦			厚2.0	D類

図９　１面・１面遺構出土遺物

1面

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		口径	底径	器高	
1	かわらけ	(6.4)	(4.0)	1.9	轆轤成形
2	かわらけ	(6.8)	4.0	2.5	轆轤成形
3	かわらけ	7.2	4.8	1.5	轆轤成形
4	かわらけ	7.4	4.4	2.4	轆轤成形　口縁部に煤付着
5	かわらけ	(7.4)	(5.0)	1.7	轆轤成形
6	かわらけ	(6.8)	(4.4)	2.1	轆轤成形
7	かわらけ	(6.2)	(4.0)	2.1	轆轤成形
8	かわらけ	(7.4)	5.0	1.8	轆轤成形
9	かわらけ	(7.8)	5.0	1.9	轆轤成形
10	かわらけ	7.6	5.3	1.4	轆轤成形
11	かわらけ	7.2	4.6	2.0	轆轤成形
12	かわらけ	8.6	6.0	2.6	轆轤成形
13	かわらけ	(10.8)	(6.0)	3.0	轆轤成形
14	かわらけ	(12.8)	(7.0)	3.0	轆轤成形
15	かわらけ	13.6	8.0	3.5	轆轤成形
16	かわらけ	(11.8)	(6.0)	3.0	轆轤成形
17	かわらけ	(12.8)	(7.8)	3.0	轆轤成形
18	かわらけ	12.2	7.3	3.3	轆轤成形
19	かわらけ	13.2	6.4	3.4	轆轤成形
20	かわらけ	13.2	7.4	3.6	轆轤成形
21	瀬戸入子	5.6	2.1	1.9	
22	鉄製品　釘	残5.3	幅1.2	厚1.2	錆によるふくれ顕著
23	鉄製品　釘	残6.9	幅0.8	厚0.5	
24	鉄製品　釘	残7.3	幅0.9	厚0.7	錆によるふくれ顕著
25	鉄製品　釘	残3.5	幅0.8	厚0.6	
溝1					
26	石(土丹)製品	直径1.5	高さ1.8		円柱形
27	石製品　硯	残12.1	残幅5.4	厚2.0	
28	かわらけ	7.8	5.1	1.9	轆轤成形　二次焼成を受ける
29	瀬戸折縁皿				灰釉ツケガケまたはナガシガケ　古瀬戸後期後半(15世紀中葉)か
30	瀬戸卸皿				灰釉ツケガケか　二次焼成による釉の剥落あり　古瀬戸後Ⅰ期(14世紀後半)か
31	瀬戸水注				注ぎ口の破片　灰釉ツケガケか　古瀬戸中期～後期(14世紀～15世紀)か
32	白磁合子(蓋)	(5.0)			型作り　景徳鎮窯
33	火鉢				瓦質
34	火鉢				瓦器質　菊花文スタンプ
35	鉄製品　釘	残4.9	幅1.5	厚1.2	錆によるふくれ顕著
36	砥石	残1.2	幅3.2	残厚0.2	鳴滝産仕上砥 両側面・小口一箇所が残る
37	砥石	残3.7	幅3.3	残厚1.5	鳴滝産仕上砥 1面使用
布堀1					
38	かわらけ	(7.8)	(5.0)	2.2	轆轤成形
39	かわらけ	8.2	5.7	2.3	轆轤成形　口縁部に煤付着
40	鉄製品　釘	残4.3	幅0.4	厚0.3	
柱穴3					
41	白磁碗か		(5.4)		
柱穴4					
42	鉄製品　釘	残3.3	幅0.7	厚0.6	
土壙1					
43	常滑　甕				6b型式(13世紀第４四半期)
44	常滑　甕				6b型式(13世紀第４四半期)
土壙4					
45	鉄製品　釘	残4.0	幅0.6	厚0.5	

図10　1面構成土出土遺物1

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		口径	底径	器高	
1	白かわらけ	(8.0)		2.0	手捏ね成形
2	かわらけ	7.6	5.9	1.6	轆轤成形
3	かわらけ	7.4	5.2	1.5	轆轤成形
4	かわらけ	7.1	5.0	1.4	轆轤成形
5	かわらけ	7.6	5.6	1.6	轆轤成形
6	かわらけ	7.6	5.9	1.4	轆轤成形
7	かわらけ	(7.0)	(4.8)	1.5	轆轤成形
8	かわらけ	(7.7)	(5.7)	1.6	轆轤成形
9	かわらけ	7.2	5.0	1.6	轆轤成形
10	かわらけ	7.2	5.6	1.4	轆轤成形
11	かわらけ	8.0	5.0	1.6	轆轤成形　口縁部に煤付着
12	かわらけ	(8.0)	(5.5)	1.2	轆轤成形
13	かわらけ	7.8	5.9	1.6	轆轤成形
14	かわらけ	(7.5)	(5.7)	1.9	轆轤成形
15	かわらけ	(7.7)	(5.6)	1.6	轆轤成形
16	かわらけ	(7.4)	(5.3)	1.7	轆轤成形
17	かわらけ	(7.7)	(6.0)	1.6	轆轤成形
18	かわらけ	(7.6)	(5.4)	1.6	轆轤成形
19	かわらけ	(7.7)	(5.3)	1.5	轆轤成形
20	かわらけ	(8.0)	5.4	1.8	轆轤成形
21	かわらけ	7.4	5.0	1.8	轆轤成形
22	かわらけ	7.4	4.8	1.7	轆轤成形
23	かわらけ	(7.4)	(5.0)	1.7	轆轤成形
24	かわらけ	(8.2)	5.4	1.7	轆轤成形
25	かわらけ	8.2	5.6	1.6	轆轤成形
26	かわらけ	(8.0)	5.8	1.8	轆轤成形
27	かわらけ	7.6	5.2	1.7	轆轤成形
28	かわらけ	7.2	4.9	1.8	轆轤成形　口縁部に煤付着
29	かわらけ	(7.2)	4.8	1.6	轆轤成形
30	かわらけ	7.4	4.0	1.6	轆轤成形
31	かわらけ	7.7	5.0	1.7	轆轤成形
32	かわらけ	7.8	5.3	1.7	轆轤成形　口縁部に煤付着
33	かわらけ	(7.6)	5.3	1.9	轆轤成形
34	かわらけ	7.7	5.3	1.8	轆轤成形
35	かわらけ	(7.8)	(5.6)	1.7	轆轤成形
36	かわらけ	7.8	5.2	1.8	轆轤成形
37	かわらけ	7.8	4.8	1.8	轆轤成形
38	かわらけ	(7.7)	4.9	1.8	轆轤成形
39	かわらけ	7.8	5.6	1.2	轆轤成形
40	かわらけ	7.6	5.4	1.9	轆轤成形　口縁部に煤付着
41	かわらけ	7.4	5.0	1.7	轆轤成形　口縁部に煤付着
42	かわらけ	8.3	5.5	2.0	轆轤成形
43	かわらけ	(7.8)	(4.4)	1.8	轆轤成形
44	かわらけ	7.4	5.3	1.6	轆轤成形
45	かわらけ	(7.7)	(5.0)	1.8	轆轤成形
46	かわらけ	(6.8)	(4.6)	1.8	轆轤成形
47	かわらけ	(7.2)	(4.8)	1.6	轆轤成形
48	かわらけ	(7.8)	(5.0)	1.9	轆轤成形
49	かわらけ	8.0	4.6	1.8	轆轤成形
50	かわらけ	8.2	5.3	1.9	轆轤成形
51	かわらけ	(6.8)	(4.6)	1.7	轆轤成形
52	かわらけ	8.2	4.8	1.9	轆轤成形
53	かわらけ	(8.0)	(5.0)	2.0	轆轤成形
54	かわらけ	7.5	5.6	2.0	轆轤成形
55	かわらけ	(7.8)	(5.8)	1.9	轆轤成形
56	かわらけ	7.4	4.5	1.8	轆轤成形
57	かわらけ	(7.8)	5.4	2.0	轆轤成形　体部外面・内底に煤付着
58	かわらけ	7.8	5.2	1.9	轆轤成形
59	かわらけ	(7.4)	(5.1)	2.1	轆轤成形
60	かわらけ	(7.8)	(5.2)	1.8	轆轤成形
61	かわらけ	(7.6)	(4.4)	1.9	轆轤成形
62	かわらけ	(7.6)	(5.0)	1.8	轆轤成形
63	かわらけ	7.2	5.6	2.0	轆轤成形
64	かわらけ	(7.1)	(4.8)	2.1	轆轤成形
65	かわらけ	(7.6)	(5.2)	1.9	轆轤成形
66	かわらけ	(7.6)	(5.0)	2.1	轆轤成形
67	かわらけ	7.1	5.3	2.1	轆轤成形
68	かわらけ	(7.6)	4.2	2.0	轆轤成形
69	かわらけ	7.8	5.0	2.0	轆轤成形　歪み顕著
70	かわらけ	(7.8)	(4.6)	1.9	轆轤成形
71	かわらけ	(8.4)	(4.6)	2.4	轆轤成形
72	かわらけ	(7.8)	(5.4)	2.2	轆轤成形
73	かわらけ	7.4	4.7	2.2	轆轤成形　口縁部に煤付着
74	かわらけ	(7.2)	(4.8)	2.1	轆轤成形　全面に煤付着

図11　1面構成土出土遺物2

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		口径	底径	器高	
1	かわらけ	(6.8)	4.0	2.0	轆轤成形　底面に穿孔あり
2	かわらけ	(10.6)	(6.5)	2.7	轆轤成形
3	かわらけ	(11.0)	(7.3)	3.1	轆轤成形
4	かわらけ	(11.4)	6.8	3.0	轆轤成形
5	かわらけ	(11.3)	(6.4)	2.8	轆轤成形
6	かわらけ	11.4	6.6	3.1	轆轤成形
7	かわらけ	(12.4)	(7.6)	2.7	轆轤成形　内面に煤付着
8	かわらけ	(12.3)	(8.2)	(2.8)	轆轤成形
9	かわらけ	(11.8)	(7.0)	3.3	轆轤成形
10	かわらけ	(12.0)	(7.4)	3.2	轆轤成形
11	かわらけ	(11.6)	7.2	3.5	轆轤成形
12	かわらけ	(12.4)	8.0	3.0	轆轤成形
13	かわらけ	(12.4)	(6.1)	3.4	轆轤成形
14	かわらけ	12.4	7.5	3.0	轆轤成形
15	かわらけ	(12.8)	(8.0)	3.3	轆轤成形
16	かわらけ	(12.6)	(8.2)	3.3	轆轤成形
17	かわらけ	(12.8)	(7.4)	3.4	轆轤成形
18	かわらけ	(12.8)	(9.0)	3.1	轆轤成形
19	かわらけ	12.8	7.7	3.0	轆轤成形
20	かわらけ	(12.8)	(7.6)	3.1	轆轤成形
21	かわらけ	(13.4)	(7.6)	3.8	轆轤成形
22	かわらけ	12.8	7.9	3.6	轆轤成形
23	かわらけ	(13.6)	8.3	3.7	轆轤成形
24	かわらけ	12.8	6.6	3.3	轆轤成形
25	かわらけ	(12.8)	(8.2)	3.5	轆轤成形
26	かわらけ	(13.8)	8.0	3.6	轆轤成形　口縁部に煤付着
27	かわらけ	12.8	7.0	3.7	轆轤成形
28	かわらけ	(13.2)	8.0	3.6	轆轤成形
29	かわらけ	(13.2)	(7.6)	3.8	轆轤成形
30	砥石	長6.7	幅5.4	厚2.6	伊予産中砥　2面使用　両側面が残る
31	砥石	残6.7	幅3.5	厚1.0	鳴滝産仕上砥 2面使用 両側面に工具痕 小口1箇所が残る
32	砥石	残5.7	幅3.5	厚1.2	鳴滝産仕上砥 1面使用 1面自然切離 小口と両側面に工具痕あり
33	砥石	残3.3	幅3.3	厚3.7	伊予産中砥　3面使用

図12　1面構成土出土遺物3

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		口径	底径	器高	
1	火鉢				瓦質 口縁部付近に穿孔あり 2･10･12･14は同じ個体
2	火鉢				瓦質
3	火鉢				瓦器　内側からの貫通しない穿孔あり
4	火鉢				瓦質　菊花文スタンプ　5と同一個体か
5	火鉢				瓦質　菊花文スタンプ
6	火鉢				瓦質　菊花文スタンプ･珠文　15と同一個体か
7	火鉢				瓦質　8弁花文スタンプ･珠文
8	火鉢				瓦質　菊花文スタンプ
9	火鉢				瓦質　桜文スタンプ
10	火鉢		(30.4)		瓦質
11	火鉢				瓦質
12	火鉢				瓦質　脚部片　穿孔あり
13	火鉢				瓦質
14	火鉢				瓦質　脚部に穿孔あり
15	火鉢				瓦質　菊花文スタンプ
16	漆器　椀または皿				漆の皮膜のみ　黒漆　文様朱漆、手描き
17	漆器　椀または皿				漆の皮膜のみ　黒漆　文様朱漆、手描き
18	漆器　椀または皿				漆の皮膜のみ　黒漆　文様朱漆、手描き

図13　1面構成土出土遺物4

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		口径	底径	器高	
1	常滑　甕	(43.4)			9型式(15世紀前半)
2	常滑　甕				10型式(15世紀後半)
3	常滑片口鉢(Ⅰ類)	(28.8)			5型式(13世紀中葉)か
4	常滑片口鉢(Ⅰ類)		(13.4)		4～6a型式(13世紀初頭～後葉)　内面摩滅顕著
5	常滑片口鉢(Ⅰ類)				4～6a型式(13世紀初頭～後葉)
6	常滑片口鉢(Ⅰ類)				4～6a型式(13世紀初頭～後葉)
7	常滑片口鉢(Ⅱ類)	(28.2)			7型式(14世紀前半)か
8	常滑片口鉢(Ⅱ類)				7型式(14世紀前半)か
9	常滑片口鉢(Ⅱ類)	(30.6)			7型式(14世紀前半)か
10	常滑片口鉢(Ⅱ類)				7型式(14世紀前半)か
11	常滑片口鉢(Ⅱ類)	(29.8)			8～9型式(14世紀後半～15世紀前半)か
12	常滑片口鉢(Ⅱ類)				10型式(15世紀後半)か
13	常滑片口鉢(Ⅱ類)		(13.0)		内面摩滅顕著
14	常滑片口鉢(Ⅱ類)				7型式(14世紀前半)か
15	常滑片口鉢(Ⅱ類)	28.0	15.0	11.7	8～9型式(14世紀後半～15世紀前半)か 内面口縁付近に竹管文　内面摩滅顕著

図14　1面構成土出土遺物5

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		口径	底径	器高	
1	瀬戸卸皿	(16.2)	(11.8)	3.4	灰釉ハケヌリ　古瀬戸前Ⅳ～中Ⅰ期(13世紀後葉～14世紀初頭)か
2	瀬戸卸皿				灰釉ハケヌリ　古瀬戸前Ⅳ～中Ⅱ期(13世紀後葉～14世紀前葉)か　3～5と同一個体か
3	瀬戸卸皿				灰釉ハケヌリ
4	瀬戸卸皿				灰釉ハケヌリ
5	瀬戸卸皿	(19.0)			灰釉ハケヌリ
6	瀬戸卸皿				灰釉ハケヌリ　古瀬戸前Ⅳ～中Ⅱ期(13世紀後葉～14世紀前葉)か
7	瀬戸卸皿				灰釉ハケヌリ　古瀬戸前Ⅳ～中Ⅱ期(13世紀後葉～14世紀前葉)か
8	瀬戸卸皿		(7.3)		外側面・内底を灰釉ハケヌリ　古瀬戸前～中Ⅰ期(13世紀～14世紀初頭)か
9	瀬戸卸皿		8.2		内底W僅かに灰釉ハケヌリ 外面の施釉方法は不明古瀬戸中Ⅲ～後期前半(14世紀中～15世紀前葉)
10	瀬戸卸皿		(8.6)		外側面・内底を灰釉ハケヌリ　古瀬戸前～中Ⅰ期(13世紀～14世紀初頭)か　内底に釘付着
11	瀬戸四耳壺				灰釉ハケヌリ　古瀬戸前期～中Ⅳ期(13世紀～14世紀中葉)か
12	瀬戸入子	(5.8)	(3.1)	2.0	内面口縁部付近自然降灰　古瀬戸前Ⅳ～後Ⅰ期(13世紀後葉～14世紀後葉)
13	瀬戸折縁深皿		(13.4)		内底に同心円状の沈線あり 外面灰釉ハケヌリ、内面灰釉ナガシガケ　古瀬戸前Ⅳ～後Ⅱ期(13世紀後葉～15世紀初頭)
14	天目碗				黒釉　口縁部褐釉　舶載か
15	青磁香炉か	(19.0)			内面釉はぎ
16	銭　乾元重寶	径2.4	重2.5g		初鋳年 758 (唐)
17	銭　景徳元寶	径2.4	重2.7g		初鋳年1004(北宋)
18	銭　景徳元寶	径2.4	重2.7g		初鋳年1004(北宋)
19	銭　皇宋通寶	径2.4	重3.1g		初鋳年1038(北宋)真書
20	銭　政和通寶	径2.4	重3.0g		初鋳年1111(北宋)
21	鉄製品　釘	残2.4	幅0.3	厚0.3	
22	鉄製品　釘	残3.8	幅0.6	厚0.5	
23	鉄製品　釘	残3.5	幅0.6	厚0.7	
24	鉄製品　釘	残3.8	幅0.9	厚1.0	
25	鉄製品　釘	残4.4	幅0.6	厚0.5	
26	鉄製品　釘	残4.5	幅0.7	厚0.8	
27	鉄製品　釘	残4.0	幅0.7	厚0.6	錆によるふくれ顕著
28	鉄製品　釘	残4.0	幅0.7	厚0.5	
29	鉄製品　釘	残4.0	幅0.8	厚0.9	
30	鉄製品　釘	残5.8	幅0.5	厚0.5	
31	鉄製品　釘	残5.8	幅0.8	厚0.8	
32	鉄製品　釘	残5.9	幅0.9	厚1.0	
33	鉄製品　釘	残6.2	幅0.5	厚0.5	
34	鉄製品　釘	残5.8	幅0.8	厚0.8	
35	鉄製品　釘	残3.5	幅1.7	厚0.9	錆によるふくれ顕著
36	鉄製品　釘	残4.5	幅1.6	厚1.2	錆によるふくれ顕著
37	鉄製品　釘	残3.5	幅1.4	厚0.9	錆によるふくれ顕著
38	鉄製品　釘	残5.6	幅1.3	厚1.2	錆によるふくれ顕著

図15　1面構成土出土遺物6　図16　1面構成土出土遺物7

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
1	女瓦			厚1.6	D類
2	女瓦			厚1.6	D類
3	女瓦				A類　凸面縄目叩き
4	女瓦			厚1.6	D類　凸面なで
5	女瓦			厚1.6	D類　凸面斜格子目叩き
6	女瓦			厚2.1	C類　凸面斜格子目叩き　水殿瓦窯産
7	女瓦			厚1.8	D類
8	女瓦			厚1.9	D類
9	女瓦			厚2.0	D類
10	女瓦			厚2.0	D類
11	女瓦			厚2.0	D類　凸面の叩き目は二本の横線
12	女瓦			厚2.0	D類　凸面斜格子目叩き　端部に竹管スタンプあり

図16　1面構成土出土遺物7

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
1	女瓦			厚2.0	D類
2	女瓦			厚1.9	D類　凸面斜格子目叩き
3	女瓦			厚2.0	D類　凸面斜格子目叩き
4	女瓦			厚1.9	D類　凸面斜格子目叩き
5	女瓦			厚2.1	D類
6	女瓦			厚2.0	D類　凸面なで
7	女瓦			厚2.0	D類　凸面斜格子目叩き

図17　1面構成土出土遺物8

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
1	女瓦			厚2.0	D類　凸面斜格子目叩き

2	女瓦			厚2.0	D類　凸面斜格子目叩き
3	女瓦			厚2.1	D類　凸面叩き目は二本の横線・斜格子
4	女瓦			厚2.0	D類　凸面斜格子目叩き
5	女瓦			厚2.0	D類
6	女瓦			厚1.8	D類　凸面斜格子目叩き
7	女瓦			厚1.9	D類　凸面斜格子目叩き
8	女瓦			厚2.0	D類　凸面斜格子目叩き

図18　1面構成土出土遺物9

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
1	男瓦			不明	A類　段部片　凸面に＋印の線刻あり
2	男瓦			厚2.0	D類
3	男瓦			厚2.0	D類
4	男瓦			厚2.0	D類
5	鐙瓦			厚2.1	D類　瓦当欠損

図20　2面出土遺物1

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		口径	底径	器高	
1	かわらけ	7.4	5.7	1.6	轆轤成形
2	かわらけ	(6.8)	(5.6)	1.6	轆轤成形
3	かわらけ	(7.0)	(5.6)	1.7	轆轤成形
4	かわらけ	(6.8)	(5.0)	1.8	轆轤成形
5	かわらけ	7.4	5.4	1.9	轆轤成形
6	かわらけ	7.8	5.4	1.10	轆轤成形
7	かわらけ	(7.8)	(5.8)	1.11	轆轤成形
8	かわらけ	(7.8)	(5.6)	1.12	轆轤成形
9	かわらけ	7.8	5.5	1.13	轆轤成形
10	かわらけ	(7.8)	5.2	1.14	轆轤成形
11	かわらけ	(7.8)	(1.8)	1.15	轆轤成形　口縁部に煤付着
12	かわらけ	(7.4)	(5.0)	1.16	轆轤成形
13	かわらけ	(7.8)	(5.4)	1.17	轆轤成形
14	かわらけ	7.8	4.9	1.18	轆轤成形
15	かわらけ	(7.4)	(5.0)	1.19	轆轤成形
16	かわらけ	8.0	5.5	1.20	轆轤成形　全体にわずかな煤付着
17	かわらけ	(7.8)	6.0	1.21	轆轤成形　口縁部に煤付着
18	かわらけ	(7.8)	(6.0)	1.22	轆轤成形
19	かわらけ	7.8	5.4	1.23	轆轤成形
20	かわらけ	(7.4)	(5.0)	1.24	轆轤成形
21	かわらけ	7.8	5.0	1.25	轆轤成形
22	かわらけ	7.6	5.4	1.26	轆轤成形　口縁部に煤付着
23	かわらけ	7.8	5.3	1.27	轆轤成形
24	かわらけ	8.2	5.0	1.28	轆轤成形
25	かわらけ	7.8	5.0	1.29	轆轤成形
26	かわらけ	7.8	5.6	1.30	轆轤成形
27	かわらけ	(7.4)	(5.4)	1.31	轆轤成形　内底に釘付着
28	かわらけ	(8.0)	(4.8)	1.32	轆轤成形
29	かわらけ	(7.4)	(4.6)	1.33	轆轤成形
30	かわらけ	7.8	4.9	1.34	轆轤成形
31	かわらけ	7.8	5.3	1.35	轆轤成形
32	かわらけ	8.0	5.0	1.36	轆轤成形
33	かわらけ	(7.8)	(5.4)	1.37	轆轤成形
34	かわらけ	7.4	5.2	1.38	轆轤成形
35	かわらけ	7.8	5.5	1.39	轆轤成形
36	かわらけ	7.4	5.2	1.40	轆轤成形
37	かわらけ	(7.8)	(5.0)	1.41	轆轤成形
38	かわらけ	(7.8)	(6.0)	1.42	轆轤成形
39	かわらけ	7.6	5.2	1.43	轆轤成形
40	かわらけ	(7.0)	(4.8)	1.44	轆轤成形
41	かわらけ	7.6	5.1	1.45	轆轤成形
42	かわらけ	7.4	4.6	1.46	轆轤成形
43	かわらけ	(7.4)	(5.0)	1.47	轆轤成形
44	かわらけ	7.8	5.2	1.48	轆轤成形
45	かわらけ	(8.0)	(4.8)	1.49	轆轤成形
46	かわらけ	(7.8)	(5.0)	1.50	轆轤成形
47	かわらけ	7.6	5.4	1.51	轆轤成形
48	かわらけ	7.8	5.4	1.52	轆轤成形
49	かわらけ	(7.6)	(5.0)	1.53	轆轤成形
50	かわらけ	(7.8)	(5.4)	1.54	轆轤成形
51	かわらけ	(7.8)	(5.6)	1.55	轆轤成形
52	かわらけ	7.8	5.0	1.56	轆轤成形　口縁部に煤付着
53	かわらけ	(7.8)	(4.8)	1.57	轆轤成形
54	かわらけ	7.8	5.3	1.58	轆轤成形
55	かわらけ	(8.0)	(5.6)	1.59	轆轤成形
56	かわらけ	8.2	4.9	1.60	轆轤成形
57	かわらけ	7.8	5.5	1.61	轆轤成形
58	かわらけ	7.8	4.7	1.62	轆轤成形
59	かわらけ	7.6	5.0	1.63	轆轤成形
60	かわらけ	7.8	(5.4)	1.64	轆轤成形

61	かわらけ	8.0	5.0	1.65	轆轤成形　口縁部に煤付着
62	かわらけ	7.6	5.4	1.66	轆轤成形
63	かわらけ	7.8	5.0	1.67	轆轤成形
64	かわらけ	(7.8)	(5.2)	1.68	轆轤成形
65	かわらけ	8.0	4.7	1.69	轆轤成形
66	かわらけ	7.4	4.0	1.70	轆轤成形
67	かわらけ	7.8	4.8	1.71	轆轤成形　口縁部に煤付着
68	かわらけ	7.8	4.9	1.72	轆轤成形
69	かわらけ	(7.8)	(5.0)	1.73	轆轤成形
70	かわらけ	6.8	4.6	1.74	轆轤成形
71	かわらけ	6.6	4.4	1.75	轆轤成形
72	かわらけ	6.6	4.0	1.76	轆轤成形
73	かわらけ	6.8	4.2	1.77	轆轤成形
74	かわらけ	7.4	4.7	1.78	轆轤成形
75	かわらけ	7.2	4.6	1.79	轆轤成形
76	かわらけ	7.2	4.8	1.80	轆轤成形
77	かわらけ	(6.8)	(4.6)	1.81	轆轤成形
78	かわらけ	(6.8)	4.0	1.82	轆轤成形
79	かわらけ	(6.8)	(3.6)	1.83	轆轤成形
80	かわらけ	7.4	4.0	1.84	轆轤成形　体部に穿孔あり
81	かわらけ	7.4	5.0	1.85	轆轤成形
82	かわらけ	(6.8)	4.2	1.86	轆轤成形
83	かわらけ	(6.4)	(4.0)	1.87	轆轤成形
84	白かわらけ	(8.7)	(4.3)	1.88	轆轤成形　口縁部に煤付着

図21　２面出土遺物２

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		口径	底径	器高	
1	かわらけ	(12.4)	(8.0)	2.7	轆轤成形
2	かわらけ	(12.2)	7.4	3.3	轆轤成形
3	かわらけ	(11.8)	7.6	3.6	轆轤成形
4	かわらけ	12.4	8.4	3.0	轆轤成形
5	かわらけ	(12.8)	7.4	3.4	轆轤成形
6	かわらけ	12.0	7.5	3.5	轆轤成形
7	かわらけ	12.2	7.6	3.3	轆轤成形　口縁部・体部に煤付着
8	かわらけ	13.4	7.3	3.4	轆轤成形
9	かわらけ	(12.3)	(8.4)	3.3	轆轤成形
10	かわらけ	12.4	7.0	3.5	轆轤成形
11	かわらけ	12.8	8.2	3.1	轆轤成形
12	かわらけ	12.8	6.7	3.6	轆轤成形
13	かわらけ	(12.8)	7.0	3.5	轆轤成形
14	かわらけ	(12.4)	(8.0)	3.3	轆轤成形
15	かわらけ	13.2	8.2	3.3	轆轤成形
16	かわらけ	(12.8)	(7.4)	3.0	轆轤成形
17	かわらけ	(12.8)	(7.4)	3.5	轆轤成形
18	かわらけ	13.0	7.0	3.3	轆轤成形
19	かわらけ	(12.8)	(7.2)	3.5	轆轤成形
20	かわらけ	(12.8	6.6	3.6	轆轤成形
21	かわらけ	13.0	8.8	3.3	轆轤成形
22	かわらけ	(12.8)	8.0	3.5	轆轤成形
23	かわらけ	(13.0)	(7.4)	3.4	轆轤成形
24	かわらけ	12.8	6.8	3.6	轆轤成形
25	かわらけ	13.0	7.0	3.6	轆轤成形
26	かわらけ	12.8	7.2	3.4	轆轤成形
27	かわらけ	(13.0)	(8.0)	3.8	轆轤成形
28	かわらけ	13.6	7.6	3.7	轆轤成形
29	かわらけ	(13.4)	8.2	3.6	轆轤成形
30	かわらけ	(12.8)	(8.0)	3.6	轆轤成形
31	かわらけ	13.2	7.0	3.8	轆轤成形
32	かわらけ	(13.8)	8.0	3.0	轆轤成形　口縁部を故意に欠く
33	かわらけ	(12.8)	(7.0)	3.5	轆轤成形
34	かわらけ	13.8	7.0	3.6	轆轤成形　口縁部に煤付着
35	かわらけ	13.2	7.3	3.5	轆轤成形
36	かわらけ	(13.8)	(8.4)	4.0	轆轤成形
37	かわらけ	(13.4)	(8.0)	3.6	轆轤成形
38	かわらけ	(13.8)	8.0	3.6	轆轤成形
39	かわらけ	(13.4)	(8.0)	4.4	轆轤成形
40	かわらけ	(14.8)	(10.0)	3.5	轆轤成形
41	かわらけ	(13.8)	(7.8)	3.9	轆轤成形

図22　２面出土遺物３

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		口径	底径	器高	
1	かわらけ	(9.8)	(6.6)	2.9	轆轤成形
2	かわらけ	11.0	6.5	3.1	轆轤成形
3	かわらけ	(10.2)	(5.4)	3.2	轆轤成形
4	かわらけ	(10.2)	(5.8)	3.0	轆轤成形
5	かわらけ	10.6	6.8	2.8	轆轤成形
6	かわらけ	(10.0)	(6.0)	3.0	轆轤成形

7	かわらけ	10.8	6.4	2.8	轆轤成形
8	かわらけ	10.8	6.9	3.0	轆轤成形
9	かわらけ	(10.8)	(5.8)	3.1	轆轤成形
10	かわらけ	(10.8)	(6.6)	2.8	轆轤成形
11	かわらけ	(10.8)	6.6	2.7	轆轤成形
12	かわらけ	(11.0)	6.0	2.8	轆轤成形　底部に貫通しない穿孔あり
13	かわらけ	(11.2)	5.6	3.3	轆轤成形
14	かわらけ	(10.8)	(7.0)	3.1	轆轤成形　口縁部に煤付着
15	かわらけ	11.8	3.6	2.9	轆轤成形
16	かわらけ	11.6	6.8	3.3	轆轤成形
17	かわらけ	(11.8)	(6.8)	3.3	轆轤成形
18	かわらけ	12.0	7.4	3.0	轆轤成形
19	かわらけ	(11.8)	7.0	3.6	轆轤成形
20	かわらけ	12.0	7.7	3.2	轆轤成形
21	かわらけ	12.0	7.6	3.1	轆轤成形
22	かわらけ	(12.2)	7.4	3.4	轆轤成形　口縁部・体部に煤付着
23	かわらけ	(12.0)	7.4	3.3	轆轤成形
24	かわらけ	(12.4)	(7.4)	3.0	轆轤成形　内底に煤付着
25	かわらけ	(12.2)	7.0	3.8	轆轤成形
26	かわらけ	(11.8)	(7.2)	3.4	轆轤成形
27	かわらけ	7.7	5.6	2.4	轆轤成形　木片・釘付着
28	かわらけ				直径4.0　かわらけの底部を円盤状に加工したもの
29	かわらけ				底径(5.0)のかわらけを加工したもの
30	青磁折縁皿				龍泉窯
31	青白磁水注				景徳鎮窯か
32	産地不明陶器	(13.3)			常滑の片口か　13世紀中葉か

図23　2面出土遺物4

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		口径	底径	器高	
1	瀬戸卸皿	(15.2)	(10.0)	3.2	灰釉ハケヌリ古瀬戸中Ⅰ～Ⅱ期(13世紀末～14世紀前葉)
2	瀬戸入子		3.0		残存部は無釉　古瀬戸13～14世紀か
3	瀬戸入子				残存部は無釉　古瀬戸13～14世紀か
4	瀬戸入子	7.8			内面自然降灰　古瀬戸13～14世紀
5	常滑片口鉢(Ⅱ類)				7型式(14世紀前半)か　6・10と同一個体か
6	常滑片口鉢(Ⅱ類)				
7	常滑片口鉢(Ⅱ類)		(13.0)		内面摩滅
8	常滑片口鉢(Ⅱ類)				10型式(15世紀後半)か
9	常滑片口鉢(Ⅱ類)				8型式(14世紀後半)か
10	常滑片口鉢(Ⅱ類)				
11	常滑片口鉢(Ⅱ類)				8型式(14世紀後半)か
12	火鉢				瓦質　脚部剥落
13	火鉢	(31.4)			瓦質
14	火鉢				瓦質　菊花文スタンプ
15	火鉢		(29.6)		瓦質　脚部片
16	火鉢		(24.0)		土器質
17	火鉢				瓦質　菊花文スタンプ
18	火鉢	(35.4)	(28.0)	10.0	瓦質
19	土器	(8.0)			外面に2条の沈線あり　内面に漆喰と思われる付着物あり図6-4と同一個体か
20	滑石製鍋転用品	長3.2	幅6.6	厚1.0	鍋の体部を台形に切断　内面に文様を刻む

図24　2面出土遺物5

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
1	女瓦			厚2.0	D類　凸面斜格子目叩き
2	女瓦			厚2.0	D類　凸面斜格子目叩き
3	女瓦			厚1.8	D類　凸面斜格子目叩き
4	女瓦			厚1.6	D類
5	女瓦			厚1.6	D類　凸面斜格子目叩き
6	男瓦			厚2.5	A類　凸面縄目叩き
7	瓦加工品	長さ7.4	幅3.6	厚1.8	両側面と片面を磨いている　C類
8	砥石	長さ6.4	幅4.5	厚4.2	伊予産中砥　4面使用
9	砥石	長さ7.2	幅6.4	厚3.1	伊予産中砥　4面使用　1面使用　両側面が残る
10	砥石	長さ7.7	幅4.8	厚3.0	伊予産中砥　4面使用　小口一箇所が残る
11	砥石	長さ7.8	幅5.6	厚3.0	上野産中砥　4面使用
12	砥石	長さ7.8	幅3.6	厚2.7	伊予産中砥　4面使用　小口一箇所が残る
13	砥石	長さ7.7	幅4.8	厚3.0	伊予産中砥　4面使用
14	砥石	長さ2.9	幅4.4	厚0.8	鳴滝産仕上砥　2面使用　両側面が残る
15	砥石	長さ4.0	幅3.8	厚0.5	鳴滝産仕上砥　2面使用　両側面・小口一箇所が残る
16	砥石	長さ1.8	幅3.0	厚0.3	鳴滝産仕上砥　1面使用　裏面は自然切離　両側面が残る

図25　2面出土遺物6

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		口径	底径	器高	
1	銭　太平通寶	径2.4	重3.9g		初鋳年 976(北宋)真書
2	銭　咸平元寶	径2.4	重3.0g		初鋳年 998(北宋)真書

3	銭　至道元寶	径2.4	重4.1g		初鋳年 995(北宋)真書
4	銭　皇宋通寶	径2.4	重3.2g		初鋳年1038(北宋)真書
5	銭　治平元寶か	径2.3	重2.9g		初鋳年1064(北宋)
6	銭　熙寧元寶	径2.4	重2.3g		初鋳年1068(北宋)真書
7	銭　元豊通寶	径2.3	重3.8g		初鋳年1078(北宋)篆書
8	銭　元祐通寶	径2.3	重3.9g		初鋳年1086(北宋)行書
9	銭　元祐通寶	径2.4	重3.3g		初鋳年1086(北宋)行書
10	銭　元祐通寶	径2.4	重3.9g		初鋳年1086(北宋)篆書
11	銭　元祐通寶	径2.3	重3.8g		初鋳年1086(北宋)篆書
12	鉄製品　釘	長9.0	幅0.6	厚0.7	
13	漆器　椀か				漆の皮膜のみ　黒漆　文様朱漆、手描き

図26　2面遺構出土遺物

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		口径	底径	器高	
柱穴32					
1	かわらけ	(6.8)	(5.6)	1.6	轆轤成形
2	かわらけ	7.6	4.8	2.2	轆轤成形
3	かわらけ	13.0	7.6	3.9	轆轤成形
4	かわらけ	(12.8)	(7.8)	3.6	轆轤成形
柱穴118					
5	かわらけ	(.2)	(4.6)	1.5	轆轤成形
6	かわらけ	(13.0)	(8.0)	3.3	轆轤成形
7	かわらけ	(7.4)	(5.8)	1.3	轆轤成形
8	かわらけ	(12.6)	(6.8)	3.3	轆轤成形
9	かわらけ	(10.8)	(6.0)	2.9	轆轤成形
柱穴28					
10	かわらけ	7.8	5.7	1.8	轆轤成形
11	かわらけ	8.4	5.7	1.6	轆轤成形
12	かわらけ	8.2	6.0	1.8	轆轤成形
柱穴17					
13	かわらけ	(12.2)	7.4	3.2	轆轤成形
柱穴18					
14	かわらけ	(12.2)	7.0	3.5	轆轤成形
柱穴120					
15	かわらけ	7.8	4.6	2.0	轆轤成形
柱穴108					
16	かわらけ	(8.6)	(4.0)	3.1	轆轤成形
柱穴110					
17	かわらけ	(12.8)	(8.8)	3.5	轆轤成形
柱穴14					
18	かわらけ		6.6		轆轤成形　口縁を打ち欠く　煤付着
柱穴10					
19	常滑　甕				8～9型式(14世紀後半～15世紀前半)
柱穴29					
20	砥石	残長6.6	残幅2.2	残厚3.5	伊予産中砥

図27　2面構成土出土遺物1

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		口径	底径	器高	
1	かわらけ	9.8		2.1	手捏ね成形
2	かわらけ	(8.0)	(7.4)	1.4	轆轤成形
3	かわらけ	7.4	5.4	1.4	轆轤成形
4	かわらけ	(8.0)	(6.4)	1.5	轆轤成形
5	かわらけ	(7.8)	(6.4)	1.6	轆轤成形
6	かわらけ	7.4	5.9	1.5	轆轤成形
7	かわらけ	(7.2)	(5.1)	1.5	轆轤成形
8	かわらけ	(7.5)	(5.2)	1.4	轆轤成形
9	かわらけ	7.4	6.2	1.5	轆轤成形
10	かわらけ	7.4	5.3	1.4	轆轤成形　口縁部に煤付着
11	かわらけ	(7.8)	(5.2)	1.3	轆轤成形
12	かわらけ	(7.7)	(5.6)	1.4	轆轤成形
13	かわらけ	(7.6)	(5.0)	1.4	轆轤成形
14	かわらけ	(7.4)	(5.4)	1.5	轆轤成形
15	かわらけ	7.6	4.7	1.4	轆轤成形
16	かわらけ	(7.8)	(6.0)	1.6	轆轤成形
17	かわらけ	(11.4)	6.0	3.3	轆轤成形
18	かわらけ	(7.6)	(5.8)	1.5	轆轤成形
19	かわらけ	7.0	4.9	1.3	轆轤成形
20	かわらけ	(7.7)	(5.8)	1.7	轆轤成形　口縁部に煤付着
21	かわらけ	7.2	5.4	1.5	轆轤成形
22	かわらけ	7.4	5.1	1.5	轆轤成形　内面に煤付着
23	かわらけ	7.4	4.8	1.7	轆轤成形　口縁部に煤付着
24	かわらけ	7.4	5.0	1.7	轆轤成形
25	かわらけ	(7.8)	(5.2)	1.4	轆轤成形
26	かわらけ	(7.2)	(5.6)	1.6	轆轤成形
27	かわらけ	(7.8)	(6.0)	1.6	轆轤成形
28	かわらけ	7.2	4.8	1.6	轆轤成形
29	かわらけ	(7.8)	(5.2)	1.5	轆轤成形

30	かわらけ	(8.2)	(5.2)	1.6	轆轤成形
31	かわらけ	8.0	5.2	1.7	轆轤成形
32	かわらけ	7.6	5.7	1.5	轆轤成形
33	かわらけ	(7.6)	(5.4)	1.5	轆轤成形
34	かわらけ	7.6	5.7	1.5	轆轤成形
35	かわらけ	7.6	6.0	1.4	轆轤成形
36	かわらけ	7.6	5.5	1.4	轆轤成形　内面・外面・底部に煤付着
37	かわらけ	7.6	5.4	1.6	轆轤成形
38	かわらけ	(7.7)	(5.5)	1.6	轆轤成形
39	かわらけ	(7.8)	(5.6)	1.5	轆轤成形
40	かわらけ	(7.8)	(6.0)	1.3	轆轤成形
41	かわらけ	7.2	5.0	1.5	轆轤成形　全体に煤付着
42	かわらけ	7.6	5.4	1.6	轆轤成形
43	かわらけ	7.4	4.8	1.7	轆轤成形
44	かわらけ	(7.5)	5.2	1.7	轆轤成形
45	かわらけ	(8.0)	5.6	1.7	轆轤成形
46	かわらけ	(7.8)	(5.0)	1.6	轆轤成形
47	かわらけ	(7.8)	(5.6)	1.6	轆轤成形
48	かわらけ	7.4	4.7	1.6	轆轤成形
49	かわらけ	(7.2)	(5.2)	1.7	轆轤成形
50	かわらけ	7.8	5.3	2.0	轆轤成形　歪み顕著
51	かわらけ	7.8	5.5	1.6	轆轤成形　口縁部・外側面に煤付着
52	かわらけ	(7.3)	5.0	1.7	轆轤成形　内面に煤付着
53	かわらけ	(7.6)	(5.5)	1.7	轆轤成形
54	かわらけ	(7.6)	(5.4)	1.6	轆轤成形
55	かわらけ	7.2	5.2	1.7	轆轤成形
56	かわらけ	7.7	5.6	1.9	轆轤成形　全体に煤付着
57	かわらけ	7.7	5.4	1.7	轆轤成形　口縁部に煤付着
58	かわらけ	(8.0)	(5.8)	1.7	轆轤成形
59	かわらけ	(7.8)	(5.8)	1.8	轆轤成形
60	かわらけ	(7.6)	(5.4)	1.8	轆轤成形
61	かわらけ	7.9	6.1	1.8	轆轤成形
62	かわらけ	(8.0)	5.4	1.9	轆轤成形
63	かわらけ	(8.0)	(5.6)	1.9	轆轤成形
64	かわらけ	(7.8)	(5.8)	1.7	轆轤成形　口縁部に煤付着
65	かわらけ	8.0	5.4	1.8	轆轤成形　口縁部に煤付着
66	かわらけ	8.0	5.4	1.8	轆轤成形
67	かわらけ	(8.8)	(6.0)	1.8	轆轤成形
68	かわらけ	(8.4)	(6.0)	1.7	轆轤成形
69	かわらけ	(8.0)	(5.8)	1.6	轆轤成形
70	かわらけ	(7.8)	(5.0)	1.8	轆轤成形
71	かわらけ	(8.5)	(6.2)	1.7	轆轤成形
72	かわらけ	8.2	6.0	1.9	轆轤成形
73	かわらけ	8.4	6.1	1.9	轆轤成形
74	かわらけ	(8.5)	(6.2)	1.9	轆轤成形　口縁部に煤付着

図28　2面構成土出土遺物2

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		口径	底径	器高	
1	かわらけ	7.8	5.0	1.6	轆轤成形
2	かわらけ	(7.4)	(5.2)	1.6	轆轤成形　口縁部・体部に煤付着
3	かわらけ	7.8	4.3	1.7	轆轤成形
4	かわらけ	(7.5)	4.6	1.8	轆轤成形
5	かわらけ	(6.8)	(4.8)	1.6	轆轤成形
6	かわらけ	7.4	5.3	1.6	轆轤成形
7	かわらけ	(7.8)	(5.6)	1.7	轆轤成形
8	かわらけ	(7.4)	(5.0)	1.5	轆轤成形
9	かわらけ	(7.8)	(5.4)	1.7	轆轤成形
10	かわらけ	(7.8)	(5.0)	1.7	轆轤成形
11	かわらけ	(7.4)	(5.4)	1.9	轆轤成形
12	かわらけ	(7.1)	4.8	1.6	轆轤成形
13	かわらけ	(8.0)	4.6	1.5	轆轤成形
14	かわらけ	(7.2)	4.8	1.5	轆轤成形
15	かわらけ	(7.3)	(4.7)	1.9	轆轤成形
16	かわらけ	6.8	4.2	1.7	轆轤成形
17	かわらけ	7.4	5.0	1.9	轆轤成形
18	かわらけ	7.4	4.8	1.7	轆轤成形　体部・底部に煤付着
19	かわらけ	(7.0)	(4.4)	1.8	轆轤成形
20	かわらけ	(7.6)	(5.0)	1.6	轆轤成形
21	かわらけ	(7.8)	(4.8)	1.5	轆轤成形　残存部全体に煤付着
22	かわらけ	7.6	5.3	1.6	轆轤成形
23	かわらけ	7.9	4.6	1.8	轆轤成形
24	かわらけ	8.0	5.5	2.3	轆轤成形　口縁部に煤付着
25	かわらけ	(7.8)	(4.9)	1.6	轆轤成形　口縁部・内底部に煤付着
26	かわらけ	8.0	5.3	1.8	轆轤成形
27	かわらけ	7.5	5.6	1.9	轆轤成形
28	かわらけ	7.6	4.8	1.8	轆轤成形
29	かわらけ	8.0	4.5	1.9	轆轤成形
30	かわらけ	(7.6)	(5.2)	1.7	轆轤成形　全体に煤付着

31	かわらけ	7.7	6.2	1.9	轆轤成形　口縁部に煤付着
32	かわらけ	(7.8)	(4.2)	1.6	轆轤成形
33	かわらけ	(7.8)	(5.0)	2.0	轆轤成形
34	かわらけ	7.6	4.6	1.8	轆轤成形
35	かわらけ	(7.4)	(5.2)	1.9	轆轤成形
36	かわらけ	7.7	4.9	1.4	轆轤成形
37	かわらけ	8.2	5.1	2.0	轆轤成形
38	かわらけ	8.0	5.0	1.9	轆轤成形
39	かわらけ	(7.8)	5.0	1.7	轆轤成形
40	かわらけ	7.9	5.6	2.0	轆轤成形
41	かわらけ	7.4	4.5	2.0	轆轤成形
42	かわらけ	(7.4)	(4.7)	1.9	轆轤成形　口縁部に煤付着
43	かわらけ	(7.4)	(4.9)	2.2	轆轤成形　口縁部に煤付着
44	かわらけ	7.0	4.2	2.1	轆轤成形
45	かわらけ	6.7	4.1	2.1	轆轤成形
46	かわらけ	(8.0)	(5.0)	2.3	轆轤成形
47	かわらけ	(11.8)	(6.4)	2.9	轆轤成形
48	かわらけ	(11.4)	6.0	3.0	轆轤成形
49	かわらけ	(11.2)	7.0	3.0	轆轤成形
50	かわらけ	11.7	6.8	3.2	轆轤成形
51	かわらけ	(11.8)	(7.4)	3.1	轆轤成形
52	かわらけ	(11.8)	(7.8)	2.9	轆轤成形
53	かわらけ	(12.2)	(7.5)	3.2	轆轤成形
54	かわらけ	(11.8)	(7.0)	3.4	轆轤成形
55	かわらけ	(11.8)	(8.2)	3.4	轆轤成形
56	かわらけ	(12.3)	(6.4)	3.2	轆轤成形
57	かわらけ	(11.8)	7.6	2.9	轆轤成形
58	かわらけ	12.0	7.8	3.6	轆轤成形
59	かわらけ	12.0	8.0	3.4	轆轤成形　口縁の一部を欠く　全面に煤付着
60	かわらけ	(12.0)	6.4	3.4	轆轤成形

図29　2面構成土出土遺物3

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		口径	底径	器高	
1	かわらけ	(12.0)	(9.0)	3.5	轆轤成形
2	かわらけ	(11.8)	8.6	3.5	轆轤成形
3	かわらけ	(12.0)	(7.4)	3.1	轆轤成形
4	かわらけ	(13.0)	(8.6)	3.3	轆轤成形
5	かわらけ	(12.6)	(8.6)	3.3	轆轤成形
6	かわらけ	(12.2)	(8.2)	3.0	轆轤成形
7	かわらけ	13.8	9.4	3.5	轆轤成形
8	かわらけ	(13.5)	(9.4)	3.6	轆轤成形
9	かわらけ	(12.8)	(8.4)	3.3	轆轤成形
10	かわらけ	(12.8)	(9.4)	2.7	轆轤成形　体部に煤付着
11	かわらけ	(13.5)	(9.0)	3.0	轆轤成形
12	かわらけ	(12.2)	(8.0)	3.0	轆轤成形
13	かわらけ	12.7	7.4	3.4	轆轤成形
14	かわらけ	(12.8)	(8.3)	2.8	轆轤成形　口縁部・体部に煤付着
15	かわらけ	13.0	8.3	3.2	轆轤成形
16	かわらけ	(12.4)	(8.5)	3.0	轆轤成形
17	かわらけ	(12.8)	8.0	2.9	轆轤成形
18	かわらけ	(13.2)	(9.0)	3.2	轆轤成形
19	かわらけ	(12.2)	(7.0)	2.8	轆轤成形　口縁部に煤付着
20	かわらけ	(12.6)	(7.0)	3.3	轆轤成形　二次焼成を受ける
21	かわらけ	12.5	8.0	3.3	轆轤成形
22	かわらけ	11.9	7.6	3.2	轆轤成形
23	かわらけ	(12.0)	(8.0)	3.3	轆轤成形
24	かわらけ	(12.8)	(7.6)	3.0	轆轤成形
25	かわらけ	(12.5)	7.6	3.0	轆轤成形
26	かわらけ	(12.8)	(7.0)	2.9	轆轤成形
27	かわらけ	12.6	8.0	3.1	轆轤成形
28	かわらけ	(12.4)	(7.6)	2.0	轆轤成形
29	かわらけ	12.9	8.3	3.4	轆轤成形
30	かわらけ	(13.3)	(8.0)	3.2	轆轤成形
31	かわらけ	(12.8)	7.4	3.2	轆轤成形
32	かわらけ	12.8	8.5	3.2	轆轤成形
33	かわらけ	(13.0)	(8.0)	3.4	轆轤成形
34	かわらけ	(12.8)	(6.8)	3.0	轆轤成形
35	かわらけ	(12.8)	8.5	3.4	轆轤成形　口縁部・内底部に煤付着
36	かわらけ	12.8	8.0	3.2	轆轤成形
37	かわらけ	(13.6)	9.0	3.6	轆轤成形　底部に煤付着
38	かわらけ	13.8	8.8	3.5	轆轤成形
39	かわらけ	(12.8)	8.0	3.1	轆轤成形

図30　2面構成土出土遺物4　図31　2面構成土出土遺物5

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		口径	底径	器高	
1	かわらけ	(12.0)	(7.2)	3.0	轆轤成形
2	かわらけ	(11.8)	(6.6)	3.0	轆轤成形

3	かわらけ	(12.2)	(7.4)	3.1	轆轤成形
4	かわらけ	(11.8)	(7.0)	3.4	轆轤成形
5	かわらけ	(12.1)	(7.4)	3.3	轆轤成形
6	かわらけ	13.1	9.2	3.7	轆轤成形
7	かわらけ	(11.9)	(7.2)	3.1	轆轤成形
8	かわらけ	(11.8)	(7.0)	3.5	轆轤成形
9	かわらけ	(12.4)	(8.0)	3.2	轆轤成形
10	かわらけ	(12.1)	7.5	3.5	轆轤成形
11	かわらけ	(12.3)	6.5	3.1	轆轤成形
12	かわらけ	12.2	7.4	3.4	轆轤成形
13	かわらけ	(11.8)	(7.6)	3.3	轆轤成形
14	かわらけ	(12.4)	(7.0)	3.3	轆轤成形
15	かわらけ	(12.5)	7.9	3.7	轆轤成形
16	かわらけ	12.2	7.3	3.4	轆轤成形
17	かわらけ	(11.8)	(7.0)	3.0	轆轤成形
18	かわらけ	(12.6)	8.2	3.4	轆轤成形
19	かわらけ	(12.8)	(7.4)	3.3	轆轤成形　外面・内底部に煤付着
20	かわらけ	(12.2)	7.6	3.2	轆轤成形
21	かわらけ	(12.4)	(7.8)	3.2	轆轤成形
22	かわらけ	(12.8)	(8.0)	3.5	轆轤成形
23	かわらけ	(12.8)	(7.2)	3.2	轆轤成形
24	かわらけ	(12.8)	(7.4)	3.6	轆轤成形
25	かわらけ	(12.2)	(7.8)	3.4	轆轤成形　口縁部に煤付着
26	かわらけ	(12.8)	(7.6)	4.5	轆轤成形
27	かわらけ	12.6	7.3	3.7	轆轤成形
28	かわらけ	(12.8)	(7.0)	3.6	轆轤成形
29	かわらけ	(11.8)	(6.6)	3.5	轆轤成形
30	かわらけ	(12.9)	7.5	3.8	轆轤成形
31	かわらけ	(14.8)	(9.8)	3.5	轆轤成形
32	かわらけ	(13.0)	(8.6)	3.5	轆轤成形
33	かわらけ	(12.4)	(7.4)	3.5	轆轤成形
34	かわらけ	(14.3)	(8.4)	3.8	轆轤成形
35	かわらけ	13.4	7.6	3.9	轆轤成形
36	かわらけ	11.9	6.9	3.2	轆轤成形
37	かわらけ	(14.1)	(8.6)	3.5	轆轤成形
38	かわらけ	(12.8)	8.2	3.6	轆轤成形　外面全体・内底部に煤付着

図31　２面構成土出土遺物５

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		口径	底径	器高	
1	かわらけ	(10.8)	(6.4)	3.2	轆轤成形
2	かわらけ	(11.0)	(7.0)	2.9	轆轤成形
3	かわらけ	(11.1)	(6.5)	3.0	轆轤成形
4	かわらけ	(11.2)	(6.4)	3.6	轆轤成形
5	かわらけ	11.2	5.8	3.4	轆轤成形
6	かわらけ	(11.1)	(6.8)	3.3	轆轤成形
7	かわらけ	(11.4)	6.0	3.3	轆轤成形
8	かわらけ	(11.4)	(6.5)	3.2	轆轤成形
9	かわらけ				轆轤成形　内面に墨書・線刻あり
10	かわらけ	(12.0)	7.2	3.0	轆轤成形　外面に墨書あり　内面に付着物
11	土師質小壺か		6.4		庭部糸切り痕有り　内面貼り重ねの痕跡
12	かわらけ製品	直径2.3	厚0.3		円盤状に加工したもの
13	白磁口兀皿		5.3		
14	白磁口兀皿		(5.7)		
15	白磁劃花文皿	(10.4)	(4.4)	2.3	
16	白磁皿	(7.3)			型作り　景徳鎮窯か
17	白磁合子(蓋)	(7.0)			割れ目に漆付着　補修痕か
18	青磁鎬蓮弁文碗	(15.0)			龍泉窯
19	青磁鎬蓮弁文碗				龍泉窯
20	青磁鎬蓮弁文碗				龍泉窯
21	青磁鎬蓮弁文碗				龍泉窯
22	青磁折縁皿				外面蓮弁文　龍泉窯
23	青磁花瓶か水注				取手部分　龍泉窯
24	瀬戸入子	(8.0)	(4.4)	3.2	片口　内面口縁付近と内底に自然降灰　古瀬戸前期(13世紀)か
25	山茶碗				北部系
26	常滑　浅鉢	(15.0)			図22-32と同一個体か
27	備前擂鉢か				備前焼Ⅱ～Ⅲ期(鎌倉時代中頃～後半)か
28	常滑片口鉢(Ⅰ類)				5～6a型式(13世紀中葉)か
29	常滑片口鉢(Ⅰ類)				5～6a型式(13世紀中葉)か
30	常滑片口鉢(Ⅰ類)				5～6a型式(13世紀中葉)か
31	常滑片口鉢(Ⅰ類)				5～6a型式(13世紀中葉)か
32	常滑片口鉢(Ⅰ類)		(15.8)		6a型式(13世紀中葉)を下限とするものか
33	常滑片口鉢(Ⅰ類)		12.8		6a型式(13世紀中葉)を下限とするものか
34	常滑片口鉢(Ⅱ類)				7型式(14世紀前半)か
35	常滑片口鉢(Ⅱ類)				7型式(14世紀前半)か
36	常滑片口鉢(Ⅱ類)				内面煤付着　6b型式(13世紀後葉)か
37	常滑片口鉢(Ⅱ類)				7型式(14世紀前半)か
38	常滑甕				

図32　2面構成土出土遺物6

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
1	宇瓦			厚2.0	D類　瓦当剥離
2	女瓦			厚1.6	D類　凸面斜格子目叩き　端部にスタンプあり
3	女瓦			厚2.0	D類　凸面斜格子叩き
4	女瓦			厚3.0	C類　凸面斜格子目叩き　水殿瓦窯産
5	女瓦			厚3.1	C類　凸面斜格子目叩き　水殿瓦窯産

図33　2面構成土出土遺物7

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		口径	底径	器高	
1	火鉢	(28.8)	(20.8)	8.5	瓦質 口縁部付近に穿孔あり 口縁部内面に煤付着
2	伊勢土鍋				13世紀か　全体に煤付着
3	滑石製鍋				外面に煤付着　13世紀か
4	滑石製品	残7.6	幅2.6	厚1.8	
5	銭　開元通宝	径2.4	重2.0g		初鋳年 621(唐)背文上月
6	銭　咸平元寶	径2.5	重2.4g		初鋳年 998(北宋)
7	銭　祥府元寶	径2.5	重2.7g		初鋳年1008(北宋)
8	銭　嘉祐通寶	径2.0	重1.9g		初鋳年1056(北宋)真書
9	銭　熙寧元寶	径2.5	重2.5g		初鋳年1068(北宋)篆書
10	銭　熙寧元寶	径2.4	重3.2g		初鋳年1068(北宋)篆書
11	銭　元豊通寶	径2.2	重1.9g		初鋳年1078(北宋)行書
12	銭　元豊通寶	径2.3	重3.9g		初鋳年1078(北宋)篆書
13	銭　大観通寶	径2.5	重3.3g		初鋳年1107(北宋)
14	銭　大観通寶	径2.4	重3.8g		初鋳年1107(北宋)
15	銭　元豊通寶	径2.3	重4.0g		初鋳年1078(北宋)篆書
16	鉄製品　釘	残5.4	幅0.3	厚0.4	
17	鉄製品　釘	長7.0	幅0.6	厚0.4	
18	鉄製品　掛金具	残12	幅1.3		

図34　2面構成土出土遺物8

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		長さ	幅	厚	
1	木製品　箸	17.8	0.5	0.5	
2	木製品　箸	残17.9	0.5	0.6	
3	木製品　箸	15.3	0.7	0.5	
4	木製品　箸	残14.5	0.5	0.5	
5	木製品　箸	残16.3	0.5	0.5	
6	木製品　箸	残17.7	0.5	0.4	
7	木製品　箸	15.8	0.6	0.5	
8	木製品　箸	16.6	0.6	0.4	
9	木製品　箸	残17.6	0.5	0.5	
10	木製品　箸	19.2	0.5	0.4	
11	木製品　箸	18.5	0.5	0.5	
12	木製品　箸	19.2	0.4	0.4	
13	木製品　箸	残16.9	0.8	0.5	
14	木製品　箸	残18.9	0.6	0.3	
15	木製品　箸	19.7	0.7	0.6	
16	木製品　箸	19.9	0.5	0.5	
17	木製品　箸	残17.8	0.4	0.5	
18	木製品　箸	16.4	0.6	0.5	端部焦げ
19	木製品　箸	16.4	0.6	0.4	
20	木製品　箸	残15.3	0.5	0.3	
21	木製品　箸	16.9	0.6	0.4	
22	木製品　箸	16.8	0.5	0.6	
23	木製品　箸	17.5	0.6	0.5	
24	木製品　箸	18.6	0.5	0.5	
25	木製品　箸	残18.3	0.7	0.4	
26	木製品　箸	18.3	0.5	0.5	
27	木製品　箸	17.9	0.6	0.5	
28	木製品　箸	17.9	0.7	0.6	
29	木製品　箸	17.9	0.7	0.4	
30	木製品　箸	18.5	0.5	0.3	
31	木製品　箸	18.4	0.8	0.5	
32	木製品　箸	18.2	0.4	0.5	
33	木製品　箸	24.6	0.7	0.5	
34	木製品　箸	22.2	0.5	0.5	
35	木製品　箸	23.8	0.5	0.5	
36	木製品　箸	残22.1	0.6	0.5	
37	木製品　箸	20.5	0.6	0.5	
38	木製品　箸	20.4	0.8	0.6	
39	木製品　箸	19.9	0.6	0.4	
40	木製品　箸	19.3	0.6	0.5	
41	木製品　箸	18.8	0.8	0.6	
42	木製品　箸	19.1	0.6	0.5	
43	木製品　箸	19.2	0.7	0.4	焦げた箇所あり
44	木製品　箸	19.0	0.5	0.4	
45	木製品　箸	19.3	0.5	0.5	
46	木製品　箸	19.9	0.5	0.4	
47	木製品　箸	19.0	0.6	0.5	

48	木製品　箸	19.0	0.5	0.4	

図35　2面構成土出土遺物9

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		長さ	幅	厚	
1	木製品　箸	19.9	0.7	0.4	
2	木製品　箸	20.1	0.6	0.3	
3	木製品　箸	19.8	0.5	0.5	
4	木製品　箸	19.6	0.7	0.3	
5	木製品　箸	20.4	0.7	0.5	
6	木製品　箸	20.5	0.6	0.5	
7	木製品　箸	20.0	0.6	0.4	
8	木製品　箸	20.1	0.6	0.5	
9	木製品　箸	21.3	0.5	0.5	
10	木製品　箸	22.3	0.6	0.4	
11	木製品　箸	21.6	0.6	0.5	
12	木製品　箸	21.8	0.7	0.5	
13	木製品　箸	22.2	0.6	0.5	
14	木製品　箸	23.0	0.8	0.5	
15	木製品　箸	23.4	0.7	0.5	
16	木製品　箸	24.1	0.5	0.5	
17	木製品　箸	残30.1	0.9	0.7	
18	木製品　箸	23.9	0.6	0.5	
19	木製品　箸	23.4	0.7	0.6	
20	木製品　箸	23.0	0.5	0.5	
21	木製品　箸	23.4	0.6	0.4	
22	木製品　箸	21.5	0.6	0.5	
23	木製品　箸	21.8	0.5	0.5	
24	木製品　箸	20.9	0.8	0.4	
25	木製品　箸	20.6	0.7	0.3	
26	木製品　箸	19.8	0.5	0.4	
27	木製品　箸	19.1	0.6	0.5	
28	木製品　箸	19.6	0.6	0.5	端部焦げ
29	木製品　箸	20.0	0.7	0.5	
30	木製品　箸	20.2	0.6	0.4	
31	木製品　箸	20.0	0.6	0.6	
32	木製品　箸	21.0	0.6	0.5	
33	木製品　箸	19.2	0.7	0.4	
34	木製品　箸	残19.2	0.6	0.6	
35	木製品　箸	17.5	0.6	0.5	
36	木製品　箸	17.4	0.5	0.4	
37	木製品　箸	残19.0	0.8	0.3	
38	木製品　箸	19.1	0.5	0.4	
40	木製品　箸	残19.5	0.5	0.4	
41	木製品　箸	残20.0	0.7	0.5	
42	木製品　箸	21.7	0.6	0.4	
43	木製品　箸	21.9	0.4	0.5	
44	木製品　箸	残21.3	0.6	0.4	
45	木製品　箸	21.7	0.5	0.5	
46	木製品　箸	22.2	0.6	0.5	
47	木製品　箸	残21.8	0.7	0.5	

図36　2面構成土出土遺物10

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		長さ	幅	厚	
1	木製品	5.0	10.5	1.0	箱の部材か　3側面に木鋲が穿たれる　1面に漆状の付着物あり
2	木製品	残6.4	残2.9	0.6	一箇所に穿孔あり
3	木製品	残20.0	1.4	0.4	
4	木製品	残16.3	0.8	0.4	端部焦げ
5	木製品　箆	残14.5	1.0	0.7	
6	木製品	残16.3	0.8	0.4	籌木か
7	木製品　円盤	残22.9	残4.8	0.9	推定直径32.0　側面に穿孔あり
8	木製品	残22.0	5.3	0.5	板状　径1cm程の穿孔あり
9	木製品　下駄	残7.4	残10.3	残厚2.6	
10	木製品　糸巻部材	残12.3	2.2	0.5	焦げた箇所あり
11	木製品　草履芯	23.1	4.9	0.3	
12	木製品　草履芯	23.8	5.2	0.4	
13	木製品　草履芯	残17.8	5.4	0.2	
14	木製品　草履芯	残19.4	残2.3	0.3	
15	木製品　草履芯	残22.0	残2.9	0.3	
16	木製品　草履芯	23.3	残3.6	0.4	

図37　2面構成土出土遺物11

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		長さ	幅	厚	
1	ノミ	24.1	2.7		柄部分木製　ノミ部分鉄製　柄の先端に口金をはめた痕跡あり
2	木製品	残9.2	残2.0		

3	木製品	24.1	5.5	2.2	ホゾ状の切り込みを設ける
4	木製品　板	残50.4	15.6	2.0	柾目材。焦げた部分あり
5	木製品	残40.7	2.9	2.0	先端は杭状に加工される

図38　2面構成土出土遺物12

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		口径	底径	器高	
1	漆器　皿	9.7	5.6	1.3	全面黒漆　文様朱漆、手描き
2	漆器　皿	8.2	7.0	1.1	歪みあり　全面黒漆　底面は漆が薄い
3	漆器　皿	8.6	5.7	1.2	歪みあり　全面黒漆
4	漆器　皿	(9.1)	6.0	1.7	全面黒漆
5	漆器　皿	9.6	6.0	1.2	全面黒漆　文様朱漆　高台内は漆が薄い
6	漆器　皿	9.4	5.3	1.6	歪みあり　全面黒漆　文様朱漆、手描き
7	漆器　椀	12.8	7.0	3.0	全面黒漆
8	漆器　椀				全面黒漆　文様朱漆、スタンプ
9	漆器　椀		7.8		歪みあり　全面黒漆　文様朱漆、手描き
10	漆器　椀				外面黒漆　内面朱漆
11	漆器　鉢				全面黒漆
12	木製品	5.7	2.0	1.7	膳の脚か
13	漆器	長7.3	幅3.3	厚1.0	全面黒漆　膳の部材(雲形)
14	木製品　櫛		3.4	0.8	
15	木製品　櫛				
16	烏帽子				折烏帽子
17	漆器　匙か				全面黒漆
18	木製品	9.8	0.5	0.3	墨書あり
19	木製品　独楽			2.1	直径5.8　内面に朱を塗る　芯棒が残る
20	木製品	3.5	3.7	0.4	梅形に加工される

図40　3面・3面遺構出土遺物

3面

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		口径	底径	器高	
1	かわらけ	7.2	4.9	2.1	轆轤成形
2	かわらけ	(7.8)	(5.4)	1.6	轆轤成形
3	男瓦		厚2.2		D類　段部に竹管文あり
柱穴134					
4	かわらけ	(7.6)	(5.7)	1.7	轆轤成形
柱穴135					
5	青磁鎬蓮弁文碗		(5.1)		龍泉窯
溝状遺構1					
6	かわらけ	(7.6)	(5.0)	1.6	轆轤成形
7	常滑片口鉢(Ⅰ類)				6a型式(13世紀中葉)を下限とするものか
8	碁石	直径2.0	厚0.4		
9	木製品	直径3.0		1.9	栓状
10	木製品　折敷	残17.6	残2.8	0.2	穿孔あり
11	木製品　杓文字	23.7	5.0	0.7	
12	木製品	29.8	4.6	0.6	板状　先端を尖らせる　片面に焦げた部分あり
13	漆器　椀				全面黒漆　内面に付着物あり
14	漆器　皿	9.1	7.7	0.9	外面黒漆、内面朱漆。外面の朱漆は文様か否か不明
15	漆器　皿	(9.4)	(8.5)	0.5	全面黒漆文様朱漆、手描き
16	銭　熙寧元寶	径2.4	重3.3g		初鋳年1068(北宋)真書
17	銭　聖宋元寶	径2.4	重3.2g		初鋳年1101(北宋)行書

図41　3面構成土出土遺物

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		口径	底径	器高	
1	かわらけ	(4.6)	(4.0)	0.8	轆轤成形
2	かわらけ	7.8	5.9	2.0	轆轤成形
3	かわらけ	7.2	5.2	1.4	轆轤成形
4	かわらけ	(6.8)	(5.0)	1.5	轆轤成形
5	かわらけ	(7.8)	5.6	1.5	轆轤成形
6	かわらけ	7.4	5.6	1.6	轆轤成形
7	かわらけ	7.6	5.3	1.7	轆轤成形
8	かわらけ	(7.8)	(6.0)	6.6	轆轤成形
9	かわらけ	7.8	5.4	1.8	轆轤成形　口縁部に煤付着
10	かわらけ	(7.8)	(6.4)	1.7	轆轤成形
11	かわらけ	(7.4)	4.6	1.9	轆轤成形
12	かわらけ	7.9	5.8	1.9	轆轤成形
13	かわらけ	(7.6)	6.0	1.4	轆轤成形
14	かわらけ	(7.8)	(5.0)	1.9	轆轤成形
15	かわらけ	12.5	8.4	3.5	轆轤成形
16	かわらけ	(12.8)	(8.4)	3.3	轆轤成形
17	かわらけ	(11.8)	(8.2)	3.4	轆轤成形
18	かわらけ	(11.8)	(7.4)	3.0	轆轤成形　口縁部に煤付着
19	常滑　甕		(15.5)		二次焼成を受ける
20	常滑　甕				5型式(13世紀前葉)
21	青磁鎬蓮弁文碗				龍泉窯
22	青磁碗		(3.4)		無文　二次焼成を受ける　龍泉窯
23	青磁鎬蓮弁文碗				龍泉窯

24	木製品	長さ3.1	幅2.0	厚2.0	用途不明　円筒の中心に穿孔あり
25	木製品　灯明台	8.9	2.1	0.8	
26	木製品	残3.6		厚2.0	用途不明
27	木製品　折敷	長18.3	残4.1	厚0.1	穿孔あり
28	木製品	長15.5	残幅8.2	厚0.8	
29	木製品	直径6.8		厚0.7	円盤。側面一箇所に木鋲が穿たれる
30	漆器　皿			5.8	全面黒漆　漆はほとんどが剥落する
31	漆器　椀				全面黒漆　文様朱漆、手描き
32	鉄製品	残13.6	幅0.9		
33	銭　治平元寶	径2.4	重3.8g		初鋳年1064(北宋)篆書

図43　4面・4面遺構出土遺物

4面

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		口径	底径	器高	
1	白かわらけ	(6.7)		1.7	手捏ね成形
2	かわらけ	8.2	6.2	1.5	轆轤成形
3	かわらけ	(7.9)	(6.0)	1.6	轆轤成形
4	かわらけ	(8.7)	(6.0)	1.8	轆轤成形
5	かわらけ	(8.2)	(6.4)	1.6	轆轤成形
6	かわらけ	7.6	5.0	1.7	轆轤成形
7	かわらけ	(8.4)	(6.4)	1.7	轆轤成形
8	かわらけ	(8.0)	(6.4)	1.7	轆轤成形
9	かわらけ	7.5	5.2	1.9	轆轤成形
10	かわらけ	7.1	4.7	2.3	轆轤成形
11	かわらけ	(7.1)	(5.0)	2.2	轆轤成形
12	かわらけ	12.5	7.7	3.3	轆轤成形
13	かわらけ	13.1	7.6	3.5	轆轤成形
14	かわらけ	13.2	7.8	3.5	轆轤成形
15	かわらけ	12.7	8.4	3.5	轆轤成形
16	常滑片口鉢(Ⅰ類)		(13.4)		6a型式(13世紀中葉)を下限か　内面に煤付着
17	白磁劃花文皿				
18	漆器　椀				全面黒漆　文様朱漆、手描き
19	木製品	3.5	3.5	0.8	用途不明
20	木製品　草履芯	残長8.3	残幅3.1	0.2	
21	木製品　草履芯	残15.3	5.1	0.2	
22	木製品　草履芯	残17.8	3.7	0.2	
23	木製品　草履芯	13.5	2.7	0.3	
24	木製品	残15.0	残3.7	0.9	円盤　推定直径24.0　穿孔あり
25	木製品　箸	残15.3	0.6	0.5	
26	木製品　箸	14.7	0.7	0.5	
27	木製品　箸	22.0	0.7	0.4	
28	青磁　折腰皿		4.2		龍泉窯
柱穴150					
29	銭　開元通宝	径2.5	重3.5g		初鋳年 621(唐)
柱穴152					
30	かわらけ	(8.2)	5.6	1.6	轆轤成形
31	かわらけ	(8.2)	(5.8)	1.5	轆轤成形
土壙19					
32	木製品	残13.7	残2.7	1.0	2個の部材を釘でとめる　他に穿孔・釘の貫通する箇
33	木製品	残6.7	2.0	2.3	
土壙17					
34	鉄製品　釘	長7.0	幅0.6	厚0.4	
土壙20					
35	漆器　椀	(13.7)	(6.0)		全面黒漆　高台内は漆が薄い

図44　4面構成土出土遺物1

図番号	遺物名	法量(cm			備考
		口径	底径	器高	
1	かわらけ	(4.8)	(4.0)	0.9	轆轤成形
2	かわらけ	(4.8)	(3.6)	0.8	轆轤成形
3	かわらけ	(4.8)	(4.0)	0.8	轆轤成形
4	かわらけ	7.2	5.4	1.6	轆轤成形
5	かわらけ	(7.8)	(6.0)	1.7	轆轤成形
6	かわらけ	(7.8)	(6.0)	1.6	轆轤成形
7	かわらけ	7.4	5.8	1.5	轆轤成形
8	かわらけ	7.8	6.2	1.5	轆轤成形
9	かわらけ	(7.6)	(5.0)	1.6	轆轤成形
10	かわらけ	(7.8)	(6.0)	1.4	轆轤成形
11	かわらけ	(7.8)	(6.0)	1.7	轆轤成形
12	かわらけ	(7.8)	(6.0)	2.1	轆轤成形
13	かわらけ	7.7	5.3	1.6	轆轤成形
14	かわらけ	(8.0)	(6.2)	1.9	轆轤成形
15	かわらけ	8.0	6.0	1.6	轆轤成形
16	かわらけ	8.2	6.1	1.6	轆轤成形
17	かわらけ	7.8	5.0	2.1	轆轤成形
18	かわらけ	(7.8)	(5.0)	2.0	轆轤成形
19	かわらけ	12.4	7.6	3.2	轆轤成形
20	かわらけ	(12.2)	8.0	3.0	轆轤成形

21	かわらけ	12.2	8.4	3.2	轆轤成形　外面・内底部に煤付着
22	かわらけ	(11.8)	8.8	3.5	轆轤成形　口縁部に煤付着
23	かわらけ	(18.8)	(8.0)	3.5	轆轤成形
24	かわらけ	12.1	7.1	3.1	轆轤成形
25	かわらけ	12.2	7.0	3.8	轆轤成形
26	かわらけ	(12.4)	(9.0)	3.1	轆轤成形　体部・内底に煤付着
27	かわらけ	12.0			轆轤成形　体部に煤付着
28	かわらけ	(12.0)	(8.0)	3.6	轆轤成形
29	かわらけ	(11.8)	(7.0)	3.2	轆轤成形
30	かわらけ	(11.8)	(6.0)	3.1	手捏ね成形　体部全体に煤付着
31	かわらけ	(13.1)	(8.9)	2.9	轆轤成形
32	かわらけ	7.8	5.6	1.3	轆轤成形　中心に穿孔あり
33	青磁碗	(12.7)			龍泉窯　二次焼成を受けたものか
34	青磁折縁皿				内面劃花文　龍泉窯
35	青磁鎬蓮弁文碗	(15.0)			龍泉窯
36	白磁口兀皿	(9.4)	(6.7)	1.3	
37	鉄製品　刃物	残7.3	幅1.1	厚0.3	
38	鉄製品　掛金具	長6.8	幅1.3	厚0.6	
39	鉄製品　釘	残7.6	幅0.5	厚0.4	
40	鉄製品　釘	長6.4	幅0.7	厚0.5	
41	鉄製品　釘	長10.8	幅0.5	厚0.5	
42	鉄製品　釘	長10.5	幅1.3	厚0.7	
43	漆器　椀				全面黒漆　文様朱漆、手描き
44	漆器　椀				全面黒漆　文様朱漆、スタンプ
45	漆器　椀				全面黒漆　文様朱漆、手描き　46・47と同一個体
46	漆器　椀				
47	漆器　椀				

図45　4面構成土出土遺物2

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		口径	底径	器高	
1	常滑片口鉢(Ⅰ類)				6a型式(13世紀中葉)を下限か
2	常滑片口鉢(Ⅰ類)	21.6	10.4	8.1	6a型式(13世紀中葉)を下限か　内底摩滅顕著
3	常滑片口鉢(Ⅰ類)	30.4	14.4	13.5	6a型式(13世紀中葉)を下限か　内底摩滅顕著
4	常滑片口鉢(Ⅰ類)	(26.0)			6a型式(13世紀中葉)を下限か
5	渥美片口鉢				12世紀末～13世紀初頭

図46　4面構成土出土遺物3

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		口径	底径	器高	
1	常滑　甕				6a型式(13世紀中葉)　2・3と同一個体か
2	常滑　甕				
3	常滑　甕				
4	常滑　甕	(41.6)			最大径(62.8)　5型式(13世紀前葉)
5	硯	残9.2	残6.3	厚1.5	赤間石
6	砥石	残9.0	幅6.5	厚3.5	荒砥　側面2箇所・小口1箇所が残る
7	火鉢				瓦質　口縁部下に貫通しない穿孔あり
8	女瓦				A類　凸面縄目叩き

図47　4面構成土出土遺物4

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		長さ	幅	厚	
1	木製品　曲物	残25.5	残6.4	0.9	底板　側面に穿孔あり
2	木製品	24.8	残3.5	0.4	
3	木製品　草履芯	残20.5	4.6	0.3	
4	木製品　草履芯	残13.7	4.7	0.3	
5	木製品　箸	残20.6	0.6	0.5	
6	木製品　箸	23.6	0.6	0.6	
7	木製品　箸	23.6	0.6	0.6	
8	木製品　箸	24.2	0.6	0.6	
9	木製品　箸	23.4	0.5	0.3	
10	木製品　箸	26.0	0.7	0.6	
11	木製品	31.4	1.1	0.5	串状
12	木製品　箸	18.4	0.5	0.4	
13	木製品　箸	残17.1	0.5	0.5	
14	木製品　箸	残18.9	0.7	0.4	
15	木製品　箸	残18.9	0.7	0.5	
16	木製品　箸	24.8	0.6	0.5	
17	木製品　箸	残22.5	0.6	0.6	
18	木製品　箸	22.5	0.6	0.6	端部焦げ
19	木製品　箸	22.7	0.6	0.4	
20	木製品　箸	23.8	0.6	0.5	
21	木製品　箸	21.1	0.6	0.5	
22	木製品　箸	20.1	0.7	0.5	
23	木製品　箸	残20.1	0.5	0.4	
24	木製品　箸	残18.5	0.6	0.5	
25	木製品　箸	21.7	0.5	0.5	
26	木製品　箸	残19.0	0.5	0.5	
27	木製品　箸	残17.9	0.7	0.3	

28	木製品　箸	残17.8	0.5	0.4	
29	木製品　箸	残17.9	0.5	0.6	
30	木製品　箸	残18.8	0.5	0.5	
31	木製品　箸	残18.5	0.7	0.4	
32	木製品　箸	20.6	0.6	0.5	
33	木製品　箸	残19.5	0.6	0.4	
34	木製品　箸	残20.3	0.7	0.6	
35	木製品　箸か	21.4	1.0	0.3	
36	木製品	22.2	0.5	0.6	棒状　端部焦げ
37	木製品	17.9	0.8	0.4	串状
38	木製品	22.2	0.9	0.9	串状

図49　5面・5面遺構出土遺物

5面

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		口径	底径	器高	
1	かわらけ	(7.8)	(5.6)	1.7	轆轤成形
2	常滑片口鉢(Ⅰ類)	(30.0)			同一個体片と覚しき高台部片あり　13世紀か
柱穴46					
3	かわらけ	(8.2)	(6.8)	3.3	轆轤成形　口縁部に煤付着
4	かわらけ	(11.8)	8.0	3.3	轆轤成形　体部全体に煤付着
5	青磁鎬蓮弁文碗	(15.8)	5.2	6.0	龍泉窯
6	青磁鎬蓮弁文碗	(15.4)			龍泉窯
柱穴47					
7	かわらけ	(8.2)	(6.2)	1.6	轆轤成形
8	かわらけ	(7.8)	(5.8)	1.7	轆轤成形
9	かわらけ	(7.8)	(6.2)	1.6	轆轤成形
柱穴54					
10	かわらけ	13.6	7.4	3.7	轆轤成形
土壙5					
11	かわらけ	(7.8)	(5.2)	1.5	轆轤成形
12	かわらけ	(8.0)	(4.8)	1.8	轆轤成形　口縁部に煤付着
13	かわらけ	(12.8)	(7.6)	3.3	轆轤成形
14	常滑　甕				6a型式(13世紀中葉)　図39-1～3と同一個体か
15	青磁折縁皿		12.1		外面蓮弁文か　龍泉窯
16	木製品	12.0	1.2	1.2	棒状
17	木製品　箸	残16.5	0.6	0.5	
18	木製品　箸	残18.4	0.4	0.3	
19	木製品　箸	20.2	0.7	0.6	
20	木製品	19.5	0.7	0.7	串状
21	木製品	21.2	0.7	0.5	串状
22	木製品　草履芯	23.0	4.5	0.2	
23	木製品　草履芯	23.1	4.7	0.2	

図50　5面構成土・6面出土遺物

5面構成土

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		径	底径	器高	
1	かわらけ	(7.8)	(6.0)	1.4	轆轤成形
2	かわらけ	(7.8)	(6.0)	1.5	轆轤成形
3	かわらけ	(8.0)	(5.8)	1.5	轆轤成形
4	かわらけ	(7.9)	(5.4)	1.7	轆轤成形
5	かわらけ	(8.2)	(6.8)	1.6	轆轤成形
6	かわらけ	(8.0)	(6.4)	1.7	轆轤成形
7	かわらけ	(8.2)	(6.4)	1.8	轆轤成形
8	かわらけ	(8.6)	7.0	1.6	轆轤成形
9	かわらけ	(13.8)	(8.0)	3.0	轆轤成形
10	かわらけ	12.6	8.0	3.2	轆轤成形
11	かわらけ	11.8)	(8.0)	3.3	轆轤成形
12	瓦器質碗	10.8)		(3.1)	捏ね成形　縁黒
13	常滑片口鉢(Ⅰ類)				
14	須恵器　長頸壺	(9.8)			湖西か
15	青磁鎬蓮弁文碗	(16.3)			龍泉窯
16	木製品	残23.4	2.0	1.2	部材か
17	木製品	残11.5	3.0	2.4	
6面					
18	かわらけ	(5.4)	(4.2)	0.9	轆轤成形
19	かわらけ	(12.8)	8.0	3.5	轆轤成形
20	木製品　箸	20.1	0.5	0.4	

図52　6面遺構出土遺物1

柱穴77

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		口径	底径	器高	
1	須恵器　甕				櫛描文
柱穴128					
2	かわらけ	(13.0)		(2.8)	手捏ね成形
柱穴187					
3	かわらけ	(12.2)		(8.2)	手捏ね成形

土壙6

4	かわらけ	(7.8)	(6.6)	1.2	轆轤成形
5	かわらけ	(7.8)	(5.6)	1.4	轆轤成形
6	かわらけ	(8.2)	(6.0)	1.4	轆轤成形
7	かわらけ	(12.8)	(9.2)	2.6	轆轤成形
8	かわらけ	12.6	7.8	3.4	轆轤成形
9	かわらけ	(12.2)	7.8	3.1	轆轤成形
10	かわらけ	(12.8)	(9.8)	2.8	轆轤成形
11	かわらけ	12.6	9.2	3.0	轆轤成形
12	かわらけ	(12.8)	(8.6)	7.8	轆轤成形
13	かわらけ	13.0	7.9	3.2	轆轤成形
14	かわらけ	(17.2)	(8.0)	3.5	轆轤成形
15	瀬戸瓶子(Ⅰ類)		(13.0)		灰釉ハケヌリ　古瀬戸前期(13世紀前葉)か
16	女瓦			厚2.9	A類凸面縄目叩き
17	女瓦			厚2.1	C類凸面格子目叩き

図53　6面遺構出土遺物2
土壙24

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		口径	底径	器高	
1	かわらけ	8.2	6.0	1.5	轆轤成形
2	かわらけ	(13.0)	(9.0)	3.0	轆轤成形
3	かわらけ	(13.2)	9.2	2.6	轆轤成形
4	かわらけ	(13.4)	(11.4)	2.8	轆轤成形
5	渥美片口鉢				12世紀末～13世紀初頭　6と同一個体か
6	渥美片口鉢				12世紀末～13世紀初頭　5と同一個体か
7	常滑片口鉢(Ⅰ類)	(25.6)			5型式(13世紀前葉)か
8	男瓦				凸面に縄目痕あり
9	木製品	径13.5		厚0.1	円盤
10	木製品　荷札	長7.7	幅2.9	厚0.5	
11	木製品　折敷	残17.5	残2.6	厚0.2	
12	木製品　折敷	残27.8	残9.8	厚0.1	

図54　6面構成土出土遺物1

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		口径	底径	器高	
1	かわらけ	(7.8)	(6.0)	1.9	轆轤成形
2	かわらけ	7.8	6.0	1.5	轆轤成形
3	かわらけ	(7.8)	(5.0)	1.8	轆轤成形
4	かわらけ	8.4	5.7	1.6	轆轤成形　口縁部・体部外面に煤付着
5	かわらけ	(7.6)		(1.6)	手捏ね成形
6	かわらけ	(8.8)		1.4	手捏ね成形
7	かわらけ	(8.4)		1.8	手捏ね成形
8	かわらけ	(8.8)		1.8	手捏ね成形
9	かわらけ	(9.4)		2.0	手捏ね成形
10	かわらけ	(8.6)		1.9	手捏ね成形
11	かわらけ	(8.8)		1.8	手捏ね成形
12	かわらけ	(9.8)		1.8	手捏ね成形
13	かわらけ	(10.0)		1.8	手捏ね成形
14	かわらけ	(10.8)		2.4	手捏ね成形
15	かわらけ	12.6		3.7	手捏ね成形
16	かわらけ	(13.2)		3.0	手捏ね成形
17	かわらけ	(13.6)		3.0	手捏ね成形
18	かわらけ	(13.0)		2.7	手捏ね成形
19	磨りかわらけ	長3.0	幅3.2	厚1.6	かわらけの体部片を研磨したもの
20	磨りかわらけ	長5.4	幅5.1	厚0.7	かわらけの底部片を加工したもの
21	青白磁合子(蓋)	(5.7)		1.7	型作り　景徳鎮窯
22	白磁口兀皿	(14.1)			
23	灰釉陶器　坏	(12.8)			
24	須恵器　甕				
25	須恵器　甕				
26	須恵器　甕				
27	漆器　蓋	5.0		1.0	全面黒漆
28	木簡	32.5	2.8	0.5	判読不明

図55　6面構成土出土遺物2

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
1	宇瓦				G類　唐草文　内区に連珠文が巡る　図46-2と同文か
2	宇瓦				G類　唐草文　内区に連珠文が巡る
3	女瓦			厚2.4	B類　凸面細かな斜格子目叩き
4	女瓦			厚2.0	C類　凸面斜格子目叩き
5	女瓦			厚2.1	A類　凸面縄目叩き
6	女瓦			厚2.5	A類　凸面縄目叩き
7	女瓦			厚2.2	A類　凸面縄目叩き
8	男瓦			残厚2.1	A類
9	男瓦			厚2.2	A類
10	男瓦			厚2.4	A類　凸面縄目叩き

図57　7面出土遺物

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		口径	底径	器高	
1	かわらけ	8.1	6.0	1.6	轆轤成形
2	かわらけ	(8.8)	(7.2)	1.8	轆轤成形　口縁部に煤付着
3	かわらけ	12.8	8.8	3.0	轆轤成形
4	かわらけ	(10.0)		1.9	手捏ね成形
5	かわらけ	(12.8)		3.0	手捏ね成形
6	須恵器　甕				
7	常滑　甕	(44.8)	18.6	56.2	5型式(13世紀前葉)
8	木製品　杓文字	残20.5	幅3.9	0.5	
9	木製品	残14.0	幅3.2	0.2	
10	木製品　櫛		3.9	0.9	
11	女瓦				A類　縄目叩き
12	女瓦			厚2.2	A類　縄目叩き

図58　7面遺構出土遺物
溝13

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		口径	底径	器高	
1	かわらけ	(8.2)		1.5	手捏ね成形
2	かわらけ	(12.2)		2.8	手捏ね成形
3	かわらけ	8.9		1.7	手捏ね成形
4	かわらけ	(8.8)		1.7	手捏ね成形
5	かわらけ	(8.4)		1.4	手捏ね成形
6	かわらけ	13.8		3.5	手捏ね成形
7	鉄製品　釘	残6.2	幅0.7	厚0.5	

図59　7面構成土出土遺物1

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		口径	底径	器高	
1	かわらけ	(8.4)		1.7	手捏ね成形
2	かわらけ	(8.8)		1.8	手捏ね成形
3	かわらけ	9.0		1.9	手捏ね成形　全体に煤付着
4	かわらけ	9.2		2.3	手捏ね成形　口縁部・体部に煤付着
5	かわらけ	(9.8)		1.7	手捏ね成形
6	かわらけ	(9.6)		1.9	手捏ね成形
7	かわらけ	(10.0)		1.9	手捏ね成形
8	かわらけ	(12.0)		3.3	手捏ね成形
9	かわらけ	(13.8)		3.0	手捏ね成形
10	かわらけ	(12.8)		3.3	手捏ね成形
11	かわらけ	(9.0)	(7.0)	1.9	轆轤成形
12	かわらけ	(8.6)	(7.6)	1.8	轆轤成形　二次焼成を受ける
13	かわらけ	(9.4)	(7.0)	1.8	轆轤成形
14	かわらけ	(11.6)	(8.2)	3.0	轆轤成形
15	白磁四耳壺				最大径(21.4)
16	青磁劃花文碗				龍泉窯
17	宇瓦				G類　唐草文か　内区に連珠文が巡る
18	宇瓦				G類　唐草文　内区に連珠文が巡る
19	鐙瓦				A類　瓦当剥離
20	鐙瓦				D類　巴文
21	鐙瓦				A類　瓦当剥離

図60　7面構成土出土遺物2

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
1	男瓦	厚2.0			A類　凸面縄目叩き
2	男瓦	厚2.3			A類　凸面縄目叩き
3	女瓦	厚2.3			A類　凸面縄目叩き
4	女瓦	厚2.4			A類　凸面縄目叩き
5	女瓦	厚2.2			A類　凸面縄目叩き
6	女瓦	厚2.2			A類　凸面縄目叩き
7	女瓦	厚1.6			A類　凸面縄目叩き
8	女瓦	厚2.3			A類　凸面縄目叩き

図62　8面・8面遺構出土遺物
8面　溝14

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		口径	底径	器高	
1	かわらけ	(8.6)		1.8	手捏ね成形
2	かわらけ	9.2		1.8	手捏ね成形
3	かわらけ	(9.0)		1.8	手捏ね成形
4	かわらけ	(8.9)		1.8	手捏ね成形
5	かわらけ	9.1		1.7	手捏ね成形
6	かわらけ	13.8		3.0	手捏ね成形
7	かわらけ	(14.4)		3.5	手捏ね成形
8	かわらけ				手捏ね成形　とりべ状
9	かわらけ				手捏ね成形　とりべ状
10	宇瓦				G類　唐草文　図46-2と同笵
11	鐙瓦				G類　巴文
12	鐙瓦				A類　瓦当剥離　凸面縄目叩き

13	女瓦			厚2.3	A類 凸面縄目叩き
14	女瓦			厚2.5	A類 凸面縄目叩き
15	鉄製品　釘	長8.0	幅0.3	厚0.3	
16	木製品	長6.0	幅2.5	厚0.2	円盤
17	漆器　櫛		幅2.2	厚0.6	
18	かわらけ	(9.0)		1.4	手捏ね成形
19	かわらけ	(9.8)		1.5	手捏ね成形
20	かわらけ	(9.4)	(8.0)	2.0	轆轤成形
21	須恵器　坏	(7.6)	(4.0)	2.0	

図63　8面構成土・9面出土遺物
8面構成土 9面

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		口径	底径	器高	
1	かわらけ	(9.0)		1.5	手捏ね成形
2	かわらけ	(9.4)		1.7	手捏ね成形
3	かわらけ	(9.8)		1.8	手捏ね成形　口縁部に煤付着
4	かわらけ	(12.8)		2.8	手捏ね成形
5	かわらけ	(13.8)		3.0	手捏ね成形
6	かわらけ	7.2	5.4	1.4	轆轤成形
7	かわらけ	(12.8)	(8.0)	3.4	轆轤成形　外体部に煤付着
8	常滑片口鉢(Ⅰ類)				5型式(13世紀前葉)か
9	緑釉盤				
10	漆器　椀	(7.4)			全面黒漆
11	鐙瓦				G類 瓦当剥離　12と同一個体か
12	鐙瓦				G類 巴文
13	男瓦				A類 凸面縄目叩き
14	女瓦				A類 凸面縄目叩き
15	鉄製品　釘	長9.9	幅0.9	厚0.5	
16	かわらけ	(12.0)			手捏ね成形
17	土師器　甕	(12.0)			
18	灰釉陶器　壺				櫛掻文

図66　9面構成土・10面・地山面出土遺物
9面構成土 10面・地山面

図番号	遺物名	法量(cm)			備考
		口径	底径	器高	
1	かわらけ	(8.2)		1.9	手捏ね成形
2	かわらけ	(8.8)		1.6	手捏ね成形
3	かわらけ	(8.8)		1.9	手捏ね成形
4	かわらけ	8.8	6.8	1.9	轆轤成形
5	かわらけ	9.4	6.6	1.9	轆轤成形
6	女瓦		2.2		A類 凸面縄目叩き
7	灰釉陶器　段皿				
8	須恵器　鉢				
9	須恵器　蓋				
10	土師器　甕	(21.8)			
11	土師器　甕	(23.4)			
12	土師器　長甕				
13	土師器　長甕				
14	土師器　長甕				
15	土師器　甕か		(6.4)		

附編　大倉幕府跡の花粉化石

鈴木　茂(パレオ・ラボ)

１．はじめに

大倉幕府跡(鎌倉市雪ノ下三丁目704番3外)において行われた発掘調査で、掘立柱建物跡やかわらけ、漆器の椀や皿、中国の青磁等が出土している。この発掘調査において、当時の植生を検討する目的で調査区壁面より土壌試料が採取された。以下に、採取された土壌試料について行った花粉分析の結果を示し、大倉幕府周辺の古植生について検討した。

２．試料と分析方法

試料は調査区壁面より採取された７点である。以下に各試料について簡単に記す。

試料１(４層・２面)は灰褐色粘土で、最上部には材片が散在しており、中・下部では炭片が多く認められる。その上位は土丹層で、最下部に灰色砂がレンズ状に認められる。また下位も土丹層である。試料２(４層・２面)は灰褐色砂質粘土で、土丹片や貝片が点在しており、材片も認められる。試料２の下位は土丹層(３面)で、基質は黒灰色粘土(試料３)である。試料４は黒灰色の砂質粘土で、土丹層がレンズ状に認められる。試料５(９層・４面)は暗褐色の砂質土で、貝小片が散在している。土丹層を挟んで下位の試料６(10層上半部)は黒褐色の砂質粘土である。最下部は基質が黒灰色の砂質粘土～粘土質砂(試料７)の土丹層(11層・５面)である。これら７試料について以下のような手順にしたがって花粉分析を行った。

試料(湿重約５～７ｇ)を遠沈管にとり、10%の水酸化カリウム溶液を加え20分間湯煎する。水洗後、0.5㎜目の篩にて植物遺体などを取り除き、傾斜法を用いて粗粒砂分を除去する。次に46%のフッ化水素酸溶液を加え20分間放置する。水洗後、比重分離(比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離)を行い、浮遊物を回収し、水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続けてアセトリシス処理(無水酢酸９：１濃硫酸の割合の混酸を加え３分間湯煎)を行う。水洗後、残渣にグリセリンを加え保存用とする。検鏡はこの残渣より適宜プレパラートを作成して行い、その際サフラニンにて染色を施した。

３．分析結果

検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉40、草本花粉30、形態分類を含むシダ植物胞子３の総計73である。これら花粉・シダ植物胞子の一覧を表１に、その分布を図１に示した。なお、分布図の樹木花粉は樹木花粉総数を、シダ植物胞子は全花粉・胞子総数を基数とした百分率で示してある。また、表および図においてハイフンで結んだ分類群はそれら分類群間の区別が困難なものを示しており、クワ科、バラ科、マメ科の花粉には樹木起源と草本起源のものとがあるが、各々に分けることが困難なため便宜的に草本花粉に一括していれてある。

検鏡の結果、樹木花粉の占める割合に層位的変化が認められたことから、下位より花粉化石群集帯Ⅰ、Ⅱを設定し、その特徴について示す。

花粉帯Ⅰ(試料６，７)は樹木花粉の占める割合が比較的高いことで特徴づけられる。その樹木花粉ではマツ属複維管束亜属(アカマツ，クロマツなどのいわゆるニヨウマツ類)が最も多く、マツ属(不明)を加えると60～80%を占めている。次いで多く得られているのはスギであるが、出現率は10%前後である。その他、モミ属、ツガ属、コナラ属アカガシ亜属が5%弱得られている。草本類ではイネ科が最も多く、出現率は27%前後を示している。その他ではアカザ科－ヒユ科が10%前後を示しており、ヨモギ属も試料7では10%を越えている。

花粉帯Ⅱ(試料１～５)は、草本花粉の占める割合が80%前後と高くなることで特徴づけられ、樹木花粉は10%強に減少している。その樹木花粉ではやはりニヨウマツ類が最も多く、出現率は20～40%を示している。スギは花粉帯Ⅰと同様に10%前後の出現率を示している。コナラ属コナラ亜属とアカガシ亜属も10%

前後を示しており、花粉帯Ⅰに比べ増加している。同様の傾向がツガ属、ハンノキ属、シイノキ属－マテバシイ属にも認められる。草本類ではイネ科が最も多く、出現率は60%前後に達している。次いで全試料10%強を示しているヨモギ属が多く、アカザ科－ヒユ科やアブラナ科も低率ながら全試料１%以上を示している。その他では試料２よりソバ属が１個体得られており、同試料から水生植物のオモダカ属(抽水植物)が、また試料1からサジオオダカ属(抽水植物)がそれぞれ1個体観察されている。なお、試料５については得られた樹木花粉数が少なかったことから分布図として示すことができなかったが、その中でも草本花粉の占める割合が高かったことから花粉帯Ⅱに含めた。

４．遺跡周辺の古植生

時期については出土遺物等から、試料１，２が13世紀末～14世紀初頭から14世紀後半、試料３が13世紀末～14世紀初頭、試料４～６が13世紀後半代、試料７が13世紀中葉～後半頃と考えられている。以下に、設定された花粉帯を基に大倉幕府跡周辺の古植生について検討した。

花粉帯Ⅰ期(試料６，７)：時期は13世紀の中葉～後半と推測される。ニヨウマツ類が多く検出されており、これにマツ属不明(保存状態が悪く、ニヨウマツ類かゴヨウマツ類かの区別がつかなかったもの)を加えると、マツ属の出現率は70%前後に達することになる。こうしたことから、この時期の大倉幕府跡周辺丘陵部では大半がニヨウマツ類と推測されるマツ属の二次林が広く形成されていたとみられる。これについて、鎌倉市内で行われた花粉分析結果から、13世紀中頃を境にスギ林や照葉樹林からニヨウマツ類の二次林への交代が認められてきており(鈴木，1999)、ここ大倉幕府跡周辺においても同様の植生変化が示されているものと思われる。丘陵部ではその他、スギ林やアカガシ亜属を中心とした照葉樹林も一部に成立していたと推測され、また、針葉樹のモミ属やツガ属、落葉広葉樹のコナラ亜属、クマシデ属－アサダ属、ニレ属－ケヤキ属なども生育していたとみられる。一方低地部ではイネ科、アカザ科－ヒユ科、ヨモギ属などの雑草類が多く生育していたと推測される。

花粉帯Ⅱ期(試料１～５)：時期は13世紀後半～14世紀後半と推測される。この時期も大倉幕府跡周辺丘陵部ではコナラ亜属を含めたニヨウマツ類の二次林が成立しており、その他、スギ林や照葉樹林、落葉広葉樹林なども一部に形成されていたとみられる。しかしながらこれら樹木花粉の占める割合が花粉帯Ⅰと比べると低くなっていることから、疎林状態になった可能性が推察される。

草本類についてみるとイネ科の多産が特徴的であり、現在の鎌倉周辺丘陵部に広く認められるアズマネザサをはじめとして、その他イネ科植物の雑草類が多く生育していたと推測される。また、水田雑草を含む分類群であるオモダカ属が試料2より検出されていることから、遺跡周辺の水田域よりイネの花粉も供給されていることも考えられよう。また、同試料よりソバ属も検出されており、遺跡周辺においてソバも栽培されていた可能性も推察される。

ヨモギ属がやや多く検出され、その他、アカザ科－ヒユ科、アブラナ科、オオバコ属、タンポポ亜科などが多くの試料で観察されており、これら雑草群落が遺跡周辺に形成されていたとみられる。

引用文献

鈴木　茂(1999)神奈川県鎌倉市における鎌倉時代の森林破壊. 国立歴史民俗博物館研究報告 81, 131-139.

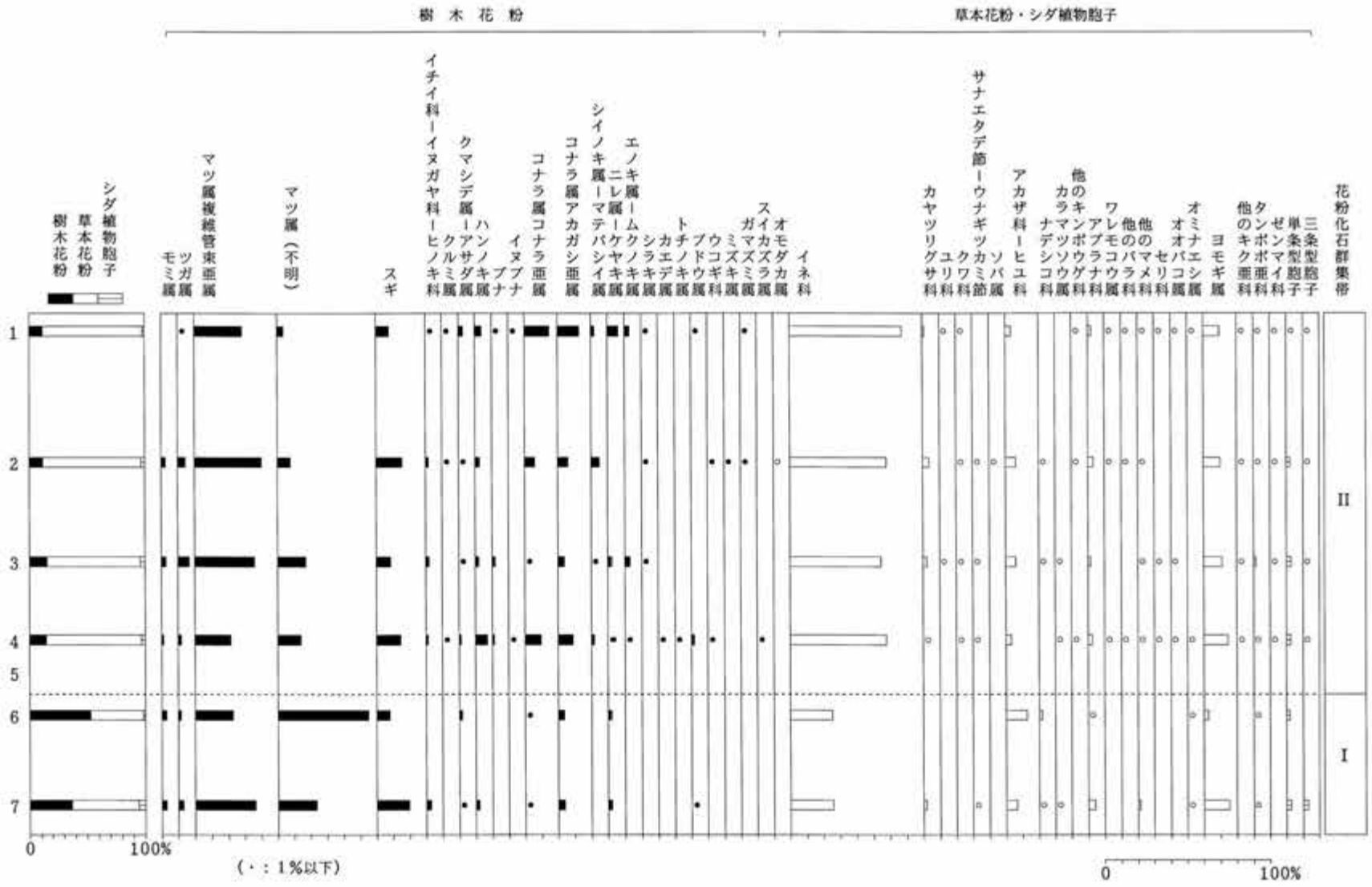


図 67 大倉幕府跡の主要花粉化石分布図

（樹木花粉は樹木花粉総数、草本花粉・胞子は花粉・胞子総数を基数として百分率で算出した）

表2　産出花粉化石一覧表

和名	学名	1	2	3	4	5	6	7
樹木								
マキ属	*Podocarpus*	-	-	1	1	-	-	-
モミ属	*Abies*	-	3	3	2	1	3	3
ツガ属	*Tsuga*	1	5	7	3	-	2	3
トウヒ属	*Picea*	-	2	2	2	-	1	-
マツ属単維管束亜属	*Pinus* subgen. *Haploxylon*	-	-	-	1	-	-	-
マツ属複維管束亜属	*Pinus* subgen. *Diploxylon*	29	46	38	34	8	26	39
マツ属（不明）	*Pinus* (Unknown)	4	9	18	22	6	62	25
コウヤマキ属	*Sciadopitys*	-	-	1	1	-	-	-
スギ	*Cryptomeria japonica* D. Don	8	18	9	23	3	9	21
イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科	T.- C.	1	2	2	2	-	-	3
ヤマモモ属	*Myrica*	-	-	1	1	-	-	-
クルミ属	*Juglans*	1	1	-	1	-	-	-
クマシデ属－アサダ属	*Carpinus* - *Ostrya*	3	1	1	2	1	2	1
カバノキ属	*Betula*	4	-	3	2	-	-	1
ハンノキ属	*Alnus*	4	3	3	11	-	-	2
ブナ	*Fagus crenata* Blume	1	-	2	2	-	-	-
イヌブナ	*Fagus japonica* Maxim.	1	-	-	1	-	-	-
コナラ属コナラ亜属	*Quercus* subgen. *Lepidobalanus*	15	7	1	15	2	1	1
コナラ属アカガシ亜属	*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*	13	7	4	14	-	4	4
クリ属	*Castanea*	-	-	-	3	-	-	-
シイノキ属－マテバシイ属	*Castanopsis* - *Pasania*	2	6	1	3	-	-	-
ニレ属－ケヤキ属	*Ulmus* - *Zelkova*	6	-	2	1	1	2	2
エノキ属－ムクノキ属	*Celtis-Aphananthe*	3	-	3	1	-	-	-
トサミズキ属近似種	cf. *Corylopsis*	-	-	2	-	-	-	-
フウ属	*Liquidamber*	1	-	-	1	1	1	-
キハダ属	*Phellodendron*	-	-	-	-	-	-	1
シラキ属	*Sapium*	1	1	1	-	-	-	-
ウルシ属	*Rhus*	-	-	-	-	1	-	-
モチノキ属	*Ilex*	-	-	1	-	-	-	-
ニシキギ科	Celastraceae	-	-	-	1	-	-	-
カエデ属	*Acer*	-	-	-	1	1	-	-
トチノキ属	*Aesculus*	-	-	-	1	-	-	-
ブドウ属	*Vitis*	1	-	-	3	-	-	1
サカキ属－ヒサカキ属近似種	cf. *Cleyera-Eurya*	1	-	-	-	-	-	-
グミ属	*Elaeagnus*	-	-	-	1	-	-	-
ウコギ科	Araliaceae	-	1	-	1	-	-	-
ミズキ属	*Cornus*	-	1	-	-	-	-	-
ガマズミ属	*Viburnum*	1	1	-	-	-	-	-
スイカズラ属	*Lonicera*	-	-	-	1	-	-	-
草本								
サジオモダカ属	*Alisma*	1	-	-	-	-	-	-
オモダカ属	*Sagittaria*	-	1	-	-	-	-	-
イネ科	Gramineae	586	573	379	629	32	54	76
カヤツリグサ科	Cyperaceae	9	37	15	2	4	-	5
ツユクサ属	*Commelina*	-	-	-	-	-	1	-
ユリ科	Liliaceae	3	-	1	-	-	-	-
クワ科	Moraceae	7	3	3	4	3	-	-
サナエタデ節－ウナギツカミ節	*Polygonum* sect. Persicaria-Echinocaulon	-	1	4	2	-	-	1
イタドリ節	*Polygonum* sect. Reynoutria	-	1	-	-	-	1	-
他のタデ属	other Polygonum	2	2	-	-	-	-	-
ソバ属	*Fagopyrum*	-	1	-	-	-	-	-
アカザ科－ヒユ科	Chenopodiaceae - Amaranthaceae	28	62	42	37	59	27	19
ナデシコ科	Caryophyllaceae	-	2	5	-	-	4	2
カラマツソウ属	*Thalictrum*	-	-	5	1	-	-	1
他のキンポウゲ科	other Ranunculaceae	5	2	-	1	-	-	-
アブラナ科	Cruciferae	17	33	11	29	2	2	12
ワレモコウ属	*Sanguisorba*	1	1	-	1	-	-	-
他のバラ科	other Rosaceae	2	1	-	1	-	-	-
ノアズキ属	*Dunbaria*	-	-	-	1	-	-	-
他のマメ科	other Leguminosae	2	3	1	2	-	-	4
ツリフネソウ属	*Impatiens*	-	-	1	-	-	-	-
アリノトウグサ属	*Haloragis*	-	-	-	-	-	-	1
セリ科	Umbelliferae	1	-	1	2	-	-	-
シソ科	Labiatae	-	-	-	1	-	-	-
オオバコ属	*Plantago*	1	-	1	1	-	-	-
ヘクソカズラ属	*Paederia*	-	-	-	1	-	-	-
オミナエシ属	*Patrinia*	1	-	-	4	-	1	1
ヨモギ属	*Artemisia*	84	99	76	160	3	6	45
他のキク亜科	other Tubuliflorae	2	9	5	7	1	-	-
タンポポ亜科	Liguliflorae	2	8	9	8	4	1	2
シダ植物								
ゼンマイ科	Osmundaceae	1	1	2	2	-	-	-
単条型胞子	Monolete spore	8	23	19	27	7	4	8
三条型胞子	Trilete spore	5	8	5	5	9	-	9
樹木花粉	Arboreal pollen	101	114	105	157	25	113	107
草本花粉	Nonarboreal pollen	754	839	559	894	108	97	169
シダ植物胞子	Spores	14	32	26	34	16	4	17
花粉・胞子総数	Total Pollen & Spores	869	985	690	1085	149	214	293
不明花粉	Unknown pollen	15	14	5	15	2	25	16

T．－C．はTaxaceae-Cephalotaxaceae-Cupresaceaeを示す

図版１

1. Ⅰ区1面全景（東から）

2. Ⅰ区1面溝1（東から）

3. Ⅱ区1面（東から）

4. Ⅱ区2面かわらけ出土状況

5. Ⅰ区2面全景（東から）

6. Ⅱ区2面全景（東から）

１面・２面の遺構

1. Ⅰ区3面全景（東から）

2. Ⅱ区3面全景（東から）

3. Ⅰ区3面溝状遺構1（東から）

5. Ⅰ区3面漆器出土状況

6. Ⅰ区3面漆器出土状況

4. Ⅰ区3面全景（北から）

7. Ⅱ区3面柱穴 136

３面の遺構

図版３

1. Ⅰ区4面全景（東から）

2. Ⅱ区4面全景（東から）

3. Ⅱ区4面板壁建物内出土捏鉢

4. Ⅱ区4面板壁建物（南から）

5. Ⅱ区4面土壙 20 出土漆器

6. Ⅱ区４面板壁建物（東から）

４面の遺構

1. Ⅰ区5面全景（東から）

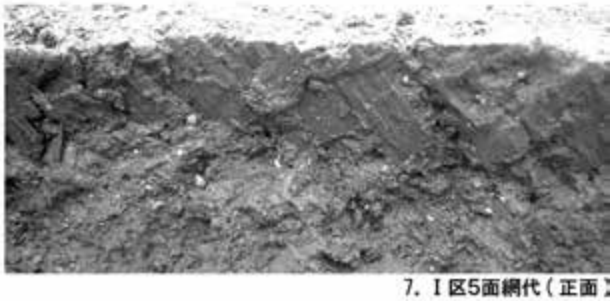
2. Ⅱ区5面全景（東から）

3. Ⅰ区5面溝状2（東から）

5. Ⅱ区5面溝 10（東から）

6. Ⅰ区5面柱穴 59・60・6

4. Ⅰ区5面網代（溝状2内）



7. Ⅰ区5面網代（正面）

５面の遺構

図版５

1. Ⅰ区6面全景（東から）

2. Ⅱ区6面全景（東から）

3. Ⅰ区7・8面（東から）

4. Ⅱ区6面土壙 24（南から）

5. Ⅱ区7面溝 13（東から）

6. Ⅱ区7面全景（東から）

６面・７面の遺構

1. Ⅱ区8面溝 14(南から)

2. Ⅱ区8面全景(東から)

3. Ⅱ区8面礎石

4. Ⅱ区9面(東から)

5. Ⅰ区最終面(南から)

6. Ⅰ区最終面(東から)

８面・９面・最終面の遺構

図版７

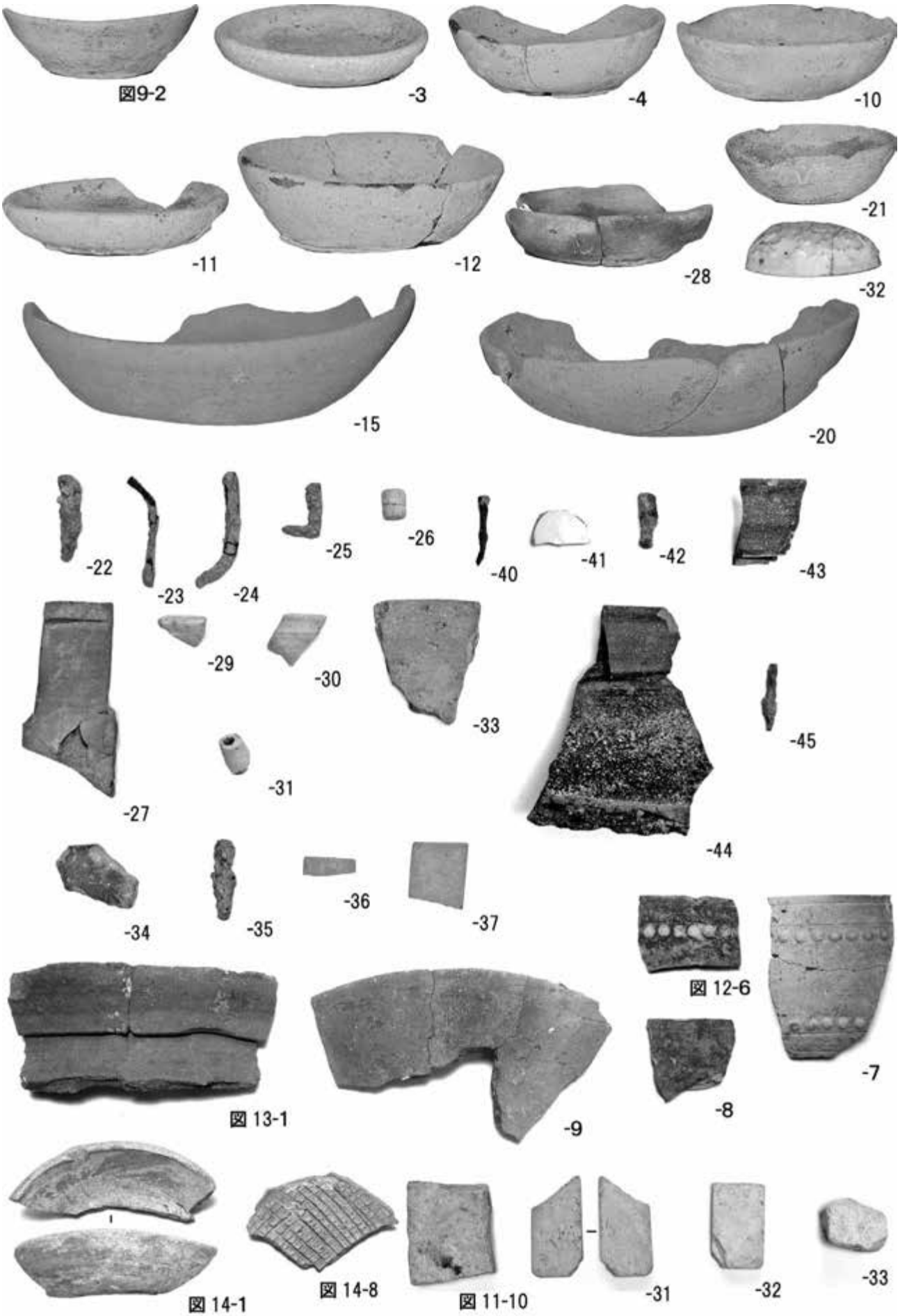


図9-2
-3
-4
-10
-11
-12
-21
-28
-32
-15
-20
-22
-23
-24
-25
-26
-40
-41
-42
-43
-29
-30
-33
-45
-31
-27
-44
-34
-35
-36
-37
図 12-6
-7
図 13-1
-9
-8
図 14-1
図 14-8
図 11-10
-31
-32
-33

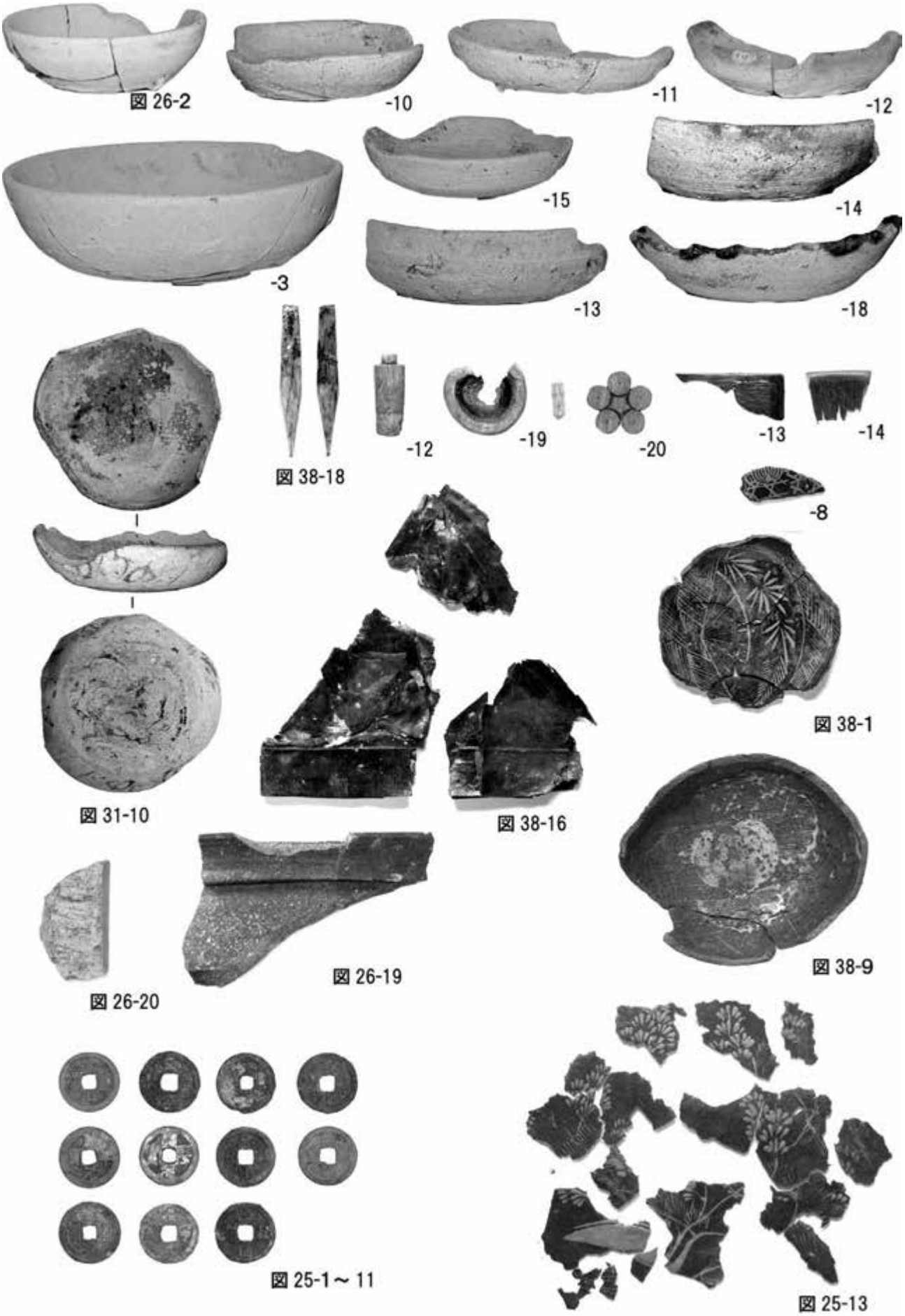


図 26-2
-10
-11
-12
-3
-15
-14
-13
-18
-12
-19
-20
-13
-14
図 38-18
-8
図 38-1
図 31-10
図 38-16
図 26-19
図 38-9
図 26-20
図 25-1～11
図 25-13

図版９

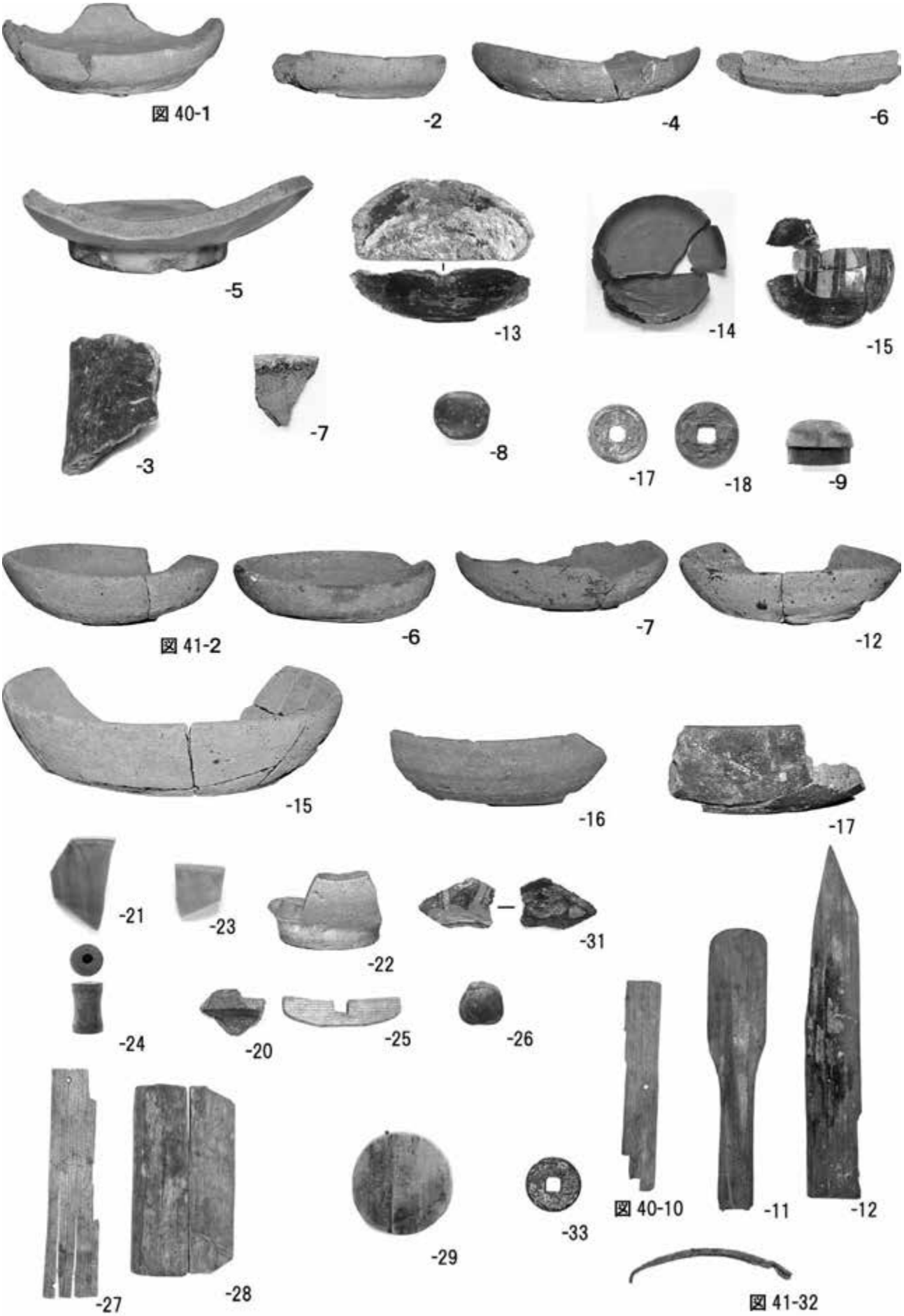


図 40-1
-2
-4
-6
-5
-13
-14
-15
-3
-7
-8
-17
-18
-9
図 41-2
-6
-7
-12
-15
-16
-17
-21
-23
-22
-31
-24
-20
-25
-26
-27
-28
-29
-33
図 40-10
-11
-12
図 41-32

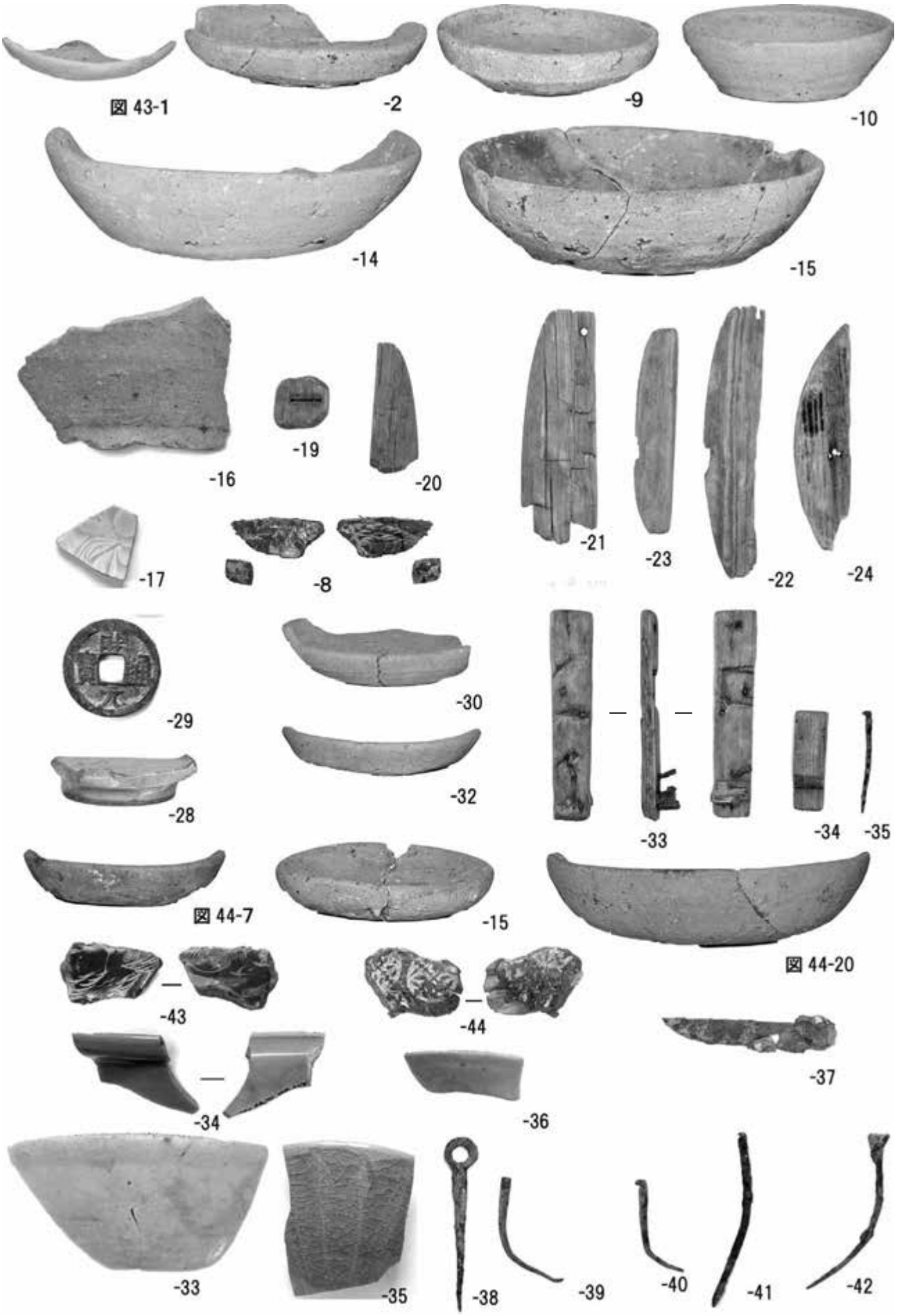


図 43-1
-2
-9
-10
-14
-15
-16
-19
-20
-21
-23
-22
-24
-17
-8
-29
-30
-28
-32
-33
-34
-35
図 44-7
-15
図 44-20
-43
-44
-37
-34
-36
-33
-35
-38
-39
-40
-41
-42

図版11

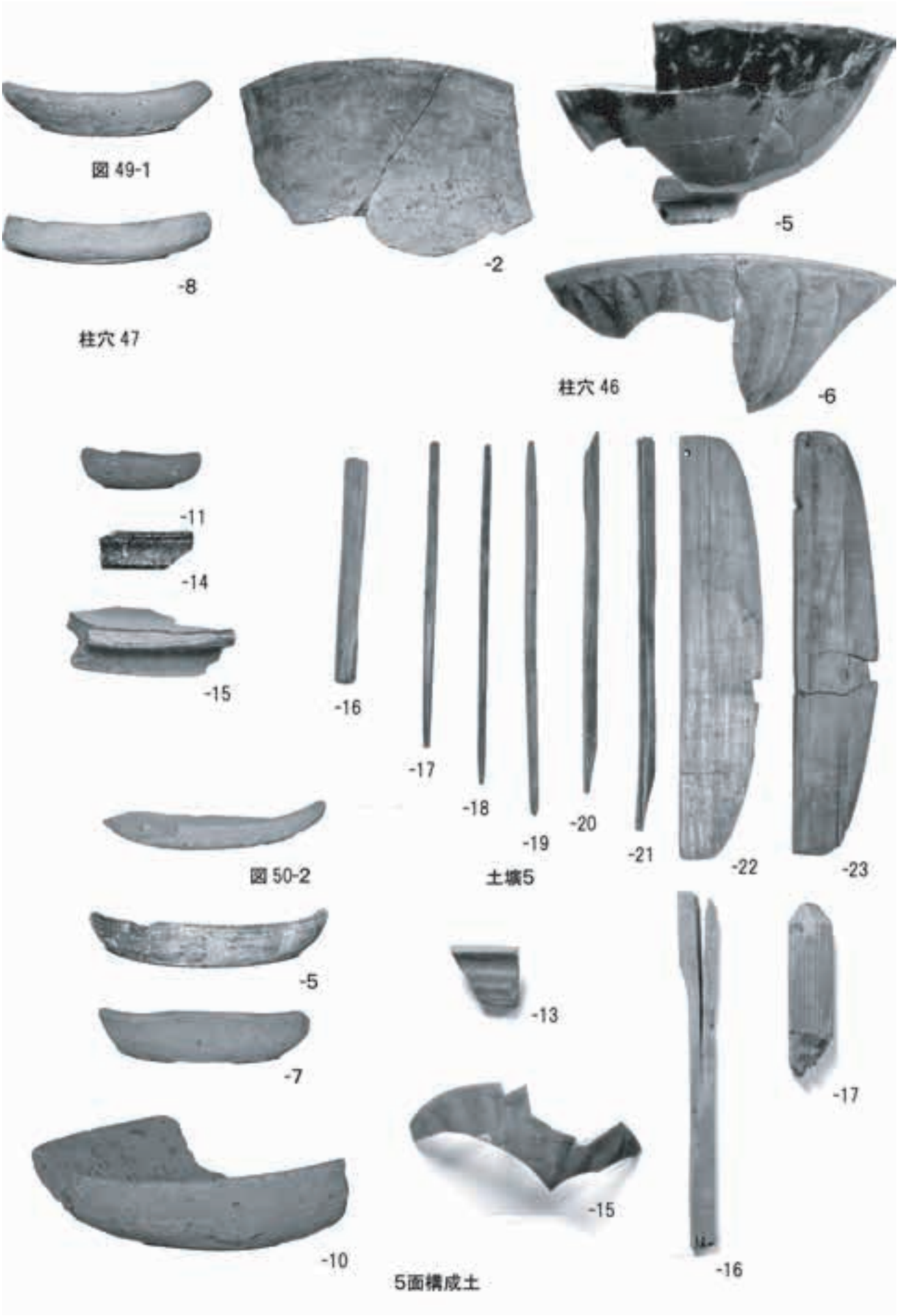


図 49-1
-8
柱穴 47
-2
-5
柱穴 46
-6
-11
-14
-15
-16
-17
-18
-19
-20
-21
-22
-23
図 50-2
土壙5
-5
-7
-10
-13
-15
-16
-17
5面構成土

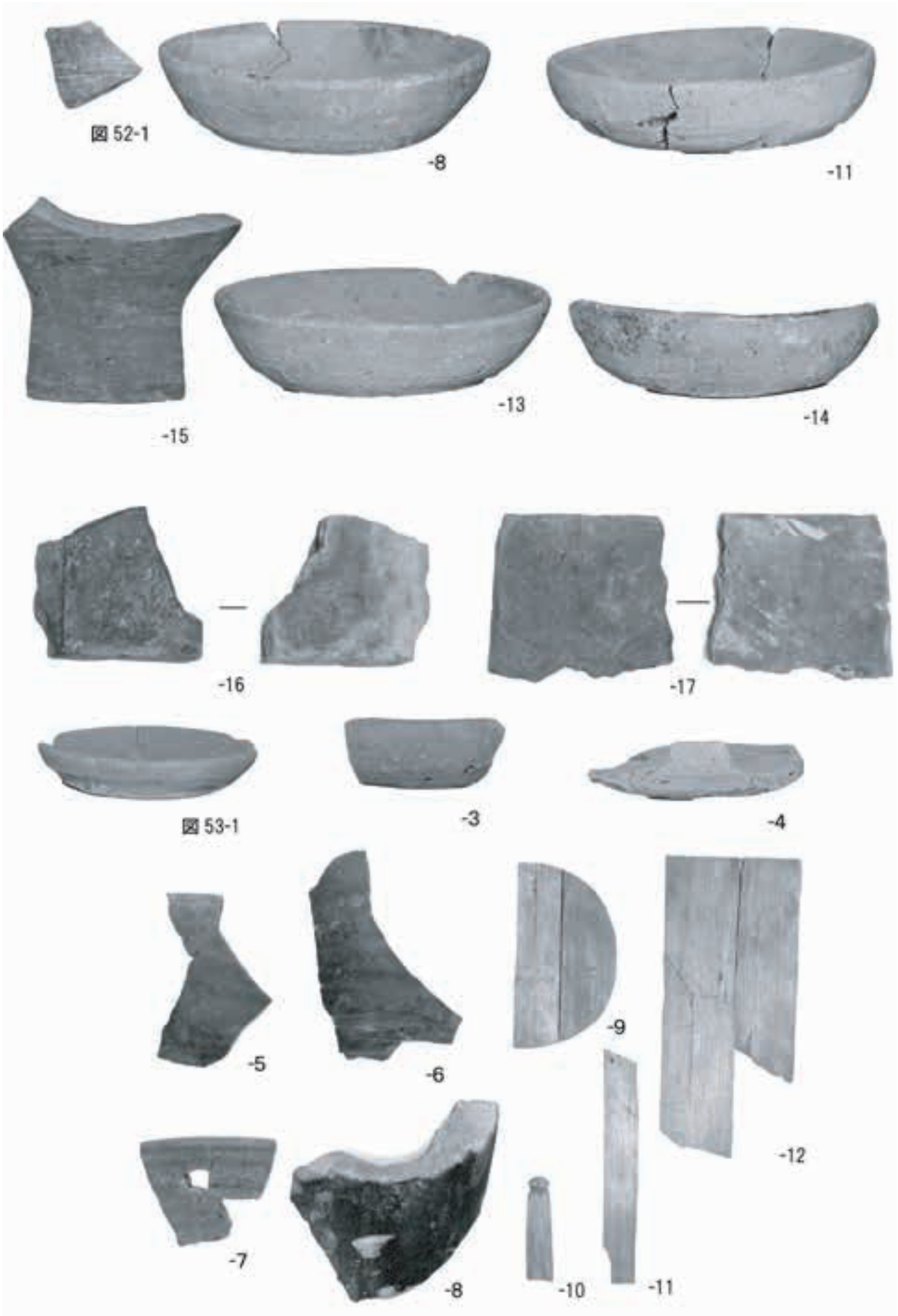


図52-1
-8
-11
-15
-13
-14
-16
-17
図53-1
-3
-4
-5
-6
-9
-12
-7
-8
-10
-11

図版13

図 54-1
-4
-12
-19
-20
-21
-22
-27
-25
-26
図 55-1
-2
-3
-3
-4
-5
図 58-1
-2
-6
図 54-28
図 57-1
-4
-3
-5
-10
-6
-9
-11
-12
-7
-8
0
30cm

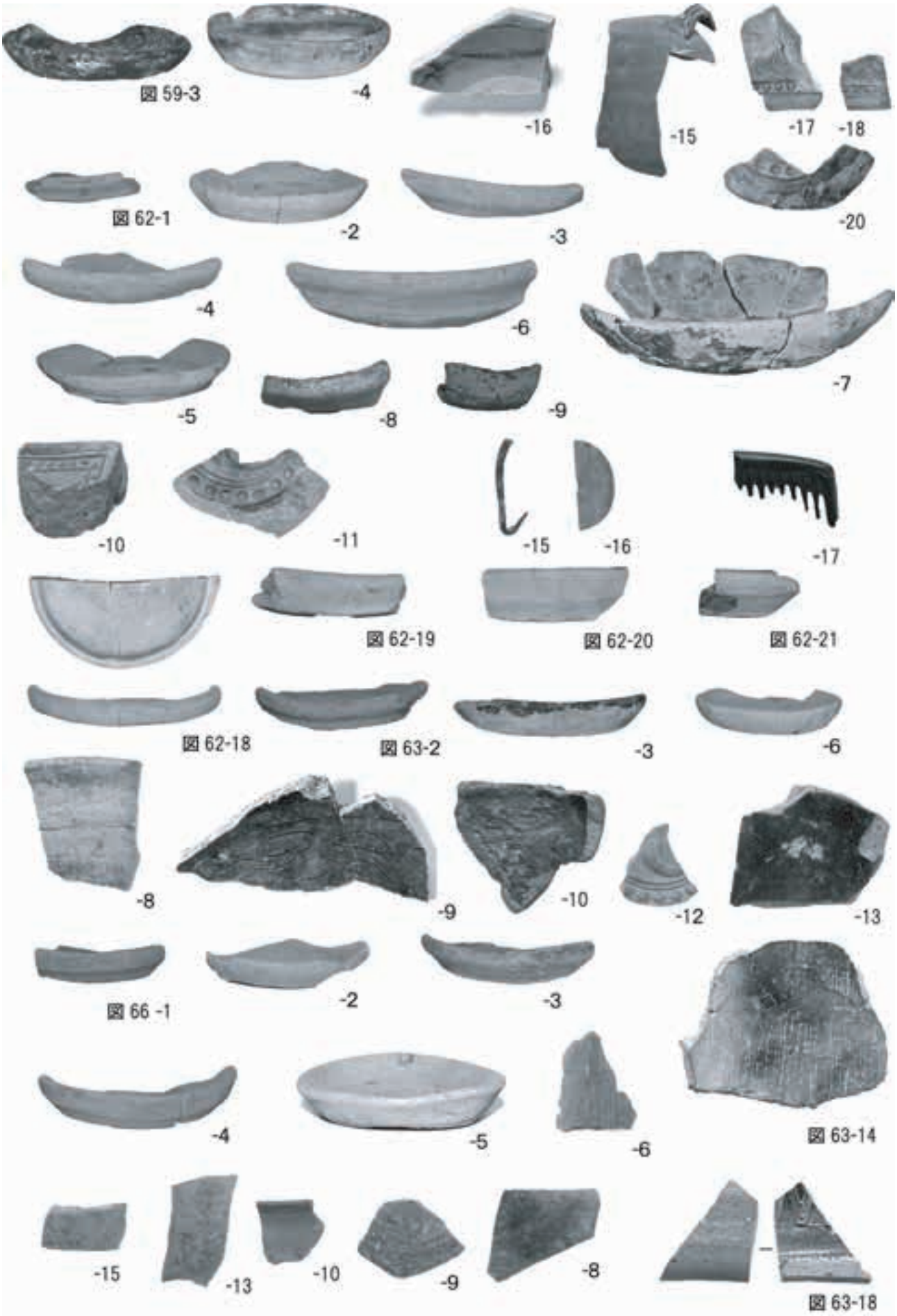
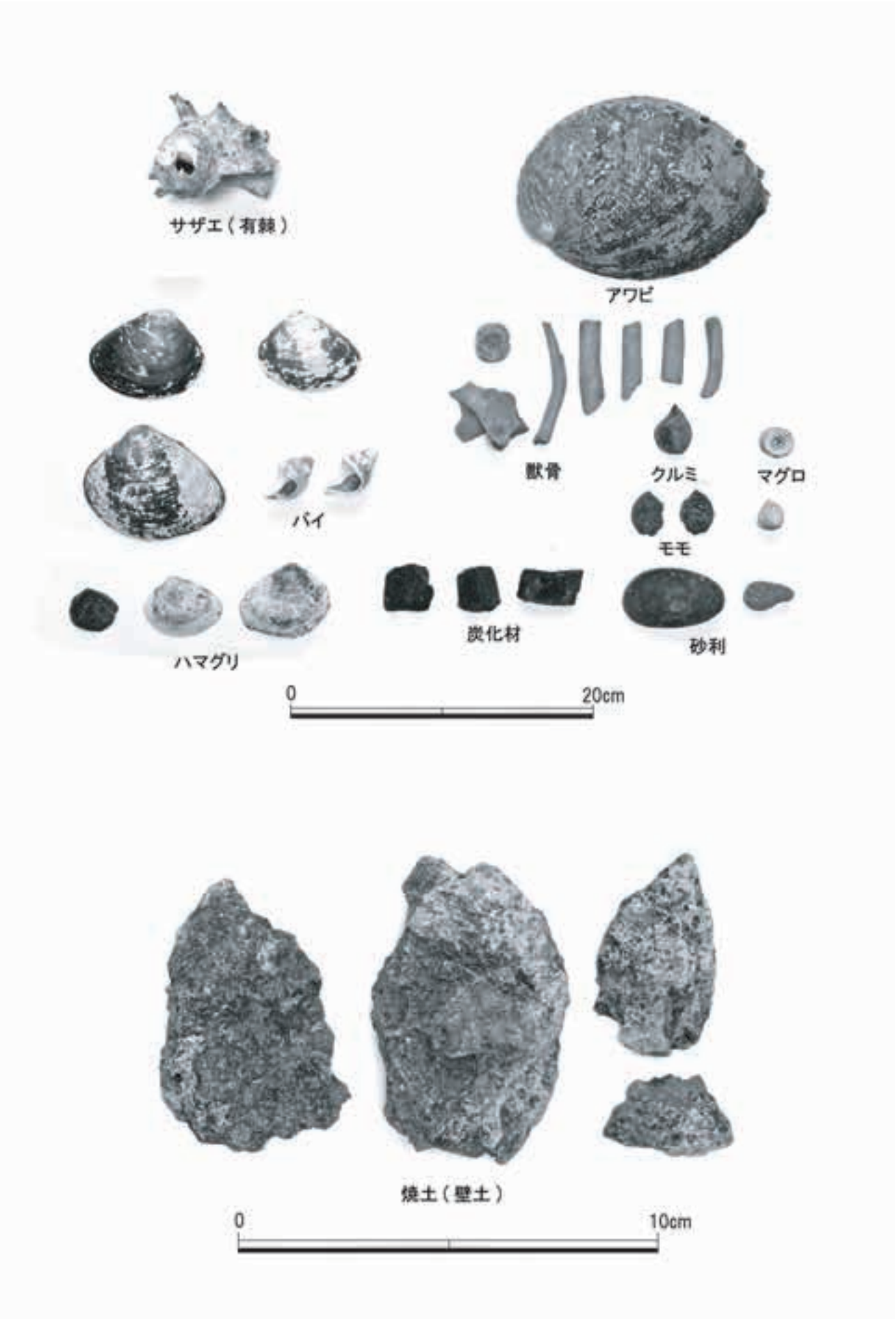
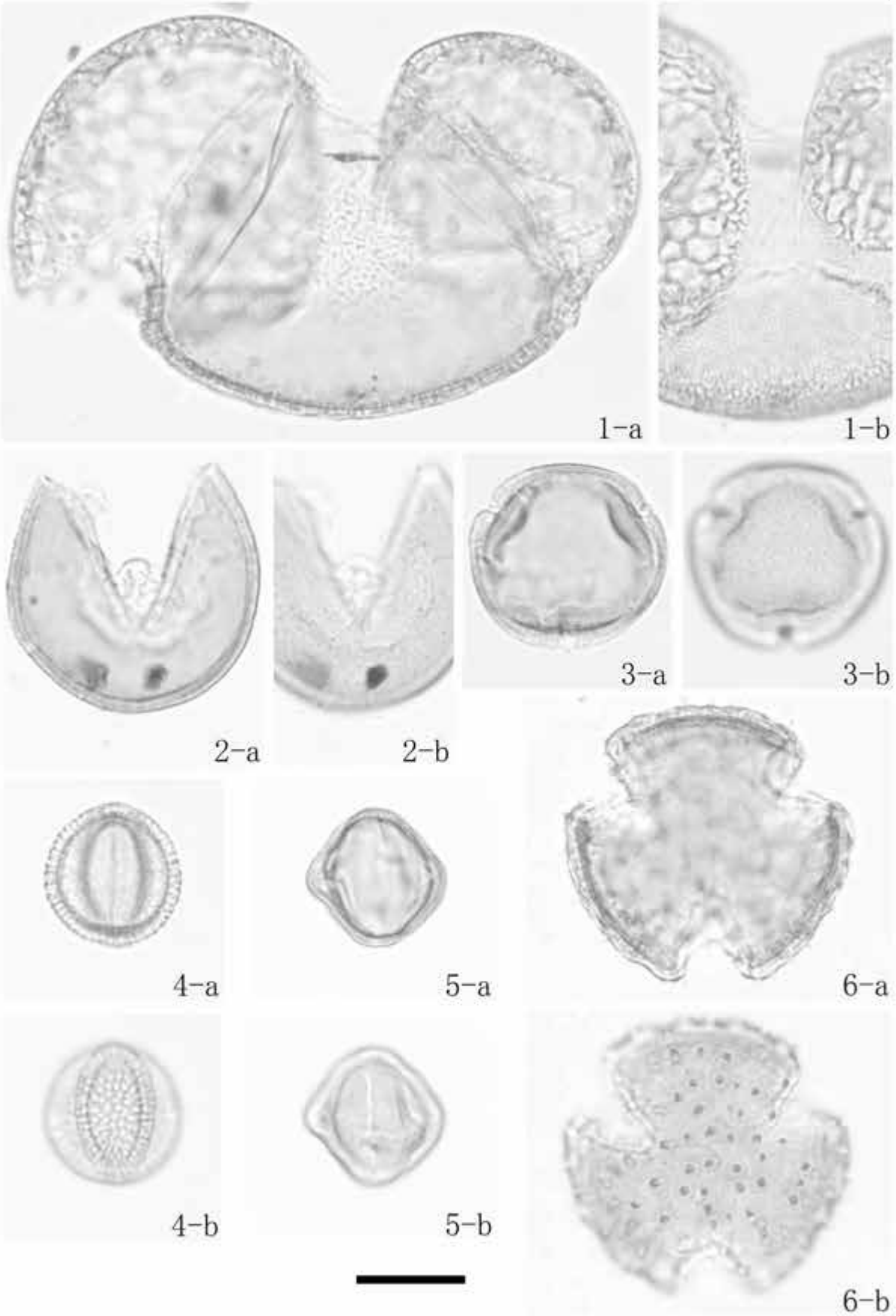


図 59-3
-4
-16
-15
-17
-18
図 62-1
-2
-3
-20
-4
-6
-7
-5
-8
-9
-10
-11
-15
-16
-17
図 62-19
図 62-20
図 62-21
図 62-18
図 63-2
-3
-6
-8
-9
-10
-12
-13
図 66 -1
-2
-3
-4
-5
-6
図 63-14
-15
-13
-10
-9
-8
図 63-18

図版15





図版　大倉幕府跡の花粉化石（scale bar：0.02mm）

1：マツ属複維管束亜属　PLC.SS 4582　No.4
2：スギ　PLC.SS 4584　No.4
3：アカメガシワ属　PLC.SS 4587　No.4
4：アブラナ科　PLC.SS 4580　No.4
5：ワレモコウ属　PLC.SS 4581　No.4
6：オミナエシ属　PLC.SS 4583　No.4